291
60

畠山氏ニ関スル書

一 紀州畠山記 壱冊

一 両畠山系図 壱冊

一 畠正卜山年譜 壱冊

一 畠山卜山一幸年 〃

一 紀州畠山記 自家蔵本

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03986

紀伊國守護職 畠山記

畠山氏ニ関スル書

89 県立串本古座高校所蔵 中根文庫 資料番号 03986

291
60
1

名座高校図書館
26.10.21
蔵書NO. 3986

中根文庫

和文

一 元御

一 元年国守薩ト共ニ鉅作建設ノ挨拶ヲ

二 畠山政長以後ノ五畿内ト国保守ノ

国元ニ好在等当ル

本書ニ書カル当ル畠山氏ノ借状ノ事

ニ国史編纂事務所ニ於テ

ロ畠山記 一冊本二巻

明暦二年癸丑ノ十報四年辛卯ノ

正記シタルモノ 本書ハ足利季世記

物ナリ

○足利季世記 一冊本七巻

上巻ハ季世ノ歴史ニ

県立串本古座高校所蔵 中根文庫 資料番号 03986

[illegible]初期天皇の系統 十二巻 己巳より乙丑に至る凡一千年間の歴史ト
[illegible]

第一巻　自神武天皇至開化天皇
第二巻　自崇神天皇至開化天皇
第三巻　自垂仁天皇至仲哀天皇
第四巻　自神功皇后元年至応神天皇
第五巻　自仁徳天皇至雄略天皇
第六巻　自清寧天皇至欽明天皇
第七巻　自敏達天皇至皇極天皇
第八巻　自孝徳天皇至天智天皇

[illegible]ト史料集智本ニ依リ田村圓澄の会報ヲ加ヘ八巻ヲ作リ
四 昭和十七年十二月廿二日着手 同十八年一月四日終 但日眼霞ニ視覚不
[illegible]事本ヲ止ム

七十ヲ等中根 識

紀年図字復稿
目次

…守護　佐東事建（一）　注球・数字の下数ヶ
…守護代　佐東重遠（二）
〃　鴻津重遠
〃　添状治
〃　演墨治
…守護　畠山国清（三）
〃　細川業重（四）
〃　山名義理（五）
〃　大内義弘（六）
〃　畠山基国（七）
〃　畠山満家（八）
〃　畠山持国（九）
〃　畠山左近守政長（一〇）
畠山元　畠山左近守政長、事三
畠山　畠山義豊（一一）
畠山　畠山左近守尚順（一二）
自細川政元至大内義興 五
〃　自至桂昌丸 事六
丹波元　流元汉落ヶ事三
〃　其日常盛房早世ヶ事
〃　晴元　健生ヶ事
若狭元　郡ヶ事四

下ノ数字ハ元ノ順番也

（常盛房早世ヶ事略）一
（其後ハ信孝ヲ上総ヶ事略）二
（政元生涯ヶ事略）三
（流之後事略）四
（桂昌丸ノ事略）五

舟岡記　佐々木宗頼ノ事　五
〃　舟岡山合戦ノ事　七
〃　近江ノ九里御保事　七
〃　細川方名ノ事　八
守護記
〃　三好希宗於直方遍知賜事
〃　付三木方参ノ事
〃　公方義稙上洛国不安ノ事
〃　香西四方左エ門鏡孔ノ事　一一
〃　桂宗琢ノ事　日野大納言対面
〃　公方宮御在行給事　一七
〃　三好記　元長宗三不快ノ事
〃　畠山上総介生害事　二一
〃　畠山卜山ノ事　二九
〃　三好行賢守合戦ノ事
守護　畠山左衛佐守護ト（三三）
守護記　物本守護合戦ノ事　三八
〃　相公ノ武勇事　四一
〃　三好帰国ノ事　四二
〃　常桓落向ノ事　四三
〃　三好治為守護ノ始事　四三
〃　三好記　三好筑前守自害事　四四
〃　山科本願寺焼事　四五
〃　所々一揆蜂起ノ事　四七
〃　伊丹城合戦・晴元敗ノ事　四八
〃　茶湯煙管ノ事、天王寺ノ事　五一
〃　今川蒲冠ノ事　五二
〃　細川晴元没後事　五三
〃　一揆ノ城攻事　五四
〃　木沢左京亮ノ事　五五
〃　細川氏綱出生ノ事　五七
〃　又天王寺ノ事　五八
守護　自畠山稽座ニ守護ヲ置（四七）
三好記　阿波衆氏綱ト一味ノ事　六一
〃　日吉坊元能ノ事　六二
〃　三好擬本家追伐事　六三
〃　公方坊入城ノ事　六四
〃　公方木沢本陣出奔ノ事　六五
〃　舎利寺合戦事　晴元宮勢没落　六七
〃　細川吉慶討死事　六九
〃　到教寺焼　七一
〃　畠山家伊事　七二
〃　細川系傳　七三
〃　好家譜　七四
〃　方領合戦ノ事　七六

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03986

三林元　川原合奉事
〃　播磨立事
〃　栗三出作事
〃　江口城考落合事三新免ノ事
〃　大樹ト時元非役落ノ事
〃　伊丹大和守心替ノ事
〃　筒井定次逐電ノ事
〃　筒井定慶山居出家ノ事（六三）
〃　勝宗卿参内事　上京時
〃　御門主参勤ノ事
〃　細川武蔵守下国ノ事
〃　長曽我部土佐守拝領ノ事
〃　松平源氏ニ系図ノ事
〃　十万石ノ事
〃　時元入道ノ事　附法ノ事
〃　徳川家相続山谷奉ノ事
〃　神祭同名新並当流ノ事
〃　今井田名跡ノ事　一名井田名ノ事
〃　高野山ノ事
〃　本宮焼失ノ事
〃　時元逝去ノ事　接状
〃　江外勇気ノ事
〃　今奉生業ノ事
〃　寄進院原市ノ前後ノ事
〃　三人ノ嚢ト松永不和ノ事
〃　松永領西七作ノ事
〃　阿波守殿家督相続ノ事
〃　阿波守殿ノ葬礼ノ事
〃　大仏殿焼亡ノ事
〃　松山法印ノ事
〃　慶秋公方ノ一事殿原ノ事
〃　法号出作ノ事
〃　高公方御上洛ノ事
〃　本国寺合奉ノ事　附ノ事
〃　八津浦畠山屋敷寄附ノ事（八七）
〃　畠山左衛門佐宣政（八八）

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03986

守護

佐原十郎左衛門尉義連
義連ヨリ三浦大介義明ノ三ヨリ
守左衛門尉ヨリ大多和ノ長吉
一討死ス長十寿永年中義経ニ
自死ヲ相ヒ普請ノ木像ヲ刻ミ
元年摂外一谷鵯越ノ先陣ヲ
守護トナル和泉
ヲ死ニテ義連幸ヒニ後未
御館野詰駅家雑事自今以後無指事外不可置守護
人就之諸事可為仙洞御計之由被定之トアリ此ヨ
リ後百二十餘年ノ間守護ヲ置カレ事アル時

佐原太郎兵衛重遠郡司等其北条家下文
重遠ト義連ノ曽孫タリ湯浅宗重ノ後湯浅七郎兵
衛尉重遠ト称ス因中ノ事ヲ掌令セシト見ヘ
須賀神社古文書
須賀治 同上
朝治ハ大和源氏ノ祖頼親ノ後八郎光治ノ孫
ニテ幕治ノ子タリ基治ト胡治ノ弟ヲ藤人ト
神ノ人ト至八郎トイヒ蓮ト尊卑分脈ニ出セリ（以下続各土地）

ト称ス神社ニ宝蔵ヲ置カレシヲ
知ラセタマヒテ其姓名ノ称
ヲ定メタマヒシト（以下続各土地）

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03986

守護

畠山修理大夫國清

國清ヲ足利上條介等義ノ孫左京家國ノ子足利太郎義純五代ノ孫左京家國ノ子足利上條介等義ノ時畠山重忠誅ヲ被ルヤ一重忠ノ女ヲ足利等純ノ妻トシ畠山ノ家名ヲ相續セシメ畠山遠江守等純トイヒ足利家ヲ義純ノ弟等氏相續ス等氏ノ後等氏ヨリ至リ征夷大將軍トナリシヨリ畠山家同族ヲシテ世々管領タリ國清ヲ近衛將監ト改官ヲ經テ修理大夫ニナリシ關東ノ執事タリ

畠山系圖ニヨルニ在田郡中野村ノ城主ナリシ畠山下總介義純母遊女富山重忠後家等純ヲ生ミ義純ヲ以テ畠山氏ヲ稱シ建武年中紀伊國ノ守護トナリ

在田郡中野村ノ城主ナリシ畠山下總介義純母遊女富山重忠後家等純ヲ生ミ義純ヲ以テ畠山氏ヲ稱シ建武年中紀伊國ノ守護トナリ

如意輪寺ト號ス

畠山文書ニ依レハ義純ハ建武元年十二月廿四日國清ノ文書トアリ

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03986

仁元年永元年十月守護を勝ちとり赴れとも
郡名草郡秋宜村秋汗村名草郡秋宜村龍喜寺又宗栖
院か開事等の文書か捺てる事とか今村
一て道号と佛一自治元年寺護代十山口兵市
明応又大和左近藤人平定富名草郡秋宜村龍喜寺文書
藤内左衛門入道浄当村名草郡田屋村
〇名草郡幡川村禅林寺蔵もの守護次第か第一建
武年中官方淺間入道砂彌覚心第二甚子忠成第三
正平年中官方保田山城判官宗業とあり是三人ハ
国清寺護の時　朝一　宣れ一なれとも甚勢
徴一一但し大帰郷近辺小峰令在れ一なる一
し故ニ其他国中の文書か其名見ニ

細川淡路守宗英禅林寺ヲ禅林寺ヲ護次第
正平十九年比たり守護代十野備某又某郷左衛門
といふあり（以上紀伊続風土記）

畠山義深

義深、在依守家国ノ次子、三郎左衛門尉、
伊予守護、康暦元年四月十三日逝去（畠山系図）

六代目ノ畠山殿ノ在治守義深ト云ハ初ニ三管領ノ其一ナリ云々（惣持寺由来記ニ畠山家傳）

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03986

山名修理大夫義理

義理ハ足利義重の子 山名義範の六世の孫 仲直守
時代の子孫 永禄元年九月 紀
行国ヲ所務領地之宮方没落之向 翌日守護人以下攻
入在田郡湯舟峯之向所々之陣城没落ニ永和五
年二月山名修理大夫向陸奥前司伊豫守ヲ入紀
州在田郡藤並ニ湯舟城没落、同十一日神躰差遣軍
勢於名垣城之麓由云ニ明徳記曰明徳
二年山名一族謀叛ヲ伏
リ於リテハ同三年大内義弘の為ニ退治せられ義
理由良ヲ逃れ子息以下二十人出家ト思ひくゐ
行脚トけり義理ハ五十七歳ニて同ヘし（紀伊続風土記）

（後思味死ス永和四年十二月廿三日ノ条ニ）
傳国 信宇護山名峰理度寺ノ条ニ

大内左京権大夫義弘
義弘ハ百済国餘璋王ノ後
従四位上ニ叙ス明徳二年山名氏清ノ時山名
氏清ヲ亡シ一日三年和泉紀伊両
氏清ヲ亡シ北ノ功ヲ以テ
ヲ陽ニ朝位庶永七年和泉ノ堺ノ浦ヲ掠リテ粉
ク義満公留山墓由断次第
攻ルヲ義弘軍敗レテ敵ヲ
少勝トイヘ敵永守護代ヲ陶弘部
ス。

（紀州留山死カ）

大内ハ其ノ山名氏ヲ破ル多功ニヨリテ
南朝朝合一ノ交渉ニモ南朝ト蔭奔ノ間ニ立テ斡旋スル所アリ遂ニ

六

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03986

三ヶ見ル二至テハ、從ノ所領、和泉、紀伊、長門、周防、石見、
筑前ノ六ヶ國ニ及ビ、頓ニ其ノ
事アリ、再降之ヶ島ニテ、一旦供、ヘタル紀伊、和泉、守護ヲ、奪ヒ
トラ、又一旦供、ヘタル紀伊、和泉、守護ヲ、奪ヒ、其ノ
除ノ之ヶ為ニ、建永元年十月ニ至ヶ、遂ニ叛逆ヲ、企ルガ、レタル為ノ
奔ノ、大軍ヲ引率シ、京都ニ攻メ上リ、
和泉、紀伊、於テ、再ビ

畠山右衛門佐重國
重國ヲ國諸軍ノ内國守護ニ任ジ守護ノ子孫ニ
永元年始メテ、管領職ヲ、補ス、七年大内義弘ヲ平ケ
一功ヲ、紀伊ヲ、守護ヲ、加領ス、紀伊大和河内
三國ノ守領ヲ、世ス、建永元年、職ヲ、辞シ、剃髪シテ、長
福寺德元ト、號ス、元年十二月十七日卒ス

（紀州畠山記第三）重國右衛門佐、法名長福寺德元、

昌山在限守満家
満家ま室内の子なり管領職小神一三国の守護た
り左衛門督か住一院三位か教名を真観幸道
瑞といふ二長元年管領を辞し
日幸を称河寺
家重開

（花押）昌山和尚（三）満家幸子年六十三

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03986

畠山左衛門督持国
持国ト弟家ノ子タリ嘉吉二年管領職ヲ継ギ
三国ノ守護ヲ兼ネ勢ヒ権門ニ倍セリ
トイヘドモ後刻賢ナル徳本トイヘル
元年冥福ヲ祈ラン為ニ寺ヲ建立シ
東岳頭大禅定門
享文十年

（法名畠山記第六）

畠山持国ノ法名宗慶ト号ス同、南朝ノ残党紀州ニ拠テ
ハカラフ方ニ　南方退治　発向

（足利学校古一畠山記ヲ引用ス管領職及ビ
畝仁乱ノ起リシハ、初畠山ノ家ニテコワリ、
相論ヨリ、又斯波ノ家ニテコワリ相論ヨリ、
相論ヨリ、人心両方ニ分レ分レニ成シ比、東山殿（義政）ノ
政ヲ執リ給ヒ公方ノ御子ナレドモ人今

九

今出川兼視の細川播磨
居住の南禅山名
接触

出川兼視ノ子ニテサレ共仲ヲ云ヒ
常盛所居ニ誕生アリトイヘハ、
入道持豊ヲ怨ミ、今出川殿ト
両方ノ大乱トナリ、洛中今発
アリ、今出川殿ハ山名方ニテ、
後ニ義尚ト申奉也、文明五年ニ大乱一統シテ勝元理運ニ成リ山名
降参シケリ、其間ノ山名ヲ細川ニ
ア（下略）

応仁ノ乱

政長名跡三条

畠山尾張守政長
政長ト持国ノ第持富ノ
持富ヲ養子トシテ畠山
ヲ第ス。然ニ生セーカヲ
ヲ以テ神保遊佐等政長ヲ
川勝元ト特軍家ヲ計ラ政長ヲ
ーヲ以テ領国ノ守護タリ従四位下ニ叙
ーヲ畠山ト称シ任ト会ニ
任ス第ス。左衛門督ニ少輔ニ
典ノ為ニ攻ラレ応仁二年四月二十五日ノ暮
数十法燈ヲ掲ケ寺ニ火ヲ放チ自
（畠山記 応仁記 史料綜覧巻四 畠山政長自害之事ノ条）

県立串本古座高校所蔵 中根文庫 資料番号 03986

柳文明一統ヲ以来 畠山等祖ヲ断キ逝キテヨリ、故キ人トテハ在張行政長計リ治テ、其人在ラ〻ト雖モ、其ヲ信ヲ在ニ信ニ人数ト一再ト管領ヲ成リケレハ三管領四職ト世ニ称シテ云ヒケルニヨリテ、政長ト其争ヒ不和ノ事ヲ聞キ及ヒ、政長ニ恨ヲ含ミ、畠山紹料ヲ攻メ、政長ニ味方スヘキ由ヲ書状ト又事ト四職ト十カ国ノ諸大名ニ触レ廻シケレハ、畠山ノ人々色々ニ分レテ、或ハ政長ニ与シ、或ハ紹料ニ与シテ、已ニ上京ニ両軍ノ勢合テ十万余騎ノ事ナレハ、京中ハ申ニ及ハス、天下モ騒動シケリ。

政長ト其争ヒ不和ノ事

畠山ノ在陣ト政長ト不和ノ事

管領ノ在陣守護共ヲ招キ、軍評定アリケルニ、細川右京大夫政元ヲ聟ニ取リ、勢ヒ強カリケレハ、桃井宗根山名一色等初陣ニ加リケレハ、政長方ニハ遊佐、畠美、椎名、黄志人々ヲ始トシテ諸国ノ兵ヲ集メ陣ヲ取ル。

管領ノ在陣守護共ヲ招キ軍評定ノ事

桃井宗根山名一色等初陣ニ加リケレハ政長方ニハ遊佐畠美椎名黄志人々ヲ始トシテ諸国ノ兵ヲ集メ陣ヲ取ル

[illegible]

明ケレハ、敵陣ヨリ如何ニ重リ四方ヨリ来攻ルトモ、ヨモ破ラレシト心ヲ緩メ居タリケン、政長ヲ亡ス可キ謀ヲ廻ラシケル。

向陣ヲ攻ル事

其夜ノ子ノ刻ニ、政長ノ陣ヨリ時ノ声ヲ挙ケ、鬨ヲ作リケレハ、敵陣ニハ是ヲ聞テ、扨ハ政長ノ方ヨリ夜討ニ来ルヨト心ヲ驚カシ騒ケル処ニ、政長ノ勢ヒ既ニ陣ヲ破テ入ケレハ、敵陣ニハ周章騒キ迷ヒケル。

政長ノ勢ヒ既ニ陣ヲ破テ入ケレハ敵陣ニハ周章騒キ迷ヒケル

其時ニ、二度富家ノ再興ノ時ヲ待ト宣ヒケレハ、平ノ申ケンハ其ノ後ノ事ニ候ヘ、今ハ御供仕ラント申シケレハ、三郎左衛門ヲ是ヲ最後ノ御供仕ラント申シケレハ、政長大ニ怒リ汝ニ不覚ノ申ヤ有カナ死ス時定メハ有ト雖モ君ヲ落シ御代ニ付申サハ大事ナシト云ヒケレハ、平ノ三郎ハ、城中ノ方様ノ御ナクサミニ参ラント舞ヲ舞ヒ、歌ヲ謡ヒケル。

平ノ三郎ハ城中ノ方様ノ御ナクサミニ参ラント舞ヲ舞ヒ歌ヲ謡ヒケル

其ノ妻ハ、是ヲ聞テ、城中ノ方様ノ御ナクサミニ参ラント舞ヲ舞ヒ歌ヲ謡ヒケルハ、若君ヲ抱キ奉リ、女ト共ニ落ケルカ、ヤカテ若君ヲ抱キ奉リ、女ト共ニ落ケルカ、ヤカテ若君ヲ抱キ奉リ、女ト共ニ落ケル

中ニ入レ已ニ柱ヲ男ノ風情ニテ敵ヲ防ケル

県立串本古座高校所蔵 中根文庫 資料番号 03986

畠山重代ノ腰刀　雲田口藤右馬允ヲ以テ筒ニ入テヤオヒ、敵陣前ヲ通リケン、敵方ニモ桂ヲ見知タル人ナケレハ無左右是ヲ通シケリ

高麗和尚ヲ印度婆羅門ト云ヘルカ

政長自害

華厳経ノ力

サテ両ニテ申雑ヲスヽメテ大和国奥郡ニ落シ申ケル、明應二年四月九日ノ夜ニ入テ政長ハ心ヤスレトテ、葉室大納言光忠卿以下僅ノ人々ヲ召後ニ立シテ、ナヲイヨ〳〵腰ヲ打給ヘトモ貫而キレサリケルカハ、ナヲヤリ給ヘハ、ソハナル、ヤゲンニアタリ、ヤゲンヲハラヲ切ケレトモ、猶二重トヲレケル、扨コソヤゲン藤四郎トヲ申ケレ、扨テハ重代ノ刀ニテ有ケリト心エテ喜ヒ、舟下ニ備後守カ切リ落シ、信國ノ刀ヲスイテ、已レカモモヲ二ツ突通、イカニモ双ヨレトテ政長ニ奉ル政長是ヲ逆手ニ取ナレ、腹十文字ニカキ破リ先忠卿ニ刀ヲ渡シ奉ル其後御前ニ腰ヲ切リ三百餘人ヲ不残自害シ城ニ火ヲツケケリケン

畠山陣ニ少御前

義豊ヲ捨国ノ妻子ヲ前ノ如ク少御前ヲ伴ヒ、法輪ヲ善徳寺ト云

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03986

畠山左張宇尚順
尚順ヶ政長の子ナリ紀州ヶ逐ラレ明應八年正月義
稙ヲ攻殺シテ父ノ讐ヲ報ヒ三國ヲ領シ遂ニ河内ヲ
掌ノ為ヶ赤沢宗益等ヲシテ尚順ヲ攻メシムルニ
苦戦シテ尚順再ビ紀州ヶ遁ル宗益ヶ義堯ノ子頂
正忠義英ヲ取立テ河内ノ守護職トシテ高屋ヶ在
城ヶ尚順ヶ廣莊ヶ陣ヲ割拠シテ上山トイフ
後上山兵ヲ起シテ細川政元ト合戦シ大ニ其勢ヲ敗
リ永正元年上山義英両家和睦ヶ資家ヲ植長ヶ
嫁シテ婿ヶ住ヶ天文元年湯川直光ノ為ニ
亡ヲ攻ル同三年迎ヲ直光ヶ與ス尚

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03986

順大ト改ム 洪諡ナシ 寛永十年 光明寺ニ葬ル 享年死す

（畠山氏ニ関スル史料ハ畠山氏ノ一篇ニ集録セリ 第六ノ条）

畠山氏ノ嫡子尚慶ハ大和ノ奥郡ニカクレテ オハシケルカノ侍木沢ト云モノ有、在外生言ノ後ハ何ニ逐入レントヤ 胥スイニ徹シテ思ヒケル、甘志ヤ天ニ通レケン、和泉ノ境ニ蓋行アキクニ 時ナヤ大雪降ル時ナヤトヨアキクノ門ヲトヅレケルニ 夜イタクフケテ 後ニテ名乗カ小門ノ松ニテタヽキ落シケレハ、内ヨリアヤシミ問フ所ニ 答ヘケレハ、喜ヒヤスレテ奥ヘ入ケレハ、屋形ヨリ上ヘ 上ヘ 上ヘ

高屋城ノ築ク

シ事ヲ訴ン心ヲ以テ、江内ノ子弟ヲ率シ、柳井兵庫ヲ打タント思ヒシ也、其時兵粮ナクシテ不叶、立返シケリ、其後杉原喜藤井下貴志宮崎安見本沢杉原遊佐江内寺ヲ初トシテ、心ヲ人衆ヲ聴賜ヲカタラヒ集メ、紫内ノ番ノ知リケレハ、手勢ニ在ケシヲ柳井兵庫ヲ打取ケリ、両度ノ本意ヲ遂ヒ、江内ノ寺ヲ、安国天皇ノ御為ナレヲ要害ヲヨレレハトテ、陣ニ築キ立ラレケリ、

（同上鳥屋打死之事）

畑川政元ヲ害シ、頓テ京都ヲ大将トシテ、妻鳥源左エ門和田須賀初メ三百餘人ヲ向ケレハ、日々合戦ヤムトキナシ、和州ニハ政元自身打立テ、討死カ城ヲ攻責ケル、新名備前カ内ノ勝者大将ニ鳥屋ヲ侍、父子一番ニ渡リ合ヒ、散々ニ戦フ、子息ハ十六歳ニテ討死ス、父ハ痛手負ケルヲ郎等ドモ返シ合、肩ニカケテ城中ヘ引退、其後敵智伊勢守ヲ城ヲ明ケ落行ケル、政元打取ル首トテ持セテ上リケルカ上実検シケレハ、紫ノ鳥屋カ子息ノ美葉ノ児ナリケルカ、首ヲ母儀キスニヤスラ実検シケレハ、袖ヲ絞ニ御泳詠有

子ヲ思ノ焼涙ノ雫子ホトヽキス声ヲ聞ケン

同十月五日信貴城ニ畠山衆勢ヲ集ケル、奇ヲ誉田遊佐散々ヲ合戦、おそこ十四人也、サレトモ城ノ不落ケレハ政元ハ先ヘ上洛アル、此ヲ中間ニテレヲ為ニ高屋信貴城ノ築ケリ

同廿五日信貴城合戦之時、遊佐九郎次郎、平ノ三郎討死之由注進ス月卅日到来畢、言語道断、且忠節、且不便、雖然諸

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03986

陣無異儀相聞候由、先以大慶候、仍席次ヲ為時要候、仍細川
式部大丞不及珠略通、神妙候、付テ木中務大輔内書事、則遣
候、改近年陣下述候旨ニ
十月十七日
留山左張守トノヘ
判

（同冷泉泥落之事）（以下無関係）

（上略）幕府御所ヲ不叶トテ同月廿六日（近江国朽木ニ落サセ給フ、京ニ
（細川民部少輔ヲ国方明ヲ右京大夫ニカウテ総領ノ聟ニスベシ同卯月廿七日幕府ノ御上洛ノ
先ヲ和泉ノ境ニ陣ヲ看アル、ニニヲ幕尹ト市政名アリ後ニ幕槙トモ申セリ
中国ヲ大内左京大夫、大友備前守、大ニ宇小貳、留山左張守御屋
某仲五奇内軍勢馳セ参リ、境ヲ堺上洛ヲ由セリ、（下略）
（同幕甲陽武勇之事）

永正五年六月八日ノ知尹公方中国ヲ
ニ小番ヲ勤仕アリレカハ、公御政上人ヲ
ヨリ還ラン、七世ノ父母ノ途トモカヤアンラ
ントテ、私君ハヤク御入洛アラハ九郎カ
コトハリ也、留山高屋ノ初ノ旧功ノ人ナリ
名心地ニテ上下悦ト思ヒケリ、同年七月朔日ニ征夷将軍ニ還任ヲ、先
公方ノ御官ヲ、当御所本位ニ被ト給フ、帝王ニ重祚ノ御例アリ
ヘトモ、本朝ニハ公方ノ還位ハ是初トソ聞ヘ、
御政ノ御善被アリ、其頃永正六年十六月廿七日ノ子刻ニ御政中ニ出賊
シノヒ入御重宝ヲウハヒトリケリ（以下無関係）
（同幕時御誕生之事）
（此項ニ足利幕統ニナヲ生ニ人ヲ幕松ニ頼ケニ人ヲ細川治元ニ頼ケ敗
北ノ事）

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03986

ニ在ルモノ、義晴ト者ト
「日萱宮人云戦之一事」
（改頂細川右京大夫淀元勢ト
国勢攻之ニテ舟波ヘ落行義植モ舟波ヘ行ニ）
「同住ニ本宮ニ頼ム事」
（改頂義植ハ住ニ本宮勢ニ味方ヲ頼ム為ニ下山之勢ヲ従ハレニ）
義植舟波ヲ
発ス書上ル
（同舟岡山合戦之事）
去程ニ義植帯所ハ舟波ノ内藤カ館ヲ大内左京大夫、畠山尾張
守、細川京兆、同右馬頭、伊勢兵庫頭、京兆住吉、土州長浦
守、大友備前守、付ニ木沢ニテ御ヲ破、畠山修理大夫、遊佐河内ニ、神保ノ相長ノ九郎左エ門、赤会庄
ニ、同大夫左エ門其勢ニ為篠神川筆レテ書上ルレハ、其方ノ

舟岡山ノ事
義晴ノ舟岡山
上ル付ケ

細川澄元ニ好ク半ノ川ヲ有ケレハ、舟岡山ノ陣城ニカヽニ、澄元ノ妹聟細川右馬頭政賢ニ畠山上総
介ノ若党、遊佐河内守ヲ大将軍トシ、好笑刑部大夫ヲ副将軍トシ、三百餘人ノ
陣衆ヲ相ソヘテ侍カタメリ、大徳寺、今宮、十川辺ニスキマナク陣取、吹
聲ニ、大将軍右京大夫、舟舟住ク於而刑部大夫以下ノ軍ヒ、三百餘人ノ
雲霞ノ如ク取巻ク形ニテカヘタリ同八月九日ノ巳ノ刻ニ、長坂山ニ陣取ヲカヽル方ヲ
ハ、付ニ木沢ニ有ケル細川右馬頭政賢ノ軍勢一番ニカヽリ、総舟、
安富、神保、平井川ヲ切ニシテ、上ヨリ下ヘ切ニシ、二番ニ内藤備前
守、河内守ヲ初ニ紀州ノ諸勢、破レ、陽徳寺ニ、キツカセテ責ル事ハ言ニ及ス、
百騎餘ヲ急ニトリヨセキ、オメキサケンテ責ケレハ、大内左京大夫馬廻ニ
付ノ衆刀ニテ、向ノ敵ニ、好笑刑部大夫以下ノ軍ヒ、三百餘人ノ

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03986

ニ十三ヶ年ニ先達ト防戦、大内方ヨリ度々ノ使者、郎等レモカケ隔クフセキケルニ、依テ本望ヲ遂ケン、ニ好不叶刀退、大将右馬頭政賢小川ニ球止リ打死トタマヌ其間ニ先京洛ヲ治ル申セトモ、猶元ヲ好陣供申ヲ撰陸、詰行ケン趣而討死ニケニコロクトシルシケル、兼松家ヘ任丹波ノ書メシカトモ、丹岡山衆おてケレカハ、早ヲ打退レ生浦ヒエ治行ケン、公方茅拉ト吉京大夫ヲ国ハ京都ヲ陣ヲサセケル、治中無等由ニテ、同年九月朔日坤般治ヲ法住院殿御使番トシ、牡山ヲ治ヘカ城陣ヲ備ヲ申サント祝着ヲ、督ヲキレヲ大将ニトヨメキ合ケン、然度合戦トトヘニ大内方ノ思ニヨンモノセトトキコヘレ

（同近江ノ九里ノ秩詳事）

ニ十三年

其頃近江国住人九里備前守、山中新左エ門トテアリ、ヲ好ト一味レテヤヲヒハ、公方ヲカクレ申、大舟殿ノ下知ヲ背ケン、山中ハ詩元九里ハ権威リ勢ヒ強大ナレハ、左右ナクヤヘキヤウモナク、万頼ヲ不叶如何トクメラヒケル会度ニ三好舟岡山ニテ按舟ノ大忠アリ、従四位下ニ補セラレケリ、然次ニ九里ノ被談ヘキト、ヨソカニ公方ヘ申上レ御方誘ヲ申ケケル、扨ヲ定頼任誇ヲ言アルレ、九里ヲ御供アルヘキトテ、移村ヲ汗宇、柏崎理右、田中二階堂御供ニ九里備前守ヵ鈴ヲ入給フ、九里驚先ツ色ヲニヲナレ差リ、扨漸ノ洞ニ御供衆ヲ二拾ヲ次酔レヲ、九里カ云ヒ枕ヲ立ヲ入ナレ治ヒケルトキニ、多賀中務宗、吉田永原ナトモリ御加勢ニテ能評アル住ニ九里カ殺ヲ取着キトキノ云フ上ヒレ、定頼聚ヲ風情ニテ、コ如何トヲ立ヲ太刀取ヲ、捨ニ九里ヲお取ヲニ三頼ニ随ヒケル、カクテ大内政在京十二年ノ間都ノ接ヲ無私四海ノ

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03986

浪を治りケル、諸人家ノ本意ヲ達シ悦ヒケル、中ニモ永正十七年丁酉朔
人名障正方ヨリ門教宗大内殿ノ推挙ニテ
ニ家ニタヘヲ御相伴衆ニ加ラレケル、是ハ武衛ノ被管ナラレカ、古ノ吐ヲ
日本ヲ十二国ノ大名ノ数ニ入レケル、此ノ都ニ被管ノ方多ク、
ニ多キ故、二十年ノ被管ニ候、一度ニ六十六ヶ
中ニ入レケレトモ、京童ハ猶ヲ合子ハシト申シケル、カクテ永正十五年八月廿
大内家ヨリ細川方国
ヲ討シ玉ヒ
ニ日大内左京大夫義興卿上向アリ、都ニハ細川右京大夫
高国管領ニテ万事意ノ方ニ仰ケリ
（以下次回）

永正十六年ノ比、細川右京大夫澄元、三好筑前守イムラヲ有ノ
ヘキトテ、方々ニ通文アリケレハ、実ヲカクレ居テ時ヲ待
ケレトモ、則摂州ニ打立ケレハ池田筑後守カ子息ノ池田三郎五郎時ヲ得ノ馳
セ来リ、人ヲ受ケ摂津国口ノ先陣仕ルニテ有馬郡ノ田中トノ所
ニ上リ人数ヲソロヘケル、国許ヲ国方ノ川原林野馬守正頼、池田孫五郎悪、
並川孫大郎伴党ヒケル同十月廿二日夜打ヲ掛ケ攻ケル、池田三郎五郎時ヲ得
ノ者出来ヒケル由ヲ聞ヒカ、ニ三日ノ間ニ
ニ案ノ如ク来リ、ニ千世餘騎迯打ニセラレテ、ハウく引キ退ク、打取ル
首トニモクセ 阿波国ニ於ル曲ノ注進申シケレハ、隠レ 大ニ感ノ、池田ニ
郎五郎ヲ畠山尚順一国ニ治リテ
度ノ方名トニヒハルニソ キコヘケル
（是前季世記善ヒ輝元国記）

去程ニ細川右京大夫澄元四国勢相ヒ催シ、播州ヲ来ヒ是ヲ聞ヒ、已ニ兵庫ニ
付キレカハ、高国被官川原村野馬守是ヲ防ントテ 越来ル 堺ニ 摂津ニ於テ

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03986

先是ヲ攻ヲトヲ一萬餘騎ニテ取巻ク、澁元ノ本陣ハ神呪寺ノ南境
在山ニ不立ラレタリ、三好松筑前守海部久米川村ニ陣取リ、香川安富
ハ、芥田中村西宮辺ニ陣ヲトヲタリケル、日ヒニ入カヘ〻責戦ヒ中ニ勢
兵數多ク、中ニモ一宮ヒヲ宗服トヲ云ヲ者、継潤石之助、傳業師
ノ藝ヲ毎度一矢ニ二人三人射落サヌハナクリケリ、諸人是レヲ感ヒケリ、
守手ヲ見ヒケルニヲ無相違城ヲ落サヌリケリ、七方国ヲノ由校師上ケル、
二ヲ之数珎勘気ヲ蒙リレカトモ、コノ忠功ニヨリ忽免アリ、本領安
堵ノミニ重而所領給ハリケリ、扨ヲ方国ハ丹波、山城、摂津、味方相
觸レ、永正十六年同十一月廿一日都ヲ立同十二月六日池田城ニ令越
守越水ノ城後詰トレヲ、ヲ帰ル所ニ、芥川、伊丹、瓦林、寺
部、水堂、昆田、大島、新田、武庫ノ方上カラ下ヲ陣ヲトヲ、明ル
永正十七年正月十日二

花さかぬ仁の字ありけり

トコロニテ勝十郎ヲ初メ死ス、威セヌ人ハナカリケリ、京方ニハ伊丹ノ久々知長門ヲ時辺ニ陣ヲ替レハ、同十六日落失衰キヲヒ三好之長、稚法ニ陣取リテ一両陳ヲ大物北ノ横ヲ京方ニ香西紫野ト名ラ切ニ入ケレハ、三好稲掌ト名乗リ、陳合人ニセセセ、史花ヲ散レテ西方相打也、カクテ終ニ京方ハ申ニ打退ケルカ、不叶トヤ思ケン、甚夜中ニ都ナサシテ打上ル、正月十日ニ四宮ニ神事ニ事カリナリ、居ル敵トテ人ヲモセヌ事ナレニ京由神事ヲヘハラテ今敵ヲ初メヘリ神罰ニテカ打負給フト沙汰シケル四国衆ニクルヲオニ責止ケレハ、京方ハ是非ナク京ニ留リ給フ、又伊丹城中ニテケル伊丹但馬守ヒ聞召前守ニ申ケルハ、此城ヲ数年ヲ苦ヲヒテ今日ヲ期ノ寄ニヤカレン事口惜シ、又城ヲ無下ニ明ンモ謂甲斐ナレトモ、二人枕ヲナラヘテ腹切ヲ伏ケリ

（同二月廿七日ニ好笑雲ニ百万迎勅使ニ参ル、同二月廿七日ニ好笑前守ヒ伊丹ヘ移リ給テ、カクテケル表ニ公方ト京ト大不快ニ成ル、廿六日ニ京ヒ大陰元神呪寺ヲリ仕丹ヘ移リ給テ、廿六日ニ京ヒ大陰元神呪寺ヲリ仕丹ヘ移リ給テ、カクテケル表ニ公方ト京ト大不快ニ成ル

忍入ヲ ナハシテ降元ハ、伊丹ノ城ニ帰座有ラケルカ、京兆下ニ書オトサレント
間ニ、詔ニトリマカレテハ、叶フマシトテ、同七日早朝ニ生湊口ヲ指テ落チ行ケル
ニ、川原林刻両守堺陣ニアリシカ、変ヲ聞テ早舟ニテ淀海ニ漕テ元ノ城ニ
入ケリ 京兆ノ軍廻リ、物取ヲ返シ、討死シケレハ、二百餘人討死セ、
其内淡路ノ守忠ハ、無恙播州ニ落チ給フ、三好筑前守之長ハ夜ニ落、
イツクトモナク落ユキ、運命ヤ尽ケン、摂津芥川城ニカクレ住ケル、同八日松
方ノ両ノ口書花押ヲ以テ、三好之長降参ノ事ヲ九条ニ取リ着タリ、三長今度ノ命ヲ助
カラント也、降参申入ラレシカハ、京兆対面アリ
トテ子息芥川次郎長光、同弟孫四郎長則ヲ始寺ヲ出、同十
日京兆ニ対面申レケレハ、上京安堵ノ宿所ニ入給フカラ所ニ書年
方陸トテミ好ト打タレシ細川淡路守政茂ノ子息淡路四郎政
賀、都ヨリ、給リテ生害セシメキ由申ケレトモ、三長ハ百餘遍ノ辛

三好之長自殺ノ事

ニアリシカ、淡路守四郎ト詩ト
八郎介鋳シテ同腹ヲ切リケレトモ、無念ノ
歯長ニアリ、急ニ死ニ、三好カ
給リテ由斉四郎方ニ所望
神通寺ニ申ヨセ、中ニ、彼ニ
ハ、父自害ヲレテ同ニ、何カラ命
行水レテ一度ニ腹ヲ切ラセ
（同付ニ本ノ事）

三年拉入京
付ニ本ノ事
歟ヲ

同五月九日公方様御、近江国観音寺ノ城ヲ陣入給テ、信ニ本六角
大膳大夫ノ頼ハ、御居レテハレケルカ、如何思ヒケン、今度ノ御供申スニ由
申レテ上洛アリケル、其年八月ニ帰国レテ、同廿一日観音寺ノ城ニテ逝去
アル、法名永正十五年十月九日ノ息民綱早世アリシヨリ、深ク十年餘ヒ

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03986

六角寺教寿死

義晴

沢城落

ケレヽ、民綱ニ宗猜相続、男子ナクレヽ、六角瀬ノ二男霜壁度々忠功ヲ
ヨリ、公方管領近年近江ニ詰来、カノ庶坊ヲ頼ミ結ヒ、誠ニ時ノ面目
頼、富家再興ノ運開ケクト悦ヒ給ヒシ間、カノ恥ヲモ忘シトヤカシト
恥ヒテ、人手度ニ表裏ノ上詐ナリト、公方、最後ノ時殿秋申ヲ改易ノ筋ヲ
一ツ振ヒ給ヒ給ヒシ、日出度ク有事ナリ、信名誉ヲ残ス事ナシ、
公方モ高国ヲ力ケナケカセ給ヒ、百首和歌ヲ詠ヒテ、カノ追福ニ備ラレ
ケリ、又歌方ニモ乗レル事有リ、細川右京大夫政元ハ二方ノ軍ヲ打ヤ
負、播州ヲ心ニ懸リ、故郷ニ帰リ、城郭ヲ構ヘ、国ヲ治メ給ヒシ
度ニ書ノ止ノ高国ヲ七レヽヲ好之衆ノ恨ヲヲ解トアリシニ、信世ニ無
等ノ人ヒトニテ、同六月十日阿州ニテ終ニ六十三レヽ成給
業ノカナヒヤ、終ニ平癒ナクレヽ、国、
ヲ、号享禄陸行年廿五歳ト同ニレ、ヲ好ノタレ澄元ヲサヽカノ威勢ニ

高国義晴ヲ攻ヌ

高国文武兼

百国一統シテ威勢万人ノ上ニ、イキヲヒ
（同公方植ト高国不和之事）
其比高国知謀ノ道ニ心ヲカケ、六百番ノ歌合興行ス、年勢団司富
左中将殿高国ノ聲ヲヘ、同ク人
ノ詠ヲ中興ニ、于息六郎殿国ニ命
小笠原備前守、陸ニ伯耆源次百
首ヲカタムケラレ、国ヲ大将軍
ニテ京都ノ目ヤ技カシキニ、公方
ノ中ニ帝座アリレトキ適世者、
ヤウヤアリテ、カノ適世者カ于息ニ
事ニ寄様ヲカラレル、世者公方ノ御意ニ入如何ニモシテ奥ニ管領ヲアラ
ント思召御色ニ出ヲヽ、細川殿ト御不快ヲ萬ヒ寺怪ヲ御振舞ヲ

畠山式部方ヲ催サル

畠山ト京兆不和トナル

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03986

りケレハ、細川方国ヲ城根ヲカタメリ、如何様洛中ヲメサカナヲス、カヘリ上程ニ、大永元年辛丑三月七日公方細川右京大夫ニ給ヒ、淡路ノ武島ヘ御渡海アリケレハ、京ニハ細川右京大夫同名陸奥守以下阿波ニテ、法住院殿ノ御子未タアルカリ申ヲ人ニテ御上洛アリ、左馬頭ニ任シ御元服アリ義晴ト名付奉ル、同八月ヨリ三条ノ御所ヲ上京ヘ引、今ノ柳ノ御所ヲ営ミテ将軍ノ御所トシ給ヒケレハ、前将軍ハ解官ヲシテ将軍ノ職ヲ止メラレ、細川右京大夫方国領ヲ給ヒ管領ニ任シテ天下ノ政務ヲトリ行ヒ道ニ私ヲ以上下喜悦ノ眉ヲ開キケル、従軍尹賢右馬頭ニ任シ西国ノ計法ヲ沙汰セリ、大永四年四月九日先前所募植公ノ所ノ波国ヲ御他界アリケレトモ、其ヲアカリ隠シ申シ人ヲ不知ケリ、大永五年四月方国四十二ノ年疫ヲ出家シテ、子息大郎植国ニ家督ヲ譲リ隠居

義植法名ニ下ル

将軍ヨリ義植解官ヲ方国ヘ給ハル

義植病死ス

方国剃髪ス

香西越智

人夫自刎

アリケル、法名松岳道永ト名付奉ケル、逝レケレトモ猶半疫ノ故ヤ、大永癸酉ノ気ニテ終ニ干命ヲ、同年十月廿五日将軍十八歳ニテ早世アリケル、法号法華院殿ト申シ申ヲ中ヲオロカ也

（以下香西越智ノ事）

舟波国ニ住セシ香西四郎左エ門尉元之事ハ、方国ノ家ヲ万事ヲ執行ヒ、時ハ義晴公ノ御代ノ時ハ、方国殊ニ男色ニテアリケル故ニ、其ヲ振舞ヒケレハ、民人今以テ偉躰ニ思ヒ、学問人ニ越ヘ、詩ヲ作リ和歌ヲ詠ミ、管絃ニ命セラル、香西元光ト申シ、香西越智ノ元祖ト申ス、左馬頭ノ代ニ至リ、細川一家人々日夜土木ノ役ニアヘカリシ中ニ、右馬頭カ人夫ト土一箇ヲ与ヘ、口論ニ及ヒ下部共数百人両方ヘ別レ、互ニ闘ヲ企ツ、右馬頭ノ者ニ城中ヘ入レケレハ、香西カ人夫ヲ下場ヘ帰ケル、下部ヲ城中ニ留メケル間ヲ、香西カ人夫ヲ同ヲヌ溢レ者ヲ告ケルヲ城中ニ留メケル

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03986

お辻ケル、古馬頭驚テ二ハ行事ット同ジ、シカシ〻事也ト申ス大ニ怒リテ、
下人等ニ討レ被ト云ヒ又お梛ヌシキ事ヲアラスト、イカリヲサヘテ静リケル、本ノ西
典厩ノ陳謝ニテ本又、古馬頭ハ日比香西カ振廻無念ト思フ上ニ、此事ヲ
聞ケレハ如何ニモレテ一香西ヲ讒矢アシキ由、思ヒ立ラレケン、寄宿ノ端ヲ
香西ニ文ヲ自カラ矢、衆宗如ト云手書ヲ以テ討ヲ
十四日校ヲ置テ宗好ニ渡シ置ヲ見札ヲ調ケル、其時ニ宗好ニ香西ニ与
ニ違ヒ出ス人シテル、古馬頭見ヲ向テ宗
セハ所領ヲ給ンヤ由ヲクドキテ、能判形ニ絆ニ阿波ノ細川方ヲ三好方ト
一味同心ノ通状ヲ書テ、香西ニ名字ヲ書、盗ニ方用ノ陣ヲ参シ様ニ
讒訴シ、香西迷心無程急キ思案ノ
不安ノ、将用斧鉞ト云ヒ詞アリ、サラハ先ヲ打レ物本
我ニ仕ン事叶ヒレヤトテ、秘ル心ヲタメラヒケル、サレトモ日比ノ方用カ命ヲ惜ンテ

主従香西ヲ
後証ス

卜志ス柳本ヲレハコソ仰ニ背ニテ、柳本ヲ知在ヲ真管ヲ造文ニテハレ、
文箱ニ入レ兼ヲ調置給ヒ、香西ニ、お二手ヲ向ラレケルカ、猶モ香西ヲ
イタハリ殿中ニ召ヲ直ニ宗ヲ召ヲ乳明アリケル其後不被帰由ニ心ヲ大
永六年七月十二日香西ヲ上ノ屋ニ召ヲ
仰ノ心ヲイフヲ如ノ出仕レケル、各政原ニ又遠侍ニ出迎ヒニ香西ノ大
刀ヲ刀ヲ請取ントト問答レケル、香西ヲ大
間暫ノ時前ニ立ケルニ、香西ヲ待カネテ大刀ヲ脇レケル
カ、両人ニテキツト討ト被仰下ケル、古馬頭
ニレテ ハタト志レ、即時ニ首ヲ討落ス宣
ケル文箱ヲ柳本ノ前ニ被遣、兄ノ
キニテヲト悪ニ被仰下ケル、柳本則ヲ文箱ヲ不開持参レ殿中ニ参リ香
西カ宿ノ者ニ被誅、国家ノ為ニ謀ヲリ、サテ恨ヲハラス
ト云ヒ又ハ香西ニ某ヲモ恨ヲ含ヲ不申事ヲ

香西殺ル
香西ノ者柳本
忠明

県立串本古座高校所蔵 中根文庫 資料番号 03986

文ヲ開キ見ルニ不及ト頂戴シ、文箱ヲ返シ差シ帰リ、今更兄縁笠ノ罪名ヲ蒙リ、家祖ノ墓地ヲ失ヒ、百姓ノ株ヲ離レ、宿無ノ浪人ニ成リ果テ、生々世々ノ恩情報ジ難キ事ナレバ、豊国ノ陣ノ先武、兄剣宿ヲ更ニ主税ニ譲レシニ、言語天加故ト云シニタガヘズ、アハレ新墓屋ヲ忠臣ト称シ人々申シケルヲ、カク計リ両月過テ、終ニ丹波ヘ下レバ、彼多助ノ勤倫若干上リテ、尹賢ノ讒言ヲ聞テ大ニイカリ、第一本ノ同心ヲ、早ク国ヘ下スベシトシケルカ、夜ニ入リ嫡嗣ノ庭川ノ綱引ニ出ル事ヲ、家子郎等ノ申ヲ下リケル方国ノ侍ニ寄ル島左兵衛ト云フ義ヲアラソヒ、栃本ノ男色ノ闘ヒヲアラソヒ、某ヲ殿ノ詰ノ為ニ北野ノ宿所ヘ行テ、カヤウニ思立也、貴方日比ノ好ニアラズ知ヲ幸ヒ、同心アリト給フベキヤト申ケレバ、彼方ヘ知ラセノ事ハ、暮ヲ待ベシ儀ナレバ、同心申度ハ偽ニ非ズ、君ト臣トノ上下ノ礼恩義至ニ重ク、エコヒ領掌申スマジト、思ヒ立ル事ナレバ、留メ申ニ不及、早ク下向アリテ、某ニ告知給フ様明ノ夜ハ、某不肖ナリトモ、コヨリ向ヲ一矢仕ルベシト、其方大軍起シ責上リ給ヒ、後ニ、某ニ君臣ノ義ヲ重シ、エコヒ領掌申ス事ハ、別レヲ、心ノ中ヲ哀レヲ、栃本兄弟ニ後ヲ頼ム、睦ヲ厚シ、互ニナリ

城神宮寺城ヲ乗リ蒼責戦ヒテ、同廿日、夜ニ城中ヨリ物ナ
クル退散ヲスクリ、長盛カ役所ヘ夜打ニ入、首廿余打取リヲ返リ入ケル、同
晦日ニ井伊・兼井五郎近国ノ兵ヲ催シ三千餘人物本カ後詰ノ為ニ
出張ス、京方十三騎ノ勢ヲ分テ兼井衆ト合戦シ京方ノ頭二百餘人
餘ク討死ス、薬師寺ト兵木モリ返シ青ノ駒ヲ兼井衆ニ取ラレ二百餘人
討死シケル、ホレトモ京方終ニ打負ケリ、同正月二日ニ薬師寺ハ備前宰相
名ヨリモ薬師寺ハ備前宰相ニ、菊本ハ安藝守ニ在シテ、又右馬頭
戸賢ヲ始トシテ波多野カ分勢リシ処ノ上ノ城ノ責メヲ、神宮寺・宮手
後巻ノ軍ニ敗ヤト聞テ方々ヨリ落ケル、同十二月朔日池田陣ニハ陣多野カ勢ヒ、則伯父ト一味
シ川原林並ニ芋ヶ谷ヨリ、大軍ヲヒカヘケル、京方除カ
ネタリ、然レトモ有馬陸ニ郎殿ノ当永ト一味セハ、各有馬郡ニ陣ヲ

ル、池田ハ池田ノ城ニ楯籠リ敗、落ル人ヲ生ク剛部中島、撃捕ス、
三宅ヲ吹田ニ悦ヒ、河ヲ越シ吹田ニ陣ヲ取ル、道永ハ方伊勢神
戸衆伊丹方ト許ニヒ、同年十二月十二日吹田ヨリ押寄セ責ケル、
三宅吹田打負、吹田ハ十六歳ニ成ケル童ヲ始メ、残ル者ハ百餘人討死シ
ケル、是ヲ初メ百餘人討死シ、仕丹衆方ヘ首トリ取リ来ル、然ハ
中島ニアリシ右馬頭落坚ノ衆ヲ招、川退ケリ
（同柱合戦之事 付日野大納言討死之事）
同十二月十三日ヨリ池ヨリ細川右馬頭落坚、同和泉守漢ニ好ヲ新寺、
子息左エ門督、弟神五郎、川村備後守カ下ニ故落元方牢人衆、陸路ヲ
ハカ本ニ着ク、則々都中島ニ陣ヲ取ル、漢ヒ
年ノ暮シケレ、明レハ天永七年ニ成ケル、二月ニ中島ニ合戦ヲセ、二月ニハ
遠来ヲ終ヒ由聞ヤラレケレトモ、都ヲ引退ク大ニ郎左エ門為手合

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03986

一所有上洛ト、並ニヤウク有リシヲ待給ヒケル間延引トシ、二月三
日丹波ヨリ柳本責ノ上リ、同月四日未明ヨリ葉師寺兄弟カ籠リ
シ山崎城ヲ責ケレハ、則責落、兵備後守落行ク旨聞ユル江城ニ
落ケル、弟共ニハ引返シ自身太刀打シ責戦フ、柳本カ勢ニハ小シカト
シテ、馳ヨリ鑓ヲ共ニ入テ突伏テ、スハヤスクル人ヲ更ニ
被申ケル、葉師寺同ク忠臣二君ニ不仕ト謂ヘリ、行向月下ニテ人ヲ更ニ
陣参可申ヤ、暁勢ヲ見ヤント已ニ草ヲ
道永ノ陣ニ送リケル、山崎ノ城落ケレハ、摂津上郡芥川城、太田城、
芥屋城、福井城、三宅城等同落シニケレハ明退ケル、柳本ハ山崎ニ陣取
リ、堺ヨリ堺陣ニ法連シケレハ、三好左京大夫ハ
ニ、同二月九日ニ堺ヲ立テ、同十一日ニ山崎ニ着テ柳本ト陣ヲ
ヲケ三ヲ、同十二日京勢ト柱ノ隔ニ矢軍シ、廿日許ニ

給ふ、道永馬廻衆荒木又子十四人被ㇾ討ㇾ之、雑兵三百餘人討死す、新方ニて三好手ニかゝり合ㇾ申候、丹波衆八十餘人討死す、富田寺ニ九郎左衛門尉、陣ヲタカヘテレト乗入名乗かけ、一先ニそり返レトモ引ㇾ立タル勢ナレハ、すゝミ返ㇾ合ㇾ戦者ナクテ富田寺ニ通レニケリ、夜ニ入ケレハ互ニ相引ニシケル

（同上ノ方方国ゟ行給ノ事）

同十四日ゟ方々ゟ（各国）道永ヲ御田舎ニ御下シ被ㇾ遣ㇾ行キケル、所ノ衆物笑ニ本望ヲ達レトモ、山城ニ打ㇾ陣ヲ居、阿波衆ハ摂州中筋ニ下ㇾ陣ヲ居、三好左京大夫殿、十三日ニ会ㇾ合ㇾ瑞龍寺ニ参入ケルカ、急ニテ終ニ死ニシケレハ同ニテ、カクテ道永方ゟ任ㇾ申ニ御赦不ㇾ免、同十四日ニ下波ニ帰ㇾ陣ヲ、嫡子聰明院ニ於テ細川殿ニ御対面ヲ遂ケラル、

陣ヲ下ニ居ニ元長ニ帰ㇾ陣ヲ、瑞龍寺ニ於テ、細川六郎殿ト申ハ晴元ノ事也、同名ノ大将トレハ、堺ヲ打立テ嫁ニ向リ、同十七日ニ伊丹城ニ取カケ十月廿八日ニ責給ントテ更ニ不ㇾ寄ケル

（三好政長ト細川六郎殿ト不快ノ事）

元長ニ語ケル者ハ悦ト思ヒケルニ、天魔ノ所為ニヤ、三好孫次郎ヲ、三好筑前守ト申ス聰明ノ子息ニ被ㇾ討ㇾ之後ハ、三好左京大夫ヲ、木沢左京亮ト云所行ヤツラン、惟元ノ出頭ニ成ㇾ之事ヲ内々ニ憑ニ申ケル、元長ニ語ケルハ、細川殿ト三好筑前守ト不快ニテ御座ト思ヒ、急ニ御上洛アルヘキ由ヲ申ケレハ、細川殿ニ於テ、木沢左京亮ニ属シ、故ニ畠山治部大輔ニ於テ、畠山上洛ヲ令ㇾ思ㇾ召、木沢ヲ召ㇾ寄テ事多カレカハ、畠山上洛ヲ令ㇾ思ㇾ召、木沢ヲ召ㇾ寄テ、畠山上洛ヲ好ㇾ遠ニ可ㇾ有ㇾ之ト仰ケレハ、木沢左京亮

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03986

自昨朝テントヲ立テ、晴天ニ乗シ由江海岸ヲ通過シテ、昨夜（十七日）午後四時頃ニ当地ニ着シ、直ニ旅宿ニ投ジ、晩餐ヲ終リ、直ニ就寝シ、今朝（十八日）午前六時ニ起床シ、朝食ヲ終リ、則チ書状ヲ認メ、或ハ名刺ヲ贈リ、或ハ好意ヲ表シ、且ツ当地ノ有志ニ面会シテ、種々ノ談話ヲ為シ、午後一時ニ至リ、当地ヲ発シテ、次ノ宿駅ニ向ケ進行シタリ。

（十八日　富山ニ於ケル出来事）

午前八時頃ニ旅宿ニ着スルヤ、直ニ県庁ニ赴キ、県令大迫貞清君、書記官藤井能三君、警部長三浦安信君、等ニ面会シ、懇談ヲ為シ、且ツ名刺ヲ贈リ、好意ヲ表シ、則チ富山上信会社ノ事業ヲ賛成シ、且ツ当地ノ有志ニ紹介ヲ与ヘラレンコトヲ請ヒ、次ニ当地ノ有志ニ面会シテ、種々ノ談話ヲ為シ、且ツ名刺ヲ贈リ、或ハ好意ヲ表

陽り立光

ス新ヲ三万人馳集シ、六月下旬ヨリ取テ返シ、信州ノ係窗田ノ方ヘトテ二百餘人討死シ、二好遠江守元才上下数百人枕ヲ並ベテ討死シ、北ヲアケテ、同ク阿内宇居城ニ楯籠ル、則吉ヲ攻ル、追懸ル所ニ信州ノ勢馳来リテ尋生ス、宇郎ヲ六月十七ヲ畠山伝次第宣ヲ以テ自害ヲ給フ、哀レトモ云ヘシ、

畠山屋張守退入ニより

(一好死 三前事也ヲ略ス 次第茶筅ヲ畠山ヘ故畠山政長ノ子息屋張守高慶ヲ取立ル、ヲ聞ク、大文三年ヲ取ル、十八年ニ七家ヲ道号ヲト山ヘ号ス、高慶ヲ憎ム、ヲ以テ、高慶ヲ追出ス、ヲ紀伊国住人湯川氏ヲ頼ム、直光ヘ云ヒ紀伊国ノ住人湯川氏ヲ頼ム、直光ヘ云ヒ、ヲ松原ヘ云所ヘ有ヲ以テ、ト山ヘ事)

カ末葉ニテ、人ノ存知ニ居住ス、八王子ノ基一也、越レトモ、ト山大義ヲ以テ、人ノ存知ニ居住ス、八王子ノ基一也、越レトモ、ト山大義ヲ以テ、今年天文ヲ甲午ノ三月ヨリ紀伊国ノ住人湯川ニ門ヲ追出ス、ヲ紀伊国ノ住人湯川氏ヲ頼ム、直光ヘ云ヒ有、受ヲト山ノ人ヲ背レカ、ト山大イカリ不思ヘキヨト諫セラレ、ヲ聞、迎ニ楼ヲ語ヲヒ、ヲカ慎ヲ指ヲ諫ル、ト山ヒ聞エラレヲヤ、宮薙ヲ遣ス、ヒニヲ甚ヲ怪シ、不ロヲ望迎カ慎ヲ攻ラル、ヲ、ヲ聞、ト山家ヲ信ヲ以テ云ヒ、ヲ聞、ト山家ヲ信ヲ以テ云ヒ、ヲ聞、ト山家ヲ信ヲ以テ云ヒ

十徳ノ衣ノ中ヨリ三ツヒキヲ出シ、遊佐ニサセ
レヤウキニ、腰ヨリカケ取手ヲ下ニ引レテ
河内ヲ出ル時、遊佐ト申ス、遊佐ハ根来ノ同ジ
ヨリ取手ニテ引カケレバ、ヤガテ一太刀ニ切伏
給フ、ト山伊左衛門ヲ始メ白眼テ、眼更ニ不開ヲ、カヤウニ大将ヲ
申ス人ヲ大将ヲ討ン事、大功ノ兵ナリトテ皆ヲ捨テ
ト山ヲ指テ逃ケレバ、カゝル事ニ出合ケレバ、遊佐ニ手ヲ負ス、ト山ヲ不叶
山ノ方ヘ人ヲヤリ、ト山ヲ討取ヲ、遊佐ハ河内ニ
取ノコシ、引返、河内ノ一揆レヲ連ノ国ヲ
ケルカ、父ト山ハ、淡路ヲ吐キ、ヲ病ヲ更ニ行事五十五年ヲ送ヲ
下リレカハ、根来無念ニ思ヒ、百余日過ケレバ紀州ニ落ヲ根来ヲ
給ヒ、長ヲ河内ヲ領給ヒ、ヲ人ヲ引ヲ氏ヲ義ヲ給ハヌ、父ト山ニハ

ヲ取ラレ人ヲヤリ、ト山ヲ遊佐ヲ折ヲ得ヲ、
義ヲ、杉原右衛門ヲ、高山惣右衛門ヲ、遊佐河内守ト和ヲノ本ニ左京
長継ヲ家ヲ誉ヲヲ根来ニ一味ヲ、杉原ヲ第石垣左京亮
ヲヲヲ、河内ニヲ取ヲ、根来ヲカクレヲ有ケルトカヤ

（旧三好伊賀守家之事）

同年甲午八月十一日ヲ好伊賀守、同久也等レヲ、
ヘト一味ニ堺ニ於ヲ、楠ヲ城ニ取入ヲ楯ヲ築ヲ、晴元ノ味方ヲ住吉
衆ト中条ヲヲニ出張ニ住吉宇久也衆ト数ヲ合戦ヲ住吉宇
ヲ取ヲ取ヲ、同十月ヲ伊丹ヲ、池田ヲ、ヲ好伊賀守
等退治ノ為ニ出張ヲ、住吉宇久也ヲ潮江左衛門ヲ田中ニ砦ヲ取ヲ対陣ヲ
ヒケル、寺島寺門徒一揆ヲ、ヲ手ヲ無ヲ

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03986

草部ヲ引色ニ成ケルヲ急ニ之ヲ返ス
淡茶裏ヲ好ム五両裏ヲ中ヨリ倖ニ六十餘ヘ討死シテ引ニケリ
話仔ナル一種、仔ノ字ヲ、久迚裏ヲ裸ニ向陣ス、無レトモ本ヲ友ヲ
言色ヲ喰ヲ、仔ノ字ヲ久迚ヲ又昭元工ヲ返ス

畠山左衛門督植長
植長ヲ尚順ノ子ヲ隆三郎トイヒ大永七年ノ頃
尚順薨ノ後ハ家督ヲ植長ト張リ合ヒ懐ヲ不ラシ
ヲ植長天文三年父ノ餓ヲ根ハントシ紀州ヲ出陣ス
執政遊佐長教等ヲ植長ノ第五京兆長経ヲ立ヲ
トシ京ヲ攻ヲ落ス植長紀州ヲ平ケヲ事能ハス
ト根来寺辺ヲ宿浪人ヲ結ヒ畠山ノ家臣長経ヲ殺ス長
教植長ヲ迎ヘテ高屋ヲ入レ植長年分國ヲ治ム同
十四年五月十四日卒ス

（高国記 足利将軍世紀 史籍集覧本ヲ参考ス 柳本賢治ノ事ハ今方子国ヲ参考ス）

其時紀州ノ国守護ハ畠山植長也、又尚警十八歳ニテ入道シテト山ト云
高屋ニ隠ナトリ云ヲ、千貝心ニ入リ、紀州ヲ攻ント云所ニ陣ヲ取レトモ、此高屋ノ

県立串本古座高校所蔵 中根文庫 資料番号 03986

（日上初之弐勇之事）

主程之道永ク翅翔リ朔会大明左卫門、近江国佐々木、能登、畠山、椎名、神保、斎藤、特首院加賀シテ、三万餘騎書上、永禄年、西七条、シテ大和路エノヤト刀迎、廿城ニ一ノ不思議アリ、生国天空、海湖ノ城ニ用ラレヲ故ニヤ、大和路ノ水越トモ道モ悪ニ入ル者生ヲ帰ス事モトニ、水越路ノムラヨリ明道ニテ、千句ノ水越ニカラヲ迎ク、ト山カラヲ出心ヲ悟リ木越山ニ家ヲホリ切、石ヲヲ掛置ヲ以伏出軽ヲ以、四五ヲ、柳井カ人家ヲ五百餘人お殺シケレハ、水越ヲ通ラレヲ名民家ニ入ヲ忠ニ名者アタリケル、ニ百餘人家ヲ平、沖保、二見、尚清、葉駒越ヲ、方々ヨリ又三百人去年ケレハ、柳井ヲ言葉ノ軍ニ打負ヲ、遠ク山陰ニ刀ヲ退リケル、ト山ニ人ノ様ニヲ丹波衆ニ方人計お残シ置ケリケル

悌皆安閑天空ノ帝ニ崩ヲリ、世ヒヒ平城ニ座レヲ白山殿ヲニ、九ニ住レヲ、柳井ハ時者ヲ幻ヲニ千餘人ヲ屋敷ニ駿河ヒ、甘ニ押寄セレハ、極楽院住ヒ已ニ故事ヲ聞ヲ、父ノト山ハ甘此ヲ物ニ寄ヲ事ヲ也、父ノト山ハ甘此ヲ物ニ寄ヲ也、柳井ハ時者ヲ幻ヲニ千餘人ヲ屋敷ニ駿河ヒ、甘ニ押寄セレハ、極楽院住ヒ已ニ故事ヲ聞ヲ、父ノト山ハ甘此ヲ物ニ寄ヲ也、父ノト山ハ甘此ヲ物ニ寄ヲ也、大納言ヲ元ニ討死アレカハ、常陸ノ時見参ニ入ヲ、柳井ヲ責ル由ヲ聞ヲ、公方様ヲ是ヲ方様ヲ常見参ニ入ヲ、世ヒニ言ヲヲ、柳井ヲ責ル由ヲ聞ヲ、公方様ヲ是レヲ向ヲヲ相ヲ十国諸向ヒ、甘カ諸向ヒ、甘カ諸向ヒ、甘カ

唐招、鳥羽、鴨森ニ陣ヲ取ル、此由一色図書、雑賀孫市方ヨリ注進ヲシカバ、三好丹波衆ニ牒合、波多野、柳本ト評定シテ、十月十八日伊丹ヲ打立、西院ニ陣ヲ取ル、井使衆立柔六條、七条、法花堂ニ陣ヲ取ル、道永方ヨリ南方ヲ防ギ、キト陣ヲカマヘケル、思外ニ敵陣ニトラレ、アキレタル物ニ候シケル、九日畠山上総介筆宣、三好ト一味ニテ、遊佐河内守、同源正五百餘人桑ニ集リ来ル旨ニテ、胡会大夫方ヨリ催促ニ就テ、畠山ヨリ加勢ニ、遊佐源正、河部大西ヲ始メ百餘人被ヲ遣ケル、三好入替ノ為ニテ、胡会大夫方ヨリ催促ニ就テ、自身河内ヨリ下リケル、サタセシト云ヘドモ、二百餘人ニテ打レ、三好等馳ツカリケル、サタセシト云ヘドモ、道永大キニ武ヲ振ヒ、胡会方ヲ追ヒヲトシケレバ、敵状ヲ送リ書到ニ加判ヲ加ヘ給フ

十九日後巣寺東出ニ陣ヲ取ル、西院ヨリ自身主将則切崩遊佐源正、河部大西被官之族、且ハ感悦、且ハ悲歎申候、誰可被励軍功事本存候恐惶謹言

十月　日

道永判

胡会大夫左衛門尉殿

（日上三好帰国之事）

カクテ其年暮ケレバ、明ル丈三永八年正月廿日五ヶ人質トリカハシケルニ、三好神五郎政長ト柳本一味シテ和談ヲ破リ、筑前守ヲ背テ堺ヘ下リ、筑前守ハ、道永ニ対面申シテ静ニ堺ヘ下リ、アヤマリヲキ分申シケレドモ、六郎時光堺ヲ落ヲ儀ヲヨソニ、思ヒ食ラ堺免ナカリケリ、葉師芳備後守、同三郎左エ門、摂州上下

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03986

国衆、伊丹ヲ初メ堺ニ参、大郎晴元ニ降参シケレハ、近江両佐ニ本勢モ、評有ノ調合像モ、和睦ノ時節ニ皆国ヲ下リケレハ、公方并時分ヲ道永ヲ京ヘ叶ハス、又近江国朽木カ谷ノ佐々木弾正少輔種綱ヲ頼ミ、朽木カ谷ニカクレ給フ、無レトモ三好方ヨリ物本ヘイコン有テ更ニ諸人ヲ出サス、猶カクレ給フ、無レトモ三好方ヨリ物本ヘイコン有テ更ニ諸人ヲ出サス、猶カクレ給中ノ人心ヲオサメテヲヌ、明レハ二季禄二年丑正月一日未明ニ物本衆、三好方ノ伊丹陽三百ヲ責レカハ、伊丹ヲ初メ国名ノ人計死ス、是ヨリ国ヲ京ヲ三好逐ヒ定、翌日若狭守山崎ニカケ付ケ、伊丹ヲ初メ国衆方道場ニ陣ヲ張ケレハ、カヤウノ体ニ座ヲ形様六郎殿ナレシテ河内国衆方道場ニ陣ヲ張ケレハ、カヤウノ体ニ座ヲ形様六郎殿ナレヤウヨリ起ルトテ、筑前守堺ヨリ有テ参レレト、同八月十日ニ阿波国ヨリ三好エ帰リ給ヘハ、ヲヲ喜ヒ一ヲヲ悦ヒテ、物本ト一方留ト万好賢ヲ八月廿六日、伊丹城ニ三好同意セハ、ヤカテ物本ヲ取巻ヒテ攻ケレハ、伊丹ヲ初メ国衆ヒ、九月廿一日落城シテ、和睦元扶ヲ初テ一族共廿餘人一所ニ討死也

（常相英伺ノ事）

享禄三年ノ夏ノ比、摂州冷泉ノ三本ノ別所山伯ヲ、物本ヲ始テ依藤ヲ罰治セラルヘキ由望ヲ給ヒ、物本同心シテ諸勢ヲ催シ、伊丹ヲ攻ケリケレハ、同六月晦日ノ夜半計ニ、物本カ旗本ヨリ、百餘人カトヨリ、無ク同伯耆ノ西方御山（御カ）摂陣ヲ立、東方小寺・城主来カケ寄セケレハ、三木別所城有田城ヘモ来カケ寄セケレハ、二城一時ニ攻ケレハ、三木別所ノ人々ハ討死シテ、道永ハ伊賀ヘ落テ、伊賀ノ国司ヲ頼ミ、常相ト申ス、物本ヲ恨ミ近江ヨリ、両付ニ木原ヲ頼テ結ヒケレトモ、アヒカヘニ又物本ノイワクトヲ頼テ結ヒケレハ、頼前土ヲ下テ調合ノ沙汰ヲシケレトモ、是モ右付ニ本ノ如ク宮ヲ頼テ結ヒケレハ、舟ニテ海道ヲ廻リ出雲ヘ

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03986

詰くるとナナレ共ヲ サンキクん 誘てさし、
淀川ヲ越ヲ久部中島ニ陣取ルヨシ
聞ヲ急ニ書セん、拙屋衆ハ兵粮
取ニ、中島之内ヲライ江ニ陣ヲ取、陣ニ
ヲ引ク キウテンジ門ヲ堅ムルヨシ
ニ而候ノ日トヲヘヲ、同三月廿五日細川勝
八千餘騎、又畠山方ノ木津左京亮
ニ而候衆悉ク出張、味方勝軍ニ
キヲヒ 細川右京亮殿香川中務
(淀里)
ノ口ニ陣取、久米川村
菊田伯ニ陣ヲ取、其勢一萬五千餘人也、
所様ト昭元ヲ宗慶ト申、三人カタメニ
イトヲ取ヲ最中ニ、カノ陣ニ指部助先年
ニ来ヲおトらん、当年ハ三月廿五日
ケレトモ不叶、来ル今度能ヲイヲ也ト
寺ニテ七陣レヲ、ハヲ昭元ト引合ん
付ヲん、陣ニ方ニ成ん、古家衆皆来ヲ
木津、今ニ取ケん、古国家ヲ
カケヲ陣ニ指部助方ニ
堅川、来ル三日ニ
島村清ト変ヲ、
ノ二レん任方ニ
ホリ白宇、菓ハ寺ヲ

県立串本古座高校所蔵 中根文庫 資料番号 03986

中島ノ舅里川ニ入ル死ス者ノ計ヘ数合セテ千餘人ノ
ナセル事タルヤ古キ事蹟也、屋行者トモイフ石像ニアラズシテ毎山
修行ノ途カヘ者レカハ、師上カ同名ノ内蔵助ト同任官布告ニ生涯ヒ
修行霧ノ赤松殿ト時モ馬廻組ロタリ合セ腰キヤセン、寺社奉行ニ初而ナ
カラ文ノ頭ヲ於テ年来ノ本意ヲ遂ルト同類ヲ場ニテ、昔根ノ仇討ニ刀ヲ
オハレシヤ、コンナキ幸得ノ男ニ、アイカタヘヨリテヲ甘中ニカクレ墓ニ、ヲ好最期
ノ覚ヲ、サカレケレトモ不見アルハ高
カ意ヲ付心ヲ仇ヲオレカニアノ家ノオノ中ニ入道ニ入道云ハント申レケレハ、山
城守大ニ悦ト取者カヘケテヲレハ古意ヲ夫入道也、別ヲ切ニ陸道ニ古
月八日寅刻ニ帰大切ニ管領寺ニ生害ニ墓ニ、ヲ行水ヲヲ心静ニ
腹ヲ切ヲ頭ヲ切ヲ介錯ヲセレ経供ヲ読ヲアケレ

院号ヲ松工

ニ文院号松

ニヲ習文香ト習ニ言ノ真ニ法ノ真ノ心ヲヲシレ

年号明ヨ工

大道無人ニ云ヲ思ニ等閑ニ唯ヲ心ヲヲヲヲヲ

海上ヲヲヲ

綸ヲ称一石ヲ投ル海ヲ釣ヲ得ヲ魚ヲ

能ヲのあれ上ヲ

法ヲの成ル事ヲ得ヲ名ヲ文ヲ

珊侍者ニ

世の中ヲよりて事ありき、あれ迷ヒという言葉ヲ何
ヲ云ヒのヲヲヲヲヲヲヲ

法経供ヲ寺ヲ住持ト山城守ヲタノミ
アリ、ヲヲ石ヲ中ヲヲ、アレヲレヲタメレヲ、社会ヲ教ヲ言ヲ国ヲ国ヲ廻ヲ御上裏ヲ

書レシヲ以テ、人馬ノ死カイ如山、サレバ今テモ骨堆馬塚、鞍塚ナドヲ、後ノ世ニ殘リケルト聞ユ、古國先年ハ毎度江外ニ下リ、付ニ本ヲ書ヲ運ス間、キ給フ、今度ハ京ニ六百里元ニ付ニ本ヲ書ヲ運ス間、故ニ珍書ヲセレカシ、珍人語ト申ス、ヲ給フ故ニ、カヽル七ト給フトノ間ニ、珍ヲ今年四十八齢トカヤ言ヲノ被語ヲ引サ給ヒノ故ノ無シ、ヲタレクル道ノ暴徒ニ、私財ノ具ヲ、物ニ成レ上下ヲキヲヲ言號ス事ヲ、中ニモ貴ヲ、中ニモ貴ヲ、ヲタレクル道ノ暴徒ニ、私財ノ具ヲ、物ニ成レ上下ヲキヲヲ言號ス事多レ人ヲ皆指ヲエ、ヒンヲヲ皆給ヒシ時、人ヲノ塚ヲ築給ヒシ有ル土民系リシ

ホノヽト明石浦ノ朝霧ト孫ヲ人ニ社塚ノ中ヲ申レシヽ、才覚アヲヲ刈ル太刀自サヤ書ヲヲ、石仕レヲ、カノ土民系ノ事ヲ一被傳レヲヲ物語申ヲ次今ニ耐死ニケルト聞ユ

（拙ヲ云ヲ二ル条尚順ノ部上結今自害ノ事ノ如シ）

（三好記 巻之前半ヲ記ス 三好筑前守自害ノ事）

三好筑前守ヲ元長ヲ申ス者ハ、阿州ノ住人ニテ、三好孫次郎為之ヲ子ニ、母ハ細川讃岐守持隆ノ妹ニテ、為之ヲ早世ノ後ハ、持隆ヲ養育ヲ、成人ノ後ハ、持隆ヲ舅ヲ、ヲ聟ヲ、ヲ中ヲ睦ヲ、ヲ持隆ヲ、ヲ三好筑前守ヲ、ヲ元長ヲ、ヲ九日ノヲヲ元長ヲ女房ヲ呼セ、部屋ヲ、ヲ被筆ヲトヲヲ通ヲヲヲヲ、ヲ下リ、ヲヲ、ヲ潜ヲヲ申ヲ、ヲ頭ヲ奉ヲ、家ノ運ヲ末ノ世ヲ、ヲレヲ、若又ヲヲ日ヲ度ヲ、来年ノ春ノ者ヲ、迎ヲ参ヲヲ（レト云ヲヲ暇ヲヲレヘ、女性ヲ引ヲ通トヲ伏給ヲ、供ノ者ヲ引ヲ集セヲヲ、ヲヲヲヲ

ケン、秋芳計カヽ見ル事ニ、サレヽ共、
会釈ニモ不及、元長衆所ヘニ自害ス、筑前守入道海運ハ大事ニヽ如
何トテ、顕本寺ニ取籠ラレケリ、又公方様ヲ四条ノ寺ヨリ 新第ヘ奉
寺ニ均移リケリケレトモ、四方ヨリ急ニ責入ケレハ、三好海運ハ腹十文
字ニ切リ腸ヲクリ出シ、顕本寺ノ本堂ノ天井ニテ仕ラレケル、其跡ヲ
顕本寺ノ天井ニテクリ、三好山城守是ヲ見テ、心スヽレクヲ御腹ヲ召候
御供申サント 縁ヲ腹ヲ切タリケル、誠ニ芸林寺、同子息二人、加地
井伝宇父子、其外以上二十餘人ヲ各座ヲ腹ヲ切タリケル、御所侍共
各座ヲ向ヒ、六人同腹ヲ切、御所様ヲ已ニ御自害アラセキ、御ハクヌキ
有ケルヲ晴元家馳セ参リ、清カヲカケ取リ、先ヲ御差候四条ノ道
場ニ送リ奉リケル、アラカリケル有サマ、
実ニ為ニ亡ヒケル

（日山科本願寺実録事）

享禄五年壬辰八月廿九日天文ニ移、此年一揆起ル時元家
ト本願寺門徒等ト中アレヽ成リ、日八月四日時元家ト本願寺方ヨリ、
喪家方ヘ、一揆方ヨリ路次ニテ喧嘩ヲカケ合戦ニ及ヒケレハ、依ヲ則チ
日ニ堺ノ表ヘ詰寄ノ道路ヲ門徒寺ヲ初メ近郷数ケ所ニ、門徒
衆大ニイカリ、大和四条摂津一揆カカタラヒ蜂起シ、明ル五日
堺ヘ押寄時元ヲ責ケル、本願寺実悟改行状ニ事有テキヽ、
自身切テ寺ヲ、猶勢ヲ、新人ヲ
ヘ一揆告ル事有ケル、手合ノ軍ニ打勝ヲ本
願寺ニ気色ハカヽ帰ラレケレトモ、所々ニ一揆蜂起レヲ時元ノ勢催ス及ヒ、
四日ノ摂津ニ一揆蜂起リ、池田城ヲ取巻ケレトモ、不叶レヲ引テ
河陳ケル、ヒラレカヽ近江ヘ、六角ヲ頼ヲ、時元ノ舅ナレハ、山科ノ本

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03986

ノ都中ノ道場不殘皆被火ス、一向宗ノ僧俗一ケ所ニ集リ、城門ヲ堅ク閉テ、出ントセス、依之城門ヲ破テ入ントスル事度々ニ及ヘリ、然ルニ城中ニ籠ル者ハ、一向宗ノ僧俗ノミニアラス、其外ノ諸人モ多ク籠リケルカ、此一揆ノ起リ本願寺上人ノ為ニ味方ト聞テ詩ニ事寄テ、軍評定ヲ凝シ、明ル文二年正月一日一揆起リ、石山本願寺ヨリ先達テ所々ニ充行ヒ置ケル、城中ノ兵ドモ軍兵数多討死ス、同二月ナカニ一揆起リ、堺ニ押寄セ細川京兆晴元ナカ為ニ、俄ノ事ナレハ人数モ揃ヘ兼テ迎撃数多討死シケレハ堺ノ町人恐レテ、晴元ニ降参ニ降リ給ヒケン、一揆トモヲ堺ノ御座ニ入替ケン、

（同年丹波ノ守護ヲ晴元帰ル事）

同三月五日一揆帰陣シテ丹波ヲ押寄タリ、則大工番匠ヲ召シテ柵ヲ結ヒ廻シ、カヤウニ取籠リ、夜ヲ晝ニ継テ攻ケレトモ、元ヨリ要害堅固ノ城ナレハ、容易ク落ス事ナラス、

寺ニ押寄テ、門徒ヲ語テ権現ノ名物ニ、ケヤキノ大木ヲ以テ、門ヲ突破ントスル事度々ニ及ヘリ、然ルニ門徒ノ者共、命ヲ惜ハス、門ノ上ヨリ大石ヲ投懸ケ、又ハ鉄炮ヲ打懸ケ、散々ニ防キケレハ、寄手ノ者共多ク討レケリ、

（同年一揆起ル事）

同十月南都ノ方ヨリ一揆ヲ語リ僧方ニ取カケ放火ス、別僧方ヨリ野屋ニ火ヲ懸ケ、悪ク焼失ス、同十一月廿日ノ夜外ニ郡衆一味同心シテ宵ヨリ道ヲ切リ初ノ、所々ニ門徒衆ヲ不殘焼拂ヒ、明ル廿一日ノ朝ニ郡衆、安井衆一味シテ権現ノ寺ニ押寄テ、門ヲ突破ントスル事度々ニ及ヘリ、然ルニ門徒ノ者共、命ヲ惜ハス、門ノ上ヨリ大石ヲ投懸ケ、又ハ鉄炮ヲ打懸ケ、散々ニ防キケレハ、寄手ノ者共多ク討レケリ、

（同年一揆起ル事）

同十月南都ノ方ヨリ一揆ヲ語リ僧方ニ取カケ放火ス、別僧方ヨリ野屋ニ火ヲ懸ケ、悪ク焼失ス、同十一月廿日ノ夜外ニ郡衆一味同心シテ宵ヨリ道ヲ切リ初ノ、所々ニ門徒衆ヲ不殘焼拂ヒ、明ル廿一日ノ朝ニ郡衆、安井衆一味シテ権現ノ

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03986

来リテ本願寺ヲ焼ント企テ、事漏レテ捕ラレシ者アリ、同廿九日木沢左京亮創ノ法華宗、相ツレ、廿一箇寺ノ諸寺相語テ、仏毋ノ縁話ニ事寄セ門徒家ニ切リカケ、比勢一ヤラント妙法蓮華経ヲ被ノ一部ヲ大文字ニ書テ一揆家族ノ一向一揆方ヘ分ケ遣シ等ノ旗中ニ書テ出シ、両方ノ旗ヲ以テ取ル、敵ハ下部中村ヲ置テ引退ク、敵外下部ヲ帰シ給ヒシカハ、晴元陣ヲ払ヒ神ノ、カク攻陣ニ依テ大方治ルヘキ様ナケレトモ、同四月六日池田ノ城ニ入ノ給フ、甚タ心ヲ労シ給ヒシ故ニ本願寺門徒衆上人ノ為ノ籠リタレハ、同二十九日昨元衆三好、木沢左京亮ケレトモ不叶堺ノ落ヲ大坂ニ引籠リ廿一箇寺ノ法華宗一味同心シテ、同年五月五日ヲ大坂ノ書テ、旗ニ振外第一ノ名誉ヲ、籠ノ兵トモヲ以テ近国地侍猪口徒一向ニ

阿弥陀名号ニ心ヲカケ、命ヲ塵芥程ニ軽ンシ防戦セシカハ、寄手ヲ攻フクシテ見ハ、カクテ上人ヲ使僧ヲ以テ三好木沢法華一味ヲ語ヒ、同月廿日ニ晴元ヲ帰陣シ、ソノ上安堵シテ、三好仏毋ヲ帰陣シテ、同年八月十一日下郡一揆ト月六日ニ江東林宗一揆ニ分テ、和睦ヲ調ヒ、敵味方ノ城ヲ破ケ、同九日ニ人ヲ和睦シテ、御ノ事ニ城ニ則落テ、

（下略）

同年冬ニ中国毛利元就大友義鑑ト治レ、三緯西政ト属レ事ニ、宮ノ方ノ法父政基治ノ申レ法ヲ、大名十名多レトイヘトモ乱ヲ中ニ、諸人カクノ如ク思ヲ、仏毋ヲ、諸寺ノ堂ヲ仏ノ岡山ノ土ヲ抽

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03986

アレ給ヘトモ師子禅院ニテ、カク嚊宮嬰儀ニ及ヒケル日也ケレ、同月廿三日三毎伊賀守、同久助、池田宗、任丹衆一味同心シテ、林木ノ城ニ楯テ家政ヲ叶ス、河原村ヲ叶一陣ニテ不及、館ニシテノ明ケ廿四日ニ城ヲ明テ中島ニ迫セテ、同年十月八日ノ暁ニ信玄諸軍ヲ惹テ、ヒタキ阪ヲ海陸ニ石ノ如ク柵ヲ落散ケル、カ孝カヲクシテ、十文字ニ突ヲ、如何様共ニモ行揉ノ事カ出来ヲ、天地ヲ共返シ因ヲ演ケル事、先ヒヤウヒ諸人驚キ翻キケル、

（三好記、白山ト山先陣ノ事ノ条ニ、ト出タリ、惣テ此ノ揉ノ事ヲハ、ヒタキ阪ノ揉ト云ヘリ）

（同三好記ニ川筋先ニ事）

其此天文五年丙申後行子人ノ武将廿四家ノ内、三人アリ、二人ハ若含幸ノ住持ニ雲ノ律僧也、第一ハ陳等ノ住持ニ云ヒ狩俗也、此両人同年ニテ九拳ナリ、此中ノ一人ハ遥俗シテ家号ヲ加藤ト云ヒケル、其子ハ善徳寺ノ善量骨女ノ腹ニテ、外祖祖父一族ヲ頼ミ、幼ヨリ善徳寺ニ養育シケル、此人ハ川筋先陣ノ事ニ、ト出タリ、

（同三好記ニ川筋先ニ事）

其此天文五年丙申後行子人ノ武将廿四家ノ内、三人アリ、二人ハ若含幸ノ住持ニ雲ノ律僧也、第一ハ陳等ノ住持ニ云ヒ狩俗也、此両人同年ニテ九拳ナリ、此中ノ一人ハ遥俗シテ家号ヲ加藤ト云ヒケル、其子ハ善徳寺ノ善量骨女ノ腹ニテ、外祖祖父一族ヲ頼ミ、幼ヨリ善徳寺ニ養育シケル、此人ハ川筋先陣ノ事ニ、ト出タリ、惣テ此ノ揉ノ事ヲハ、ヒタキ阪ノ揉ト云ヘリ）

（三好記、白山ト山先陣ノ事ノ条ニ、ト出タリ、惣テ此ノ揉ノ事ヲハ、ヒタキ阪ノ揉ト云ヘリ）

（同三好記ニ川筋先ニ事）

其此天文五年丙申後行子人ノ武将廿四家ノ内、三人アリ、二人ハ若含幸ノ住持ニ雲ノ律僧也、第一ハ陳等ノ住持ニ云ヒ狩俗也、此両人同年ニテ九拳ナリ、此中ノ一人ハ遥俗シテ家号ヲ加藤ト云ヒケル、其子ハ善徳寺ノ善量骨女ノ腹ニテ、外祖祖父一族ヲ頼ミ、幼ヨリ善徳寺ニ養育シケル、此人ハ川筋先陣ノ事ニ、ト出タリ、惣テ此ノ揉ノ事ヲハ、ヒタキ阪ノ揉ト云ヘリ）

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03986

信貴ノ城ニ籠行ク

（同上 法華乱ヲ事）

法華、天台ノ闘争

法華ノ一家繁昌ノ折ヲ得テ、カノ権那ヲ好ミ一家繁昌ノ折ヲ得テ、カノ権那ヲ好ミ
ヲ他宗ノ寺ヲ焼キ、其外度々大軍ヲ催シテ
天台ノ宗ヲ、悪ク謂ヒ誹乱トシテリテ
今度ニ到リテハ已ヲ、ヨキ附ヲトリ
退治ノ為ニ、主山ヲ籠レ、三千余人
攻カラ、二十箇寺不残火ヲ放ツ、法華宗ヲ極悪ナカラヒ、宗ノ先
達ト称キレトモ石叶レヲ、所々ニ一千余人数死ニ、幸ヲ叶サリケ
ヤラン

治ノ大火

（同 細川晴国滅亡事）

同七月廿九日木沢左京亮、三好修理亮、日台神五郎一味同心ヲ大

坂ニ攻向ヒ、中島ニ砦ヲ取入レハ、一揆衆、門徒衆弛向ヒ、攻寄ヲ、一揆ノ時参
討死者ニ辞易シカケテ引ヒ、八百人ニテ
城ヲ乗行ク、ニ宮中野宇国村ヲ
ト号シ、細川ノ人数晴国ヲ取巻ヲ、大
月晦日ノ夜半計ニ、晴国兄弟ノ、堺
リニ、落ヲ散ヲ叶ヲ、ツカニ、天王寺ニ
引ケニヨリ方国方ヘ逃ケル

（同 一蔵之城攻事）

其比河内ノ方屋ニテアレ畠山長徒、
ヲ用カケレハ、家ヘトモ毒ヲ阿ニ入ヲ
ヲ盛リ泊参ヲ、内室ヲ国ニヒキケル間、三好方ニセメラレント思ヒ和泉ノ
木沢左京亮、方ヲ取ケレハ、数人ノ畠山ノ被レ主ニ

県立串本古座高校所蔵 中根文庫 資料番号 03986

こゝりて、頓て塩川と一味レて好と
及ひ下一味せサレバ、木澤共に
住長教政主ノ柱長ノ根来寺ニカクレテ帰陣レタルヲ呼出シ、遊
佐ヲ誅セラル、柱長大ニ悦ヒ旧功ノ人ヲ追サン、此時故ニ好氏有守元長
ノ子息孫四郎(後ニ改名)柱長ニ託シ 同神五郎政長(後ニ法名宗三)ニ授ケ畑
有守ヲ引率レテ、多田一葉ノ城ニ塩川伯耆守統ヲ入、天文十年九月
六日ヲ期シ有家衆等ヲ攻ケ、住井次自刃ニ及ヒ、ヒヽヲ以有守国村ノ塩乃ト
称セシ従レトモ一味セス、木沢左京亮長政ニ多勢ノ人ヲ附テ
差下サレシカ故ニ、住井カ等ヲ攻ケ、日ヲ九日一葉ニ後陣
ノ為ニ、住井ノ跡辺ニ砦ヲ築キ、多勢ヲ不叶ト思ヒヲ一葉ノ城ヲ
ニ門遠ニ引退キ、政長ハ住井ノ城ニ入ル、住井ハ下ノ地田ノ城地田
ニ引籠リ、住井ハ高屋ノ城ニ楯籠リ、木沢左京亮長政ハ大和ノ
軍勢ヲ催シ、住井ヲ攻ケ、三好ノ一族並ニ被官人ヲ随ヘ、河内ノ
半国ヲ打取リ、居城ヲ高屋ニ構ヘ、威勢ヲ振ヒケル、
(日本記ニ有之事)

封馬守 西宮ノ城ニ籠リ、住井カ等ヲ攻ケ、木沢左京亮長政ニ多勢ノ人ヲ附テ差下サレシカ故ニ、住井カ等ヲ攻ケ、日ヲ九日一葉ニ後陣ノ為ニ、住井ノ跡辺ニ砦ヲ築キ、多勢ヲ不叶ト思ヒヲ一葉ノ城ニ引退キ、住井ハ高屋ノ城ニ楯籠リ、木沢左京亮長政ハ大和ノ軍勢ヲ催シ、住井ヲ攻ケ、三好ノ一族並ニ被官人ヲ随ヘ、河内ノ半国ヲ打取リ、居城ヲ高屋ニ構ヘ、威勢ヲ振ヒケル、

(日本記ニ有之事)

三好ノ一族ニ畠山柱長ヲ誅シ、河内ノ半国ヲ打取リ、居城ヲ高屋ニ構ヘ、威勢ヲ振ヒケル、

県立串本古座高校所蔵 中根文庫 資料番号 03986

方ヲ加勢シ、遂ニ落合ヲ陥ル、天文十年三月十四日夜、
侍大将曽田山城ノ子ニ宮内ト云法体武者、一陣ニ立ヲ誉田川ヲ
ノリコシ合戦ヲ初ル、不云ニ千騎ノ勢ニ留ル十倍ノ敵ニ攻取、終本陣
ヲ打破、同名右近ノ初ノ軍名ヲ父ヲ
ル、若政ハ、阿内家三木生ヲ今ノ高
ニ三好方ニ宮人ヲ三好ノ家来ト成
残ラズ、飯盛城ヲ、其後長慶
去十一日於浜合ニ島合戦ヲ始一番ニ被初太刀疵被
十三箇所突疵数仕酔、為誉高撃目物傷ヲ上剰木沢左京亮長
政ヲ永正ノ校ヲ於無力皆功ヲ出ス名旦ヲ挙功ヲ旦ヲ
時ヲ無類ヲ沙名誉候、時感ヲ故院様ヲ自簡給為褒功
ヲ加ヘヲ内十百騎ヲ被家行候、金万吉吊和行候、弥一要候次ノ門

鑓ノ領撃ル大刀一腰若進ニ候
三月廿一日
三木ノ助殿進ヲ

（註長左上被候ニ）

態上洛ヲ軍勢治部ヲ、指長ヲ頼テ入城ヲ、ヲ三木ヲ、吻ト云
ヲ、後ヲ人ヲ和寺会釈ヲ、ヲ、指長ヲ、晴元ヲ、
次第ニ、晴ヲ時元ヲ、ヲ、
（細川氏綱七男ヲ事 以上）
天文十二年比、政方国方ヲ、ヲ人集ヲ、
京ヲ、家ヲ、ヲ、ヲ藤堂ヲトリ、ヲ曲庭ニ家ヲ、
信第吉馬助、尹堅ノ子也、和泉国信人ニ三好ヲ大将トシテ、指ノ南方ニ
打入ル、堺ヲ、ヲ、指ヲ、ヲ、
個方ヲ、三好ヲ、ヲ人、ヲ、ヲ、

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03986

無之候ハヽ、晴元ニ被附之旨ヲ以、武州南方ニ在之也、同月
十六日晴元家督ヲ讓リ、古河ニ移リ、細川氏綱ニ譲ル、則殿ヤシキ
退、同十月十二日細川氏綱元服ノ為ニ、三井寺ノ光浄院ニ出張ス
ル、其時ニ三井寺ノ惣山会釈ニ三井寺ヲ焼打ニスル
（同又天文之事）
一、天文十四年乙巳五月十四日ニ、畠山播磨守政国ニ逐出サレシ、子
息ナレシ尚慶、播磨守政国ニ逐出サレシ、子息尚慶、家督ニ居ル事
ニ候ヘハ、其年天文十六年丁未、細川氏綱ニ方人ニ被仕候人々ニ
丹波ノ国ノ内ニ山城ノ槇ノ嶋ニ楯ヲ籠ル、近方所領ヲ抱ヘ申ス
ル間、為守護ニ好元範長ニ加勢ヲ被申ス、多ノ
一事ニ、則加勢ヲ申ス、同十月廿三日ニ好元範長、同神五郎入道宗
三政下ノ国ノ城ヲ切レカハ、不叶トヤ思ヒケン、同廿七日夜半ニ城ヲ明ケ落
行ケル、波多野左京亮ハ違シ矢ニ逆レハ、勢長ヲ八木ニテ懐ニ入ケル、同廿
八日ニ御陣ヲ、同年八月廿三日ニ西ノ刻ニ天下一ノ旧キ黄色キ
黄巻ト云ヒ、黄ナル物ヲ見ヤカシ、不知法人時仏
シテ金色ニ如来トモカ如シ、為何未聞ノ不思議ニ候ヘハ、次第ニ聞ノ成行
ケル

畠山播磨守政国
政国ヨリ植長ノ弟タリ植長子ナキヨリ天文十四
年家ヲ継キ三国ヲ領シ方ニ至テ互ニ大、永禄元年此
頃政国隠居シテ子ナク政ヨ家督ヲ譲リ紀州ヘ隠
居ス

（三好記ヲ初メ此ノ史料ハ皆誤リアリ三好
同十三年ノ時ヨリ畠山政国ト共ニ民部ト一味ニ
許ニテ、悪ク政国ヲ逆徒ト申シ内々細川民部ト一味シテ民部ヨリ云ヘ、
企テケレハ、昨元ヨリカニ国ヲ三好ニ前ニ
入ラン、同廿日民部、畠山家、逆徒ヲ押ヘ攻ケン、三好方ヨリ人数
ヲ入レヘ、政国、隠居、城ヲ出テ堺ニ陣

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03986

山寺ハ淡州衆ヲ催シ、十河兵部大輔一豊ハ讃州衆ヲ催シ取出ノ天王寺ノ大塚ノ城ノ構ニテ
取寄ヲ取結ヒケル間、畠山家遊佐河内守
ハ中島ニ取陣ヲ、日ニ乃至三町辺川ヲ
守ル事数日、池田筑後守ハ勿ヲ渡ヲ遊佐
方ヘ云ヒ入レ、川ヲ不越ヲ云ヒ、川ヲ不越ヲ
モ不叶、暁ニヲヤ山衆ハ大阪城ノ明隙ヲ
丹波ノ新兵衛方ヘ裏ヨリ国衆ヲ誘ヒ、一味同心セラレケル、晴元ノ
仰ニ随ヒ堺ニ楯ヲ籠ヘ兵ヲ出ス任
ヒ晩ニハ大勢ニテ、見又ヲ地取ヲ志取
陣ヲ同十月ニ池田筑後守ヲ城ヲ取籠ヲ、西ヲ
キ一番ニ三好本地、二番ニ淡州衆、台丹大和守家取ツヽ、則市場ヲ

放火ス、池田衆数ヲ討負、数十人打死
シケル、其夜晴ニ川取切ヲ、同九月
若田川梁ヲ取ル、ヲ好神五郎大
夕ノ黄向ヒ、畠山衆三木内近ト名リ、一番ニ山ヲ手ヲ先、堺三衆押ヘリ
加ヘル間、丹波衆、堺三衆お負ヲ数十人討死ス、同日暁方ニ
ミヲ帰リ、仍内衆ヲ方屋ニ返リケル
辺マテ一下リケレトモ雑兵ノミ、不及河内ニ川返シケル、其比氏綱
ハ遊佐ヲ頼ヲ仍内ヘ下リ、故方国ト一所ニ
新私宅ヲ氏綱方ヲ会ヲ方屋ニ来リケル
ニ、畠山政国ヲ遊佐カ、ハカラヒトシテ、政ノ末弟ヲ名字ヲ
継セ、所領ヲ安堵ヲ細川刑部大輔ヲ、同十月廿二日ノ讃州ノ
ヲ好悪ニ依ニ、世間家ヲ上下ヲ、淡海ヲ、頼ヲ仍

四

内ノ坂ニキ由何モノ、者カ奉公ニ当節時先行ノ甲ノ指ントヲ定評ヲ

（一日ニ日云時元服事）

京ニテ幕時分将軍家御年七年十一月中旬ニ将元服アリテ将軍家御相続ニテ、文正十五年二月中旬ニ将ノ御所ヲ決テ、九条殿ノ御子ヲ御養子ニ御ノ中当職ノ役ニテモ、今ノ細川、畠山、武田、一色ノ四人ニ、ニテ付ニ本法ニ少御定書ノ条々ヲ、徹カラ、当時諸家ノ申ス所ニ、頻リニ被仰付ノ間、其ノ面目ナリトテ将軍家ノ御申ニハ、サテモ将軍家ノ御代ニ、日ヲ経ノ今、昔ニ、ヒカ御ニ有ニテ、将軍家ノ御ニ被用、十二月九日ニ定頼ヲ遣ハシ山城守ヲ召ニ差ニ、善悪ヲ、若ニ不日ニ破壊ニセヨト不日ニ送アリテ、同月十二日ニ頼元ヲ再ニテ被奉行、将軍家ノ御下ニ参リ、ニ被奉行、将軍家ノ御代ニ、左衛門也、幼児ヲ有ヲ辻固有、ヲニ御ノ家老ニ梅時太ヲ立ニ門、三上阿三百、三雪左エ門、梅生下野守ヲ召ニ、同十八日未明ニ将迎ニ守ヲ参ノ一族付ニ本誅中、刑部大輔孝俊、田中宮内ヲ執事長、東山慈照寺ニ移ニテ、十六日館ヘ引率ニテ参ノ間、剛同日ニ剃来山慈照寺ヲ御隠居ヲ、浄土寺ヲ南ヲ、南禅寺ノ内ヲ築田口ノ日ノ岡、花山ヲ本願寺ヲ屋敷ニ召ニ五条ヲ、東七山ヲ大将ニ将陣、磧ヲタニ被本営ニ将陣、十陣ノ内一面社ヲノヨリ、ヘヲリ返ヲ松ニ梅辻ヲ御下ニ山ヲ申前ニ将下着ヲリ、将先ニ将物奉行トシテ伊勢守被官蜷川新右衛門、三山城二帯ヲ馬ニヲ将、ヨウヨヲ付ヘリカヘヲ時ヒン、居ヲ松ニ将板輿、将鞭指、将眼メシ、ヲカヒニ下斜ニ将ヒン、サヒン、今将陣ニ結ヲ、将同ヲアヒン見物上下ヲカヒ申ヲ、大舘左ヲ佐昭光、松不長命ヲ輔相細川、保智宇良奈、将同勾奉行頭

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03986

祢馬ニテ帰館ス、次ニ藤中納言殿ヨリ方様ヨリ有之候ニテ祢馬ヲ以テ、上野民部大輔信茂祢馬御免、後、細川中務大輔賢孝、又飯治部大輔忠宗、祢田明春殿ヨリ上下小鷹ノ祢馬ヲ祢領也、諸士衆十人計ヲカヘノ祢興ノ通ニ、祢豊前姫君様、其外南條筆、其外興也、已上十二ヶ寺ニヘテ、飯大角式子門外ニテ御供ニ拳入、日ヲ九ノ祢光明ヨリ被刻ニ被之、祢名乗義藤法度ニ祢被為仕ニテ、四日ニ被刻面目ヲ以テ、祢理髪ニ細川中務大輔昭孝ヨリ、是ハ祢被為仕ニ拳行、拙子井筒宇昭秀、飯尾大蔵宮兵連也、宮参朝ヨリ祢馬、祢ヲ祢領ニテ、同廿日ヨリ秀馬初ヨリ、廿日従四位下左馬頭ニ勅ヲ下リ、又征夷将軍ノ宣旨下リ、南都ニ有之ニテ、宮廻祢ヲ以テ祢馬ヲ被下、今日ニ拳日ヨリ祢祝ニ亀山殿ノ事仕ノ事家例ニテモ

カノ名代トシテ遊佐河内守長教鳥目六千足進上ス、秋中ヲ所大乱ノ最中ニ大御所義晴被補ヨリ、祢盛アリ、同ノ父ヲ六角ノ根前ニ祢候ヨリ、田楽ヲ祢ヲ参リケル、今祢ノ踊ヲリケル、同廿二ノ六角在京ヨリ東山ニ屋敷下リ、祢領下リ、四百ヲ取ヲ東山ヨリ祢明ヲ被下リ、

（日ニ好振舞寝近年ノ事）

カヤウ廿年、ヲヒ、関ノ大文ヲヒヲヒレニ上リ第ヲレ祢踏衆、四国衆、大和ヲヒヲヒ万館諸ヲ振舞ヲ祢ヲ、城郭軍ヲヒヲ不叶ト思ヒヲヒ、神主ヲ為年ヲ入祢ノハヤ一四ヲヒ取ヲレハ、万宗ヲヒ祢ヲ、イカニ喰又入ヲ同廿日ヲヒ城ヲ明渡ス、中ヲヒ駆ヒ一ノ供ヘ、城ヲ押ヲ取巻ヲ祢ヲレハ、城中ヲ叶ヲヒヲ

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03986

三月十五日ニ木津ヲ攻落シ、本陣ヲ計ニ城ヲ築ク、人ヲ出ス事、加藤一人ヲ不叶ト云、是ヲ城中ヨリ望ミ出シ、色々ニ悪口ヲ云ヒ、同廿二日ニ城ヲ明ケ退ケレバ、三好方ニ後詰ノ兵不来方ノ、イキヲモ天王寺ニ引取ル、三好方ニ因遊佐ヲヲヒ取リ、京都ニテ攻上ラントシテ計リ、ヲヒ入ラレヌ故攻入ラレズ

三年、木沢討死ス

（日上公方帰入洛ノ事）

京ニ方等晴ル、慶ヲ聞ケバ、昨元十月ト河内ヲ畠山遊佐方ノ来会ニヨリテ、河内ハ近国ニテ乱中ニモ遊佐河内守勢京ニ悪アレバ、四国衆ニ違ヒ国ニテ強ク援勢ニテ攻上ラントイヘトモ、松富アレバ心ニ不叶、近年ノ故是故陣ヲ上洛ニモ不能、諸侯者モナク、公儀ニ不思ヲ多カリケレバ、河内ヘ遊佐方ニ仰合勝ケリ、天文十六年十二月晦日前将軍加大将家ヲ公方等御御迎被越候故、摂家堅被申候ヘ共、御承引無之候ヘ共、重テ大納言晴光、言宣中納言永家、日野野ヲ侍従資将、参等在国御帰ヲ先トシテ、大勢陸続晴光、細川中務大輔御解任、大勢伴随ス、細川宮内少輔隆是、伊勢守貞孝、摂津守元送、同摂部頭昭門、ヲ海住寺ヲ入道、小笠原備前守、武田刑部大輔信実、平田伊賀守ヲ初メ名々ヲヒ続テ、同四月朔日御門大夫晴元宿、三好筑前守長慶、日名陸続、多山紀伊守遊佐弾正中守、陸奥守、四国勢ヲ篇修理攻上リ、東山ニ陣取ル、吉田淳生寺、高雲寺、十日ニ表ニ入ラレ放火ヲ焼払ヒ、逃レトモ攻太刀ヲ、タイヤウスルヨウニ、アヤヲ新保トニエレクトモ、同月廿日細川晴元先振舞ノ新不方便ヲ云ヒ、心安ク京ヲ攻レト、晴元公方ヲ勧ムルニ、晴元不調下リヲ、公方ヲ勧ムル、出ヲ如ク悦ビヲン、カクテ重畳同年五月ヲ末帰洛ス、一カ楯籠ヲ竹川城ヲ攻攻、晴元モ陣ヲ岐守、畠山紀伊ヲ自身ヲ三好

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03986

日取巻返候ニ付候間不叶トテ、ソノ夜ニ入ニ降ヲ衝テ、今計ノ助ケ十月
十五日午旦ニ陣ヲ明ケ退キヌ、則其日ノ午ノ下刻入替ノ本領ヘ大ニ
悦ビヌ、則此方地田城ヲ下ケ候ヘトモ三好弥三郎
入道宗三ヲ守イロノ陣巻ヲ申シテ、先ヲ指置巻同陣ヲヌ、同七月三日ニ細川
(同公方本城本国ヘ帰ル事)
天文十九年ヨリ
其程ニ細川右京大夫晴元、四国勢並ニ畠山記伊守
政ヲ相図ヲ陣取ヲ、三好筑前守ヲ前ニ立テ、
同名三郎ヲ入道、西山中ヲ西ヘ指向ケ、三好筑前守
能登守ヲ始メ所ニ陣ヲ取、近江国
衆江州ヲ一局ニ降参ニ付テ、晴元ニ不出合トテ協向テ、先陣ヘ同名
刑部大輔宗後、田中四郎左衛門尉長、月斎四王寺ノ初ヘトテ将

軍ノ緑ヲ後ヲ十日川陣ヲ取巻ヲ
ハ、聞ケレトモ、悪功ヲ立ヲ晴元
家ヲ父子、近所陣ヲ初メ悉ク、帰国
我ヲレヲ行ケ、陣ニ自ヲ火ヲ放ヲ
来坂ヲ御留主
(同人今刑寺ヲ焼事 附 畦元ヲ御
同十月廿ヲ天王寺ノ今刑ヲ三好筑前
為ヲ、白山ニ従ヲ、近付林中ヲ陣ヲ取
近付ヲ内守護向ヒ、ヲニ行ヲ両方矢軍ヲ止ヲ相カヽリ陣ヲ三好ヲ
白山従ヲ打浦明為ヲ三十一町ヲ退ヲ至テヤリ合ノ数前ノ如ヲ、両
方ノ鉄砲九百丁ヲ余有、近付ヲ三本牛
ヲ如ヲ大ヤリ合ヲリ、打ヲ前

家ヲ繼ク事無之、若シ左京亮殿ニ男子出生ノ節ハ、今日名代ノ
如ク自由ニ仕置ノ儀ハ勿論、家ヲ勝ノ事ニ至ル迄、急ニ指圖ヲ
受ケ、何ヲ申ス共所存ニ違ヒ申間敷候、若シ此ノ條ニ違ヒ候ハヽ、
天下ノ大事ニ候間、急ニ御討果シ可申候、仍テ如件

慶長五年九月廿四日　　忠興（花押）

三斎様

御返報

一、九月廿四日

一、廿一日ニ堺ニ着、直ニ大坂ヘ上ル、一夜ヲ堺ニ明ス、
一、廿二日ニ大坂ヘ着、直ニ伏見ヘ上ル、一夜ヲ伏見ニ明ス、
一、廿三日ニ伏見ヲ立チ、大津ヘ着、一夜ヲ大津ニ明ス、
一、廿四日ニ大津ヲ立チ、関ヶ原ヘ着、一夜ヲ関ヶ原ニ明ス、
一、廿五日ニ関ヶ原ヲ立チ、垂井ヘ着、一夜ヲ垂井ニ明ス、
一、廿六日ニ垂井ヲ立チ、赤坂ヘ着、一夜ヲ赤坂ニ明ス、
一、廿七日ニ赤坂ヲ立チ、岐阜ヘ着、一夜ヲ岐阜ニ明ス、
一、廿八日ニ岐阜ヲ立チ、大垣ヘ着、一夜ヲ大垣ニ明ス、
一、廿九日ニ大垣ヲ立チ、赤坂ヘ着、一夜ヲ赤坂ニ明ス、
一、晦日ニ赤坂ヲ立チ、吉田ヘ着、一夜ヲ吉田ニ明ス、
一、十月朔日ニ吉田ヲ立チ、浜松ヘ着、一夜ヲ浜松ニ明ス、
一、二日ニ浜松ヲ立チ、吉田ヘ着、一夜ヲ吉田ニ明ス、
一、三日ニ吉田ヲ立チ、岡崎ヘ着、一夜ヲ岡崎ニ明ス、
一、四日ニ岡崎ヲ立チ、鳴海ヘ着、一夜ヲ鳴海ニ明ス、
一、五日ニ鳴海ヲ立チ、熱田ヘ着、一夜ヲ熱田ニ明ス、
一、六日ニ熱田ヲ立チ、桑名ヘ着、一夜ヲ桑名ニ明ス、
一、七日ニ桑名ヲ立チ、四日市ヘ着、一夜ヲ四日市ニ明ス、
一、八日ニ四日市ヲ立チ、石薬師ヘ着、一夜ヲ石薬師ニ明ス、
一、九日ニ石薬師ヲ立チ、土山ヘ着、一夜ヲ土山ニ明ス、
一、十日ニ土山ヲ立チ、水口ヘ着、一夜ヲ水口ニ明ス、
一、十一日ニ水口ヲ立チ、石部ヘ着、一夜ヲ石部ニ明ス、
一、十二日ニ石部ヲ立チ、草津ヘ着、一夜ヲ草津ニ明ス、
一、十三日ニ草津ヲ立チ、大津ヘ着、一夜ヲ大津ニ明ス、
一、十四日ニ大津ヲ立チ、京ヘ着、一夜ヲ京ニ明ス、
一、十五日ニ京ヲ立チ、堺ヘ着、一夜ヲ堺ニ明ス、
一、十六日ニ堺ヲ立チ、住吉ヘ着、一夜ヲ住吉ニ明ス、
一、十七日ニ住吉ヲ立チ、天王寺ヘ着、一夜ヲ天王寺ニ明ス、
一、十八日ニ天王寺ヲ立チ、平野ヘ着、一夜ヲ平野ニ明ス、
一、十九日ニ平野ヲ立チ、八尾ヘ着、一夜ヲ八尾ニ明ス、
一、廿日ニ八尾ヲ立チ、若江ヘ着、一夜ヲ若江ニ明ス、
一、廿一日ニ若江ヲ立チ、守口ヘ着、一夜ヲ守口ニ明ス、
一、廿二日ニ守口ヲ立チ、枚方ヘ着、一夜ヲ枚方ニ明ス、
一、廿三日ニ枚方ヲ立チ、伏見ヘ着、一夜ヲ伏見ニ明ス、
一、廿四日ニ伏見ヲ立チ、山崎ヘ着、一夜ヲ山崎ニ明ス、
一、廿五日ニ山崎ヲ立チ、富田ヘ着、一夜ヲ富田ニ明ス、
一、廿六日ニ富田ヲ立チ、尼崎ヘ着、一夜ヲ尼崎ニ明ス、
一、廿七日ニ尼崎ヲ立チ、兵庫ヘ着、一夜ヲ兵庫ニ明ス、
一、廿八日ニ兵庫ヲ立チ、明石ヘ着、一夜ヲ明石ニ明ス、
一、廿九日ニ明石ヲ立チ、高砂ヘ着、一夜ヲ高砂ニ明ス、
一、晦日ニ高砂ヲ立チ、姫路ヘ着、一夜ヲ姫路ニ明ス、
一、十一月朔日ニ姫路ヲ立チ、龍野ヘ着、一夜ヲ龍野ニ明ス、
一、二日ニ龍野ヲ立チ、赤穂ヘ着、一夜ヲ赤穂ニ明ス、
一、三日ニ赤穂ヲ立チ、岡山ヘ着、一夜ヲ岡山ニ明ス、
一、四日ニ岡山ヲ立チ、備中ヘ着、一夜ヲ備中ニ明ス、
一、五日ニ備中ヲ立チ、備後ヘ着、一夜ヲ備後ニ明ス、
一、六日ニ備後ヲ立チ、鞆ヘ着、一夜ヲ鞆ニ明ス、
一、七日ニ鞆ヲ立チ、尾道ヘ着、一夜ヲ尾道ニ明ス、
一、八日ニ尾道ヲ立チ、三原ヘ着、一夜ヲ三原ニ明ス、
一、九日ニ三原ヲ立チ、竹原ヘ着、一夜ヲ竹原ニ明ス、
一、十日ニ竹原ヲ立チ、広島ヘ着、一夜ヲ広島ニ明ス、
一、十一日ニ広島ヲ立チ、玖波ヘ着、一夜ヲ玖波ニ明ス、
一、十二日ニ玖波ヲ立チ、岩国ヘ着、一夜ヲ岩国ニ明ス、
一、十三日ニ岩国ヲ立チ、上関ヘ着、一夜ヲ上関ニ明ス、
一、十四日ニ上関ヲ立チ、室積ヘ着、一夜ヲ室積ニ明ス、
一、十五日ニ室積ヲ立チ、下松ヘ着、一夜ヲ下松ニ明ス、
一、十六日ニ下松ヲ立チ、山口ヘ着、一夜ヲ山口ニ明ス、
一、十七日ニ山口ヲ立チ、秋吉ヘ着、一夜ヲ秋吉ニ明ス、
一、十八日ニ秋吉ヲ立チ、厚狭ヘ着、一夜ヲ厚狭ニ明ス、
一、十九日ニ厚狭ヲ立チ、小月ヘ着、一夜ヲ小月ニ明ス、
一、廿日ニ小月ヲ立チ、赤間関ヘ着、一夜ヲ赤間関ニ明ス、
一、廿一日ニ赤間関ヲ立チ、小倉ヘ着、一夜ヲ小倉ニ明ス、
一、廿二日ニ小倉ヲ立チ、黒崎ヘ着、一夜ヲ黒崎ニ明ス、
一、廿三日ニ黒崎ヲ立チ、木屋瀬ヘ着、一夜ヲ木屋瀬ニ明ス、
一、廿四日ニ木屋瀬ヲ立チ、飯塚ヘ着、一夜ヲ飯塚ニ明ス、
一、廿五日ニ飯塚ヲ立チ、内野ヘ着、一夜ヲ内野ニ明ス、
一、廿六日ニ内野ヲ立チ、山家ヘ着、一夜ヲ山家ニ明ス、
一、廿七日ニ山家ヲ立チ、原田ヘ着、一夜ヲ原田ニ明ス、
一、廿八日ニ原田ヲ立チ、秋月ヘ着、一夜ヲ秋月ニ明ス、
一、廿九日ニ秋月ヲ立チ、甘木ヘ着、一夜ヲ甘木ニ明ス、
一、晦日ニ甘木ヲ立チ、山家ヘ着、一夜ヲ山家ニ明ス、
一、十二月朔日ニ山家ヲ立チ、内野ヘ着、一夜ヲ内野ニ明ス、
一、二日ニ内野ヲ立チ、飯塚ヘ着、一夜ヲ飯塚ニ明ス、
一、三日ニ飯塚ヲ立チ、木屋瀬ヘ着、一夜ヲ木屋瀬ニ明ス、
一、四日ニ木屋瀬ヲ立チ、黒崎ヘ着、一夜ヲ黒崎ニ明ス、
一、五日ニ黒崎ヲ立チ、小倉ヘ着、一夜ヲ小倉ニ明ス、
一、六日ニ小倉ヲ立チ、赤間関ヘ着、一夜ヲ赤間関ニ明ス、
一、七日ニ赤間関ヲ立チ、小月ヘ着、一夜ヲ小月ニ明ス、
一、八日ニ小月ヲ立チ、厚狭ヘ着、一夜ヲ厚狭ニ明ス、
一、九日ニ厚狭ヲ立チ、秋吉ヘ着、一夜ヲ秋吉ニ明ス、
一、十日ニ秋吉ヲ立チ、山口ヘ着、一夜ヲ山口ニ明ス、
一、十一日ニ山口ヲ立チ、下松ヘ着、一夜ヲ下松ニ明ス、
一、十二日ニ下松ヲ立チ、室積ヘ着、一夜ヲ室積ニ明ス、
一、十三日ニ室積ヲ立チ、上関ヘ着、一夜ヲ上関ニ明ス、
一、十四日ニ上関ヲ立チ、岩国ヘ着、一夜ヲ岩国ニ明ス、
一、十五日ニ岩国ヲ立チ、玖波ヘ着、一夜ヲ玖波ニ明ス、
一、十六日ニ玖波ヲ立チ、鞆ヘ着、一夜ヲ鞆ニ明ス、
一、十七日ニ鞆ヲ立チ、尾道ヘ着、一夜ヲ尾道ニ明ス、
一、十八日ニ尾道ヲ立チ、三原ヘ着、一夜ヲ三原ニ明ス、
一、十九日ニ三原ヲ立チ、竹原ヘ着、一夜ヲ竹原ニ明ス、
一、廿日ニ竹原ヲ立チ、広島ヘ着、一夜ヲ広島ニ明ス、
一、廿一日ニ広島ヲ立チ、玖波ヘ着、一夜ヲ玖波ニ明ス、
一、廿二日ニ玖波ヲ立チ、岩国ヘ着、一夜ヲ岩国ニ明ス、
一、廿三日ニ岩国ヲ立チ、上関ヘ着、一夜ヲ上関ニ明ス、
一、廿四日ニ上関ヲ立チ、室積ヘ着、一夜ヲ室積ニ明ス、
一、廿五日ニ室積ヲ立チ、下松ヘ着、一夜ヲ下松ニ明ス、
一、廿六日ニ下松ヲ立チ、山口ヘ着、一夜ヲ山口ニ明ス、
一、廿七日ニ山口ヲ立チ、秋吉ヘ着、一夜ヲ秋吉ニ明ス、
一、廿八日ニ秋吉ヲ立チ、厚狭ヘ着、一夜ヲ厚狭ニ明ス、
一、廿九日ニ厚狭ヲ立チ、小月ヘ着、一夜ヲ小月ニ明ス、
一、晦日ニ小月ヲ立チ、赤間関ヘ着、一夜ヲ赤間関ニ明ス、
一、正月朔日ニ赤間関ヲ立チ、小倉ヘ着、一夜ヲ小倉ニ明ス、
一、二日ニ小倉ヲ立チ、黒崎ヘ着、一夜ヲ黒崎ニ明ス、
一、三日ニ黒崎ヲ立チ、木屋瀬ヘ着、一夜ヲ木屋瀬ニ明ス、
一、四日ニ木屋瀬ヲ立チ、飯塚ヘ着、一夜ヲ飯塚ニ明ス、
一、五日ニ飯塚ヲ立チ、内野ヘ着、一夜ヲ内野ニ明ス、
一、六日ニ内野ヲ立チ、山家ヘ着、一夜ヲ山家ニ明ス、
一、七日ニ山家ヲ立チ、原田ヘ着、一夜ヲ原田ニ明ス、
一、八日ニ原田ヲ立チ、秋月ヘ着、一夜ヲ秋月ニ明ス、
一、九日ニ秋月ヲ立チ、甘木ヘ着、一夜ヲ甘木ニ明ス、
一、十日ニ甘木ヲ立チ、山家ヘ着、一夜ヲ山家ニ明ス、
一、十一日ニ山家ヲ立チ、原田ヘ着、一夜ヲ原田ニ明ス、
一、十二日ニ原田ヲ立チ、秋月ヘ着、一夜ヲ秋月ニ明ス、
一、十三日ニ秋月ヲ立チ、甘木ヘ着、一夜ヲ甘木ニ明ス、
一、十四日ニ甘木ヲ立チ、山家ヘ着、一夜ヲ山家ニ明ス、
一、十五日ニ山家ヲ立チ、原田ヘ着、一夜ヲ原田ニ明ス、
一、十六日ニ原田ヲ立チ、秋月ヘ着、一夜ヲ秋月ニ明ス、
一、十七日ニ秋月ヲ立チ、甘木ヘ着、一夜ヲ甘木ニ明ス、
一、十八日ニ甘木ヲ立チ、山家ヘ着、一夜ヲ山家ニ明ス、
一、十九日ニ山家ヲ立チ、原田ヘ着、一夜ヲ原田ニ明ス、
一、廿日ニ原田ヲ立チ、秋月ヘ着、一夜ヲ秋月ニ明ス、
一、廿一日ニ秋月ヲ立チ、甘木ヘ着、一夜ヲ甘木ニ明ス、
一、廿二日ニ甘木ヲ立チ、山家ヘ着、一夜ヲ山家ニ明ス、
一、廿三日ニ山家ヲ立チ、原田ヘ着、一夜ヲ原田ニ明ス、
一、廿四日ニ原田ヲ立チ、秋月ヘ着、一夜ヲ秋月ニ明ス、
一、廿五日ニ秋月ヲ立チ、甘木ヘ着、一夜ヲ甘木ニ明ス、
一、廿六日ニ甘木ヲ立チ、山家ヘ着、一夜ヲ山家ニ明ス、
一、廿七日ニ山家ヲ立チ、原田ヘ着、一夜ヲ原田ニ明ス、
一、廿八日ニ原田ヲ立チ、秋月ヘ着、一夜ヲ秋月ニ明ス、
一、廿九日ニ秋月ヲ立チ、甘木ヘ着、一夜ヲ甘木ニ明ス、
一、晦日ニ甘木ヲ立チ、山家ヘ着、一夜ヲ山家ニ明ス、
一、二月朔日ニ山家ヲ立チ、原田ヘ着、一夜ヲ原田ニ明ス、
一、二日ニ原田ヲ立チ、秋月ヘ着、一夜ヲ秋月ニ明ス、
一、三日ニ秋月ヲ立チ、甘木ヘ着、一夜ヲ甘木ニ明ス、
一、四日ニ甘木ヲ立チ、山家ヘ着、一夜ヲ山家ニ明ス、
一、五日ニ山家ヲ立チ、原田ヘ着、一夜ヲ原田ニ明ス、
一、六日ニ原田ヲ立チ、秋月ヘ着、一夜ヲ秋月ニ明ス、
一、七日ニ秋月ヲ立チ、甘木ヘ着、一夜ヲ甘木ニ明ス、
一、八日ニ甘木ヲ立チ、山家ヘ着、一夜ヲ山家ニ明ス、
一、九日ニ山家ヲ立チ、原田ヘ着、一夜ヲ原田ニ明ス、
一、十日ニ原田ヲ立チ、秋月ヘ着、一夜ヲ秋月ニ明ス、
一、十一日ニ秋月ヲ立チ、甘木ヘ着、一夜ヲ甘木ニ明ス、
一、十二日ニ甘木ヲ立チ、山家ヘ着、一夜ヲ山家ニ明ス、
一、十三日ニ山家ヲ立チ、原田ヘ着、一夜ヲ原田ニ明ス、
一、十四日ニ原田ヲ立チ、秋月ヘ着、一夜ヲ秋月ニ明ス、
一、十五日ニ秋月ヲ立チ、甘木ヘ着、一夜ヲ甘木ニ明ス、
一、十六日ニ甘木ヲ立チ、山家ヘ着、一夜ヲ山家ニ明ス、
一、十七日ニ山家ヲ立チ、原田ヘ着、一夜ヲ原田ニ明ス、
一、十八日ニ原田ヲ立チ、秋月ヘ着、一夜ヲ秋月ニ明ス、
一、十九日ニ秋月ヲ立チ、甘木ヘ着、一夜ヲ甘木ニ明ス、
一、廿日ニ甘木ヲ立チ、山家ヘ着、一夜ヲ山家ニ明ス、
一、廿一日ニ山家ヲ立チ、原田ヘ着、一夜ヲ原田ニ明ス、
一、廿二日ニ原田ヲ立チ、秋月ヘ着、一夜ヲ秋月ニ明ス、
一、廿三日ニ秋月ヲ立チ、甘木ヘ着、一夜ヲ甘木ニ明ス、
一、廿四日ニ甘木ヲ立チ、山家ヘ着、一夜ヲ山家ニ明ス、
一、廿五日ニ山家ヲ立チ、原田ヘ着、一夜ヲ原田ニ明ス、
一、廿六日ニ原田ヲ立チ、秋月ヘ着、一夜ヲ秋月ニ明ス、
一、廿七日ニ秋月ヲ立チ、甘木ヘ着、一夜ヲ甘木ニ明ス、
一、廿八日ニ甘木ヲ立チ、山家ヘ着、一夜ヲ山家ニ明ス、
一、廿九日ニ山家ヲ立チ、原田ヘ着、一夜ヲ原田ニ明ス、
一、晦日ニ原田ヲ立チ、秋月ヘ着、一夜ヲ秋月ニ明ス、
一、三月朔日ニ秋月ヲ立チ、甘木ヘ着、一夜ヲ甘木ニ明ス、
一、二日ニ甘木ヲ立チ、山家ヘ着、一夜ヲ山家ニ明ス、
一、三日ニ山家ヲ立チ、原田ヘ着、一夜ヲ原田ニ明ス、
一、四日ニ原田ヲ立チ、秋月ヘ着、一夜ヲ秋月ニ明ス、
一、五日ニ秋月ヲ立チ、甘木ヘ着、一夜ヲ甘木ニ明ス、
一、六日ニ甘木ヲ立チ、山家ヘ着、一夜ヲ山家ニ明ス、
一、七日ニ山家ヲ立チ、原田ヘ着、一夜ヲ原田ニ明ス、
一、八日ニ原田ヲ立チ、秋月ヘ着、一夜ヲ秋月ニ明ス、
一、九日ニ秋月ヲ立チ、甘木ヘ着、一夜ヲ甘木ニ明ス、
一、十日ニ甘木ヲ立チ、山家ヘ着、一夜ヲ山家ニ明ス、
一、十一日ニ山家ヲ立チ、原田ヘ着、一夜ヲ原田ニ明ス、
一、十二日ニ原田ヲ立チ、秋月ヘ着、一夜ヲ秋月ニ明ス、
一、十三日ニ秋月ヲ立チ、甘木ヘ着、一夜ヲ甘木ニ明ス、
一、十四日ニ甘木ヲ立チ、山家ヘ着、一夜ヲ山家ニ明ス、
一、十五日ニ山家ヲ立チ、原田ヘ着、一夜ヲ原田ニ明ス、
一、十六日ニ原田ヲ立チ、秋月ヘ着、一夜ヲ秋月ニ明ス、
一、十七日ニ秋月ヲ立チ、甘木ヘ着、一夜ヲ甘木ニ明ス、
一、十八日ニ甘木ヲ立チ、山家ヘ着、一夜ヲ山家ニ明ス、
一、十九日ニ山家ヲ立チ、原田ヘ着、一夜ヲ原田ニ明ス、
一、廿日ニ原田ヲ立チ、秋月ヘ着、一夜ヲ秋月ニ明ス、
一、廿一日ニ秋月ヲ立チ、甘木ヘ着、一夜ヲ甘木ニ明ス、
一、廿二日ニ甘木ヲ立チ、山家ヘ着、一夜ヲ山家ニ明ス、
一、廿三日ニ山家ヲ立チ、原田ヘ着、一夜ヲ原田ニ明ス、
一、廿四日ニ原田ヲ立チ、秋月ヘ着、一夜ヲ秋月ニ明ス、
一、廿五日ニ秋月ヲ立チ、甘木ヘ着、一夜ヲ甘木ニ明ス、
一、廿六日ニ甘木ヲ立チ、山家ヘ着、一夜ヲ山家ニ明ス、
一、廿七日ニ山家ヲ立チ、原田ヘ着、一夜ヲ原田ニ明ス、
一、廿八日ニ原田ヲ立チ、秋月ヘ着、一夜ヲ秋月ニ明ス、
一、廿九日ニ秋月ヲ立チ、甘木ヘ着、一夜ヲ甘木ニ明ス、
一、晦日ニ甘木ヲ立チ、山家ヘ着、一夜ヲ山家ニ明ス、
一、四月朔日ニ山家ヲ立チ、原田ヘ着、一夜ヲ原田ニ明ス、
一、二日ニ原田ヲ立チ、秋月ヘ着、一夜ヲ秋月ニ明ス、
一、三日ニ秋月ヲ立チ、甘木ヘ着、一夜ヲ甘木ニ明ス、
一、四日ニ甘木ヲ立チ、山家ヘ着、一夜ヲ山家ニ明ス、
一、五日ニ山家ヲ立チ、原田ヘ着、一夜ヲ原田ニ明ス、
一、六日ニ原田ヲ立チ、秋月ヘ着、一夜ヲ秋月ニ明ス、
一、七日ニ秋月ヲ立チ、甘木ヘ着、一夜ヲ甘木ニ明ス、
一、八日ニ甘木ヲ立チ、山家ヘ着、一夜ヲ山家ニ明ス、
一、九日ニ山家ヲ立チ、原田ヘ着、一夜ヲ原田ニ明ス、
一、十日ニ原田ヲ立チ、秋月ヘ着、一夜ヲ秋月ニ明ス、
一、十一日ニ秋月ヲ立チ、甘木ヘ着、一夜ヲ甘木ニ明ス、
一、十二日ニ甘木ヲ立チ、山家ヘ着、一夜ヲ山家ニ明ス、
一、十三日ニ山家ヲ立チ、原田ヘ着、一夜ヲ原田ニ明ス、
一、十四日ニ原田ヲ立チ、秋月ヘ着、一夜ヲ秋月ニ明ス、
一、十五日ニ秋月ヲ立チ、甘木ヘ着、一夜ヲ甘木ニ明ス、
一、十六日ニ甘木ヲ立チ、山家ヘ着、一夜ヲ山家ニ明ス、
一、十七日ニ山家ヲ立チ、原田ヘ着、一夜ヲ原田ニ明ス、
一、十八日ニ原田ヲ立チ、秋月ヘ着、一夜ヲ秋月ニ明ス、
一、十九日ニ秋月ヲ立チ、甘木ヘ着、一夜ヲ甘木ニ明ス、
一、廿日ニ甘木ヲ立チ、山家ヘ着、一夜ヲ山家ニ明ス、
一、廿一日ニ山家ヲ立チ、原田ヘ着、一夜ヲ原田ニ明ス、
一、廿二日ニ原田ヲ立チ、秋月ヘ着、一夜ヲ秋月ニ明ス、
一、廿三日ニ秋月ヲ立チ、甘木ヘ着、一夜ヲ甘木ニ明ス、
一、廿四日ニ甘木ヲ立チ、山家ヘ着、一夜ヲ山家ニ明ス、
一、廿五日ニ山家ヲ立チ、原田ヘ着、一夜ヲ原田ニ明ス、
一、廿六日ニ原田ヲ立チ、秋月ヘ着、一夜ヲ秋月ニ明ス、
一、廿七日ニ秋月ヲ立チ、甘木ヘ着、一夜ヲ甘木ニ明ス、
一、廿八日ニ甘木ヲ立チ、山家ヘ着、一夜ヲ山家ニ明ス、
一、廿九日ニ山家ヲ立チ、原田ヘ着、一夜ヲ原田ニ明ス、
一、晦日ニ原田ヲ立チ、秋月ヘ着、一夜ヲ秋月ニ明ス、
一、五月朔日ニ秋月ヲ立チ、甘木ヘ着、一夜ヲ甘木ニ明ス、
一、二日ニ甘木ヲ立チ、山家ヘ着、一夜ヲ山家ニ明ス、
一、三日ニ山家ヲ立チ、原田ヘ着、一夜ヲ原田ニ明ス、
一、四日ニ原田ヲ立チ、秋月ヘ着、一夜ヲ秋月ニ明ス、
一、五日ニ秋月ヲ立チ、甘木ヘ着、一夜ヲ甘木ニ明ス、
一、六日ニ甘木ヲ立チ、山家ヘ着、一夜ヲ山家ニ明ス、
一、七日ニ山家ヲ立チ、原田ヘ着、一夜ヲ原田ニ明ス、
一、八日ニ原田ヲ立チ、秋月ヘ着、一夜ヲ秋月ニ明ス、
一、九日ニ秋月ヲ立チ、甘木ヘ着、一夜ヲ甘木ニ明ス、
一、十日ニ甘木ヲ立チ、山家ヘ着、一夜ヲ山家ニ明ス、
一、十一日ニ山家ヲ立チ、原田ヘ着、一夜ヲ原田ニ明ス、
一、十二日ニ原田ヲ立チ、秋月ヘ着、一夜ヲ秋月ニ明ス、
一、十三日ニ秋月ヲ立チ、甘木ヘ着、一夜ヲ甘木ニ明ス、
一、十四日ニ甘木ヲ立チ、山家ヘ着、一夜ヲ山家ニ明ス、
一、十五日ニ山家ヲ立チ、原田ヘ着、一夜ヲ原田ニ明ス、
一、十六日ニ原田ヲ立チ、秋月ヘ着、一夜ヲ秋月ニ明ス、
一、十七日ニ秋月ヲ立チ、甘木ヘ着、一夜ヲ甘木ニ明ス、
一、十八日ニ甘木ヲ立チ、山家ヘ着、一夜ヲ山家ニ明ス、
一、十九日ニ山家ヲ立チ、原田ヘ着、一夜ヲ原田ニ明ス、
一、廿日ニ原田ヲ立チ、秋月ヘ着、一夜ヲ秋月ニ明ス、
一、廿一日ニ秋月ヲ立チ、甘木ヘ着、一夜ヲ甘木ニ明ス、
一、廿二日ニ甘木ヲ立チ、山家ヘ着、一夜ヲ山家ニ明ス、
一、廿三日ニ山家ヲ立チ、原田ヘ着、一夜ヲ原田ニ明ス、
一、廿四日ニ原田ヲ立チ、秋月ヘ着、一夜ヲ秋月ニ明ス、
一、廿五日ニ秋月ヲ立チ、甘木ヘ着、一夜ヲ甘木ニ明ス、
一、廿六日ニ甘木ヲ立チ、山家ヘ着、一夜ヲ山家ニ明ス、
一、廿七日ニ山家ヲ立チ、原田ヘ着、一夜ヲ原田ニ明ス、
一、廿八日ニ原田ヲ立チ、秋月ヘ着、一夜ヲ秋月ニ明ス、
一、廿九日ニ秋月ヲ立チ、甘木ヘ着、一夜ヲ甘木ニ明ス、
一、晦日ニ甘木ヲ立チ、山家ヘ着、一夜ヲ山家ニ明ス、
一、六月朔日ニ山家ヲ立チ、原田ヘ着、一夜ヲ原田ニ明ス、
一、二日ニ原田ヲ立チ、秋月ヘ着、一夜ヲ秋月ニ明ス、
一、三日ニ秋月ヲ立チ、甘木ヘ着、一夜ヲ甘木ニ明ス、
一、四日ニ甘木ヲ立チ、山家ヘ着、一夜ヲ山家ニ明ス、
一、五日ニ山家ヲ立チ、原田ヘ着、一夜ヲ原田ニ明ス、
一、六日ニ原田ヲ立チ、秋月ヘ着、一夜ヲ秋月ニ明ス、
一、七日ニ秋月ヲ立チ、甘木ヘ着、一夜ヲ甘木ニ明ス、
一、八日ニ甘木ヲ立チ、山家ヘ着、一夜ヲ山家ニ明ス、
一、九日ニ山家ヲ立チ、原田ヘ着、一夜ヲ原田ニ明ス、
一、十日ニ原田ヲ立チ、秋月ヘ着、一夜ヲ秋月ニ明ス、
一、十一日ニ秋月ヲ立チ、甘木ヘ着、一夜ヲ甘木ニ明ス、
一、十二日ニ甘木ヲ立チ、山家ヘ着、一夜ヲ山家ニ明ス、
一、十三日ニ山家ヲ立チ、原田ヘ着、一夜ヲ原田ニ明ス、
一、十四日ニ原田ヲ立チ、秋月ヘ着、一夜ヲ秋月ニ明ス、
一、十五日ニ秋月ヲ立チ、甘木ヘ着、一夜ヲ甘木ニ明ス、
一、十六日ニ甘木ヲ立チ、山家ヘ着、一夜ヲ山家ニ明ス、
一、十七日ニ山家ヲ立チ、原田ヘ着、一夜ヲ原田ニ明ス、
一、十八日ニ原田ヲ立チ、秋月ヘ着、一夜ヲ秋月ニ明ス、
一、十九日ニ秋月ヲ立チ、甘木ヘ着、一夜ヲ甘木ニ明ス、
一、廿日ニ甘木ヲ立チ、山家ヘ着、一夜ヲ山家ニ明ス、
一、廿一日ニ山家ヲ立チ、原田ヘ着、一夜ヲ原田ニ明ス、
一、廿二日ニ原田ヲ立チ、秋月ヘ着、一夜ヲ秋月ニ明ス、
一、廿三日ニ秋月ヲ立チ、甘木ヘ着、一夜ヲ甘木ニ明ス、
一、廿四日ニ甘木ヲ立チ、山家ヘ着、一夜ヲ山家ニ明ス、
一、廿五日ニ山家ヲ立チ、原田ヘ着、一夜ヲ原田ニ明ス、
一、廿六日ニ原田ヲ立チ、秋月ヘ着、一夜ヲ秋月ニ明ス、
一、廿七日ニ秋月ヲ立チ、甘木ヘ着、一夜ヲ甘木ニ明ス、
一、廿八日ニ甘木ヲ立チ、山家ヘ着、一夜ヲ山家ニ明ス、
一、廿九日ニ山家ヲ立チ、原田ヘ着、一夜ヲ原田ニ明ス、
一、晦日ニ原田ヲ立チ、秋月ヘ着、一夜ヲ秋月ニ明ス、
一、七月朔日ニ秋月ヲ立チ、甘木ヘ着、一夜ヲ甘木ニ明ス、
一、二日ニ甘木ヲ立チ、山家ヘ着、一夜ヲ山家ニ明ス、
一、三日ニ山家ヲ立チ、原田ヘ着、一夜ヲ原田ニ明ス、
一、四日ニ原田ヲ立チ、秋月ヘ着、一夜ヲ秋月ニ明ス、
一、五日ニ秋月ヲ立チ、甘木ヘ着、一夜ヲ甘木ニ明ス、
一、六日ニ甘木ヲ立チ、山家ヘ着、一夜ヲ山家ニ明ス、
一、七日ニ山家ヲ立チ、原田ヘ着、一夜ヲ原田ニ明ス、
一、八日ニ原田ヲ立チ、秋月ヘ着、一夜ヲ秋月ニ明ス、
一、九日ニ秋月ヲ立チ、甘木ヘ着、一夜ヲ甘木ニ明ス、
一、十日ニ甘木ヲ立チ、山家ヘ着、一夜ヲ山家ニ明ス、
一、十一日ニ山家ヲ立チ、原田ヘ着、一夜ヲ原田ニ明ス、
一、十二日ニ原田ヲ立チ、秋月ヘ着、一夜ヲ秋月ニ明ス、
一、十三日ニ秋月ヲ立チ、甘木ヘ着、一夜ヲ甘木ニ明ス、
一、十四日ニ甘木ヲ立チ、山家ヘ着、一夜ヲ山家ニ明ス、
一、十五日ニ山家ヲ立チ、原田ヘ着、一夜ヲ原田ニ明ス、
一、十六日ニ原田ヲ立チ、秋月ヘ着、一夜ヲ秋月ニ明ス、
一、十七日ニ秋月ヲ立チ、甘木ヘ着、一夜ヲ甘木ニ明ス、
一、十八日ニ甘木ヲ立チ、山家ヘ着、一夜ヲ山家ニ明ス、
一、十九日ニ山家ヲ立チ、原田ヘ着、一夜ヲ原田ニ明ス、
一、廿日ニ原田ヲ立チ、秋月ヘ着、一夜ヲ秋月ニ明ス、
一、廿一日ニ秋月ヲ立チ、甘木ヘ着、一夜ヲ甘木ニ明ス、
一、廿二日ニ甘木ヲ立チ、山家ヘ着、一夜ヲ山家ニ明ス、
一、廿三日ニ山家ヲ立チ、原田ヘ着、一夜ヲ原田ニ明ス、
一、廿四日ニ原田ヲ立チ、秋月ヘ着、一夜ヲ秋月ニ明ス、
一、廿五日ニ秋月ヲ立チ、甘木ヘ着、一夜ヲ甘木ニ明ス、
一、廿六日ニ甘木ヲ立チ、山家ヘ着、一夜ヲ山家ニ明ス、
一、廿七日ニ山家ヲ立チ、原田ヘ着、一夜ヲ原田ニ明ス、
一、廿八日ニ原田ヲ立チ、秋月ヘ着、一夜ヲ秋月ニ明ス、
一、廿九日ニ秋月ヲ立チ、甘木ヘ着、一夜ヲ甘木ニ明ス、
一、晦日ニ甘木ヲ立チ、山家ヘ着、一夜ヲ山家ニ明ス、
一、八月朔日ニ山家ヲ立チ、原田ヘ着、一夜ヲ原田ニ明ス、
一、二日ニ原田ヲ立チ、秋月ヘ着、一夜ヲ秋月ニ明ス、
一、三日ニ秋月ヲ立チ、甘木ヘ着、一夜ヲ甘木ニ明ス、
一、四日ニ甘木ヲ立チ、山家ヘ着、一夜ヲ山家ニ明ス、
一、五日ニ山家ヲ立チ、原田ヘ着、一夜ヲ原田ニ明ス、
一、六日ニ原田ヲ立チ、秋月ヘ着、一夜ヲ秋月ニ明ス、
一、七日ニ秋月ヲ立チ、甘木ヘ着、一夜ヲ甘木ニ明ス、
一、八日ニ甘木ヲ立チ、山家ヘ着、一夜ヲ山家ニ明ス、
一、九日ニ山家ヲ立チ、原田ヘ着、一夜ヲ原田ニ明ス、
一、十日ニ原田ヲ立チ、秋月ヘ着、一夜ヲ秋月ニ明ス、
一、十一日ニ秋月ヲ立チ、甘木ヘ着、一夜ヲ甘木ニ明ス、
一、十二日ニ甘木ヲ立チ、山家ヘ着、一夜ヲ山家ニ明ス、
一、十三日ニ山家ヲ立チ、原田ヘ着、一夜ヲ原田ニ明ス、
一、十四日ニ原田ヲ立チ、秋月ヘ着、一夜ヲ秋月ニ明ス、
一、十五日ニ秋月ヲ立チ、甘木ヘ着、一夜ヲ甘木ニ明ス、
一、十六日ニ甘木ヲ立チ、山家ヘ着、一夜ヲ山家ニ明ス、
一、十七日ニ山家ヲ立チ、原田ヘ着、一夜ヲ原田ニ明ス、
一、十八日ニ原田ヲ立チ、秋月ヘ着、一夜ヲ秋月ニ明ス、
一、十九日ニ秋月ヲ立チ、甘木ヘ着、一夜ヲ甘木ニ明ス、
一、廿日ニ甘木ヲ立チ、山家ヘ着、一夜ヲ山家ニ明ス、
一、廿一日ニ山家ヲ立チ、原田ヘ着、一夜ヲ原田ニ明ス、
一、廿二日ニ原田ヲ立チ、秋月ヘ着、一夜ヲ秋月ニ明ス、
一、廿三日ニ秋月ヲ立チ、甘木ヘ着、一夜ヲ甘木ニ明ス、
一、廿四日ニ甘木ヲ立チ、山家ヘ着、一夜ヲ山家ニ明ス、
一、廿五日ニ山家ヲ立チ、原田ヘ着、一夜ヲ原田ニ明ス、
一、廿六日ニ原田ヲ立チ、秋月ヘ着、一夜ヲ秋月ニ明ス、
一、廿七日ニ秋月ヲ立チ、甘木ヘ着、一夜ヲ甘木ニ明ス、
一、廿八日ニ甘木ヲ立チ、山家ヘ着、一夜ヲ山家ニ明ス、
一、廿九日ニ山家ヲ立チ、原田ヘ着、一夜ヲ原田ニ明ス、
一、晦日ニ原田ヲ立チ、秋月ヘ着、一夜ヲ秋月ニ明ス、
一、九月朔日ニ秋月ヲ立チ、甘木ヘ着、一夜ヲ甘木ニ明ス、
一、二日ニ甘木ヲ立チ、山家ヘ着、一夜ヲ山家ニ明ス、
一、三日ニ山家ヲ立チ、原田ヘ着、一夜ヲ原田ニ明ス、
一、四日ニ原田ヲ立チ、秋月ヘ着、一夜ヲ秋月ニ明ス、
一、五日ニ秋月ヲ立チ、甘木ヘ着、一夜ヲ甘木ニ明ス、
一、六日ニ甘木ヲ立チ、山家ヘ着、一夜ヲ山家ニ明ス、
一、七日ニ山家ヲ立チ、原田ヘ着、一夜ヲ原田ニ明ス、
一、八日ニ原田ヲ立チ、秋月ヘ着、一夜ヲ秋月ニ明ス、
一、九日ニ秋月ヲ立チ、甘木ヘ着、一夜ヲ甘木ニ明ス、
一、十日ニ甘木ヲ立チ、山家ヘ着、一夜ヲ山家ニ明ス、
一、十一日ニ山家ヲ立チ、原田ヘ

信濃山家次第能登守教経
弥才進管者也全体勿行不下方ヲ遠矢仕
ヒケリ

ヲ承リ
城外ノ盛扶高到ル事多故ト聞エ
エ於入吾林ト云所ニ陣ヲ取、
ク夏ニ移方ニテ
（日細川玄頓討死ノ事）
四年十月山城ヲ内ヲ西ノ京ニ、細川武陽、義千人余ノ細川玄蕃
頭国慶ヲ大将トシテ、阿州宗王ヲ
角露昭元、味方トシテ、多勢ヲ
ケトヒトシテ又十連ヲ取リケレバ、国慶方ニモ大ヲ切先ヲ大ヲ七

ヲ給ヒ、多勢ヲ
内方ヲ、武陽御兄弟ヲ、方ヲ落
ク城落ケンコトヲモ、日ニ
ヌ、明ル天文十七年戊申ノ春ニ
事アリ、四月廿四日吉林ニ陣取
家ニ、四国衆悦ヲナシ下向ス、
日ノ方ヨリ使ヲ以テ、近取阪山口ノ
ケリ、カヽル処ニ細川殿宗、
ニテ今度ノ味ニテ成ント
ヲ好ヲ三年ヲヘ、
成カタシト沙汰ニテ
申ニ無相違ヨキコトニ

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03986

（中村家傳ノ事）

（南　畠山家傳ノ事）

畠山ト申ハ根本武州ノ秩父ノ畠山ヨリ、無二ノ畠山ト申ハ根本武州ノ秩父ノ畠山ヨリ、無二ノ
聲ヲ、重忠後裔ニテマシマス　生言ノ後ノ
利家ノ系ノ時ヨリ正統ニテ武蔵ニ從
源氏ニ代々忠利ノ第一ニテ、六代目ノ畠山殿ヲ屋敷ノ
初ニテ屋敷ノ、一ヲ、男子ニ重國法
寺ト法名迄、其事満慶能ク守リ國ノ畠山ノ名ヲ立ラル迄
ノ子　持國法名徳本、此家領ノ時ノ子ナレドモ
ヲ橘子トテ家督ヲユヅリ給フヲ、實子ハ
第ノ家督ヲハカセ、是又庶仁ト乱
上位分ニ屋敷ヲ、其ヨリ第ノ系ハ畠山
卑也、其子能登守宣光ノ子ノ畠山
尚順修ノ尚慶ノ政名ヲ、法名ト山政長ノ
大納言尚光ノ時ニ改名ヲ、大納言時光、遊位ノ日ノ
内室ノ時也、ト山ノ子息ニテヲハシテ、一ニ植長、其弟春堅、石垣左京
大夫其弟尚長民、其弟征綱ニテ時遷、其子政慶、
女子ニテヲハシテ、公家ニ近衛殿ノ室、實ハ政尚ノ室、第四ノ娘殿ノ室、第五ノ娘殿ノ室ノ時遷也、武家ニハ稲葉右京
山本カ妻、第四ノ娘殿ノ室ノ時遷也、畠山ノ頃也、畠山ノ下ノ神保遷住
ヲリ、武蔵守ノ領ニ、家人ニ、アラヘ、思ハ畠山
二ト称ス、其家ニ、手ノ三家又被官ヲリ、石被官
モ、或ハ名字、或ハ父子両家ニヲリヲリ、一両畠山ト遷住河内守ト云フ
一人ニ二人ヲリ、記ス、今座ニ詰中ニ子ト云フ

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03986

（日細川家傳一事）
（日三好家傳一事）
（日上方陣合取一事）

天文十七年申年阿州ヨリ至堺ト陸ヲ家、三好ト和談ニテ、卯月堺ヲ
各同陣ニテ、五月二日ニ三好宗渭ト松永ト妹ニ婿入ス、
京中騒ガシト慌ニ会ヒシ、此近年ヲ始メ、
堺ニテ三好方取合ノ時、三好長慶ニ舟共ニ
事ノ働トテ アレカトテ 孔中ヒシ、連々懇意
相調ヒレハ、此ニ云ヒ父子ノ如ク ニテ
ヨメヲモテ、無ト云ヒ所ヲ云ヒ 取ヒシ、
サアラハ ヤタ浦ヲ内儀ヨリ、此事ヲ
同八月十一日ニ細川晴元堺中カヒニ
方ノ方ヲ退ヒテ、此事アラヒレ、

ヒニ出ヒシ長慶ノ第十川天部大輔、三好右馬助外人数十七箇所ニ
入ヒレヨリ、三好右馬大夫政長ノ援兵ニ取巻ヤリ合止陣ヒシ、京ヨリ山下一町ニ
ヒ好加州ニ人ヒヒヒサレ、トカクノ方ヒ帰参形ヒ云ヒヒ一味ヒシ、山京ニ
残ルヘキトヒ摂津ノ守ヒ経テ、無トヒヒ十月ノ長慶ノ第ヒシ、
長慶ノ帰陣ヒ、三好加州ノ経ヒ京ニ方ヒ中島ノ会所ニ対死ヒ、
細川晴元ニ三月敗ヒヒ川ヒ林ノ寺ニ西山ヒヒ云ヒ
城ヒ取ラノ為ニ ツカハサレヒシ、父元長ヒ
ヨリ加勢ストイヘトモ、摂津守政所思ノ
ニ永生寺ニテ サヤヒ思ヒカヤ、舟ニ陸ヒ
方ノ森目ト云ヒヒ細川二帰氏ノ一ヒヒ云ヒ、
松ノ家ニ帰一栄ヒシ、阿波ノ守所ヒ馬路ヒ

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03986

十年長岡三好筒井順昭ヲ毒殺シテ
阿州ノ細川家、摂州上郡ヲモ切靡、其外
郡、若狭丹波、下郡ハ地国、西国ニ
鎮西手、同勢集セ、毎度国ニ向ヒ豊前守、惣座国ニ衆ヲ
兄弟、和泉国ニ松浦肥前守、
ニ、任丹大和守ヲ始メ無二計ヒ申ケレバ
二月十一日ニ秋水ノ博多ヲ好家ヲ
九月阿州家、畠山左衛門尉ヲ
少輔定頼朝臣ニ晴元ニ勝ヲ
任官叙爵ス、メデタシ晴元ニ加勢アンコト今ニ迄
十六年ニ及ブ云々

一乱ヲ好笑前守謀叛、松浦肥前守一味ヲ催、当時天下
三旨任大夫殿以御直札被仰
別而軽骨ヲ為肝要候旨時宜
猶遅参山城守下申候恐々謹言

正月十三日　　宗養判

山岸殿御報

同正月廿四日ニ堺ニ参ル由ヲ聞ケ事ヲ
大ヲ、同二月十二日ニ秋水ヲ任丹上
好長慶ノ勢ニ打破、同十九日ニ遊佐
畠城楯並城ヲ落ス。ヲ無体アリテ
阿州内衆、畠山家、遊佐家ヲ
独山ヲ、細川右京大夫晴元ハ細川ヲ馬頭晴堅ノ館中島城ヲ築ヲ、
同三月一日ニ好長慶衆中島ニ発向ス、築島城ヲ典厩家、堺三家

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03986

ル報リケレハ、城ノ西方ヨリ出合撃ニ討チ取ルヘシトノ命ヲ蒙リ、同日ノ昼ニアラス夜ニ入リ、長慶ノ寄コシ河辺ノ猿之介ト計リ死ス、長慶ノ寄コシ河辺ノ猿之介ト計リ死ス、剛吟ヲ城ニ入レ、猿之介ト計リ死ス、剛吟ヲ城ニ入レ、猿之介ト計リ死ス、剛吟ヲ城ニ入レ、

ニ如何ト云ヒ、日向守ヲ居ラレ白井入道淳三、甘北左衛門軍配名
答、天文ニシテヲ宗メケルカ、是ヲ見テ甚ク味方ノ為事也、予ノ本
南ニ在レハ、武細指カ信玄ト申レン、後ク思
ト今ニハ女ニモ遠ナカリケン、同五月三日ヲ諸勢川事ニ御
工参ラレケル、同月廿日永禄信
云ヒ一味同心セハ、江内工地向ト
方ト遊佐方ヲ後、ヲ好ヲ加
本江衆計ヲ引行ケリ、同
之返リ給フ

（実ヲ出ス事四工）

六月十日ノ日十天ニ実ニ、援
レ、ヲ千餘騎江口ヘ渡リヲニ

要害ニテハ、近江勢ノ待受ケ
ノ歩トヲハ是ニテ、ヲヲ合
民部大輔方ト安山ヲ撰陣
通路ノ間ヲ、六角定政ノ子息
方ヲ合テ一手ヲ陣ヲ遮レトトモ
ス数方軽保ノ大勢ヲ通
取切ラレハ、実ヲハイカヽセント
牡屋ノ陣ヲ

川向ヲ守テ近江ノ勢
（四工 江口城攻ラレ実ヲ打
主程ニ好方諸大将中御ニ
天下安全ニ一統ニ有ト物イハ

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03986

ケル、近江衆ヲ攻ムル軽体ナレバ、急キテ城エ押寄時元ヲ討取ント、江北ニ押寄テ申レケレバ、長慶ハ松永ヲ攻ムルヲ捨テ、急ギ八千ノ兵ヲ率シテ天ノ峯ニ打上リ、東ヲ見下ロシケリ、十河民部大輔一存ハ、三好ノ先手ニ加リテ、六月廿四日ノ夜明ヲ待兼テ、三千余騎ヲ引率シテ、城エ押寄ントシケルガ、サヤウニハセデ、二ノ木ニテ辻入ヲ、城ニ百余人ヘウニ、大手ノ木戸ヲ攻破リテ、小野ヲレトモ、誉田ノ人数石ニ比ベタル兵ナレバ、十河少モ退ケル色モナク、城ノ方ヲ睨ミ一段ヲメイテ下リケル、長慶ノ方ニテハ事故有ト思ヒ、時元ヲ攻ムル事ヲ止テ、イヤヤニ城エ押寄ケル、十河勢ニテ追ヒ、一味同心シテ陰川ノ岸ニ打上ケル、長慶ハ是ヲ見テ、遮テ十河ヲ入、馬イカダニ水ヲヤカセ安ケトお渡シイテ進ム、先陣三百余騎ニ一騎モ不及、江北ノ兵ヲ一ツ所ニ追詰テ、切伏ケル、別府ノ手ヨリ入ケレバ、又三好長慶三千余騎ヲ打連テ、江北ノ兵ヲ蒐ケル、味方ノ城ニハ僅ニ二千余騎、仔レモ日比手柄ノ名ヲ得タル者ドモナレバ、中ニ取込メテ、四方ヨリ攻ケレバ、叶ハジト思ヒケン、城ニ火ヲ懸テ、江北ノ兵ヲ引連テ、淀ノ方ヘ落行ケル、長慶ハ城ニ入テ、時元ヲ初メ二千三百八十二人ノ首ヲ実検シテ、勝鬨ヲ作テ、天王寺ニ陣ヲ取ケル、

三好長慶摂津ノ芥川山ニ城ヲ築キ住ス事

長慶ハ、摂津ノ芥川山ニ城ヲ築キ、住ス事ハ、細川ノ末葉ニ、澄元ト申ス人ノ、阿波ノ国ヨリ上洛シテ、京都ヲ治メ給ヒシ時、三好ノ一族ヲ、阿波ノ国ヨリ召具シテ上洛シケル、其ノ内ニ、三好ノ下野守ト云ケル者ニ、芥川山ヲ賜ハリケル、其ノ子孫ニ、三好ノ左京大夫義長ト云ケル者、永禄ノ頃ニ、将軍義輝ヲ、松永ガ為ニ討奉リケル、其ノ時ノ将軍ハ、義輝ノ御弟ニ、鹿苑院ノ周暠ト云ケル僧ニテ、東山ニ住ケルヲ、義長ガ申ケルハ、義輝ハ、我ガ為ニ、従兄弟ニテ、ヨリ近キ間ナレバ、義輝ノ跡ヲ、我ニ継セ給ヘト、申ケレバ

（日大将ト晴元将没落事）

去程ニ細川右京大夫晴元ハ三好ヲ
伴ヒ堺ヨリ上リケル、面目ナク思ヒ
給ヒケレ共、公方様ヲ伴ヒ奉リ
給ヒ上洛ニ達セレカ、公方様ヲ頼リ
奉リ、
廿五ヶ条ニ及ヒテ上洛アル、六角右京大夫義賢、江州ヲ三需ニ
解除ニテ後陣ノタメ上洛ヲヌ、晴国、幸嗣、ト云指ノ宿、伊木、荒川、
和二貫堅田ヲ打上リ大津、松本、今道、山中マテ四条、三條ノ辺迄
ニ打ヲ西ハ嵐、鳥羽、竹田、山崎、神南ニ陣ヲトル、大将軍左京大夫
義賢、東寺九条ニ打ヲリ、無レ程ヲ十余町ヲ押寄、東寺ヨリ
五ヶ所刻山崎ニ陣ヲ取、進ム山崎宇治ヲ引ヲヒル、長束大輔
左エ門ヲ打退ヶ皆敗ヲニ落行ヲ、追ヲ引返ス公
方義晴公当公方御舘ヲ晴元将一味ヲレカニ、日廿七日巳刻許

ヲ落サセ給フ、公家ニハ近衛殿御合晴嗣公、聖護院道増、大学寺殿
義俊、三宝院僧正義堯等ヲ、大将ハ小舟ヲ、其外ノ我大徳ヲ昭通寺、
寺ニ細川右京大夫晴元、日右手頭晴源院堅、同名掃部介元常以下東山、菊岡
ニ陣ヲ取ル、廿日軍評定ヲレニ、廿五日東山菩提寺、
地迄向下リ、明ル廿六日未明ニ在京ノ諸軍勢ヲ
引退ク、事ヲ終ニヲレヲレトモ、晴元ハセメテ廿七日ノ
引退ク事ヲ待ニヲレヲレトモ、晴元ハセメテ廿七日ノ
（日信長天下ヲ執ル事）

当年十月九日高野寺ノ大徳、中居ニ城ヲ
義昭公御所ヘ参詣ノ為ニヲ上洛、明ル日ヲ御所
天文十九年正月元日、諸侍出仕ヲ御祝儀ヲ、廿日ヲ天御盃ヲ
重ヲ給ヒ、二月十六日陽山ヲ御暇請本国ノ為ヲ参詣ヲ、
地蔵山ニ城ヲ拵ヘ御年貢ヲ下ヲレヲ寺院名職也、領又職ハ同廿七日

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03986

ト定メラレシカバ、城中衆評議ニ参リテンヤ、伊丹大和守御ニ頭ト一味同体ニ進ムベシトテ、右京大夫晴元朝臣逐ヒ奉リ、事類ノ枚挙ニ遑アラズ、皆悪家ノ、カニカル、城中ノ制法廿箇条計ヲモテ、城中ノ堅固ニツケ御入魂ノ事特ニセラレシト、上ヨリ、柳伊丹大和守親典ハ、摂州表ニ於テ伊丹城計不落ニテ味方ニセラレシカバ、三好宗三八月廿四日ノ夜半ニ向城ヲカマヘ攻ケレバ、元来方寡ク池田衆ト同城ノ柏原ノ若田城ニ渡辺衆、西ノ郷領ニ三好方衆残リ、カヤウニ攻寄ケレドモ、伊丹城ヨリ御扶持ニ夜ヲ日ニ遣ケレバ、無レハ天文十九年二月十日ノ夜和守長慶富松城ニ古城アリ、伊丹城ニ攻アルベシト諸口ニ陣ヲ取ケレバ、和泉ノ事ハ遊佐河内守管ケレバ、五ヶ国勢ヲ合セ、同三月廿日ニ伊丹大和守、尼崎本興寺ニ参会アリテ和睦ヲ調、同廿九日ニ両陣ノ人数引入ケリ

（同）若狭軍発遣ノ事

同五年二月二日ニ次第ニ御暴例急ナリケレバ、在城衆ヲ召サレ、上野民部大輔、伊勢伊賀守、三淵掃部頭、飯尾掃津摂津守ニ在城ノ人々ヲネト召ニ被レ遣ケレバ、各参ケリ、カク次第ニツヅケ給フ、同二月廿四日ニ、ナレハベレ、ナレハベレ表ニ経ヲカケ給フ、同廿七日ナリケリ東山慈照寺ニ出レ給ヒ、諸内外様人々ノ勢ヲ中々アロカナリ、日代ノ場経ノ正ヲ他大納言ニ譲リ給ヒ、若狭ノ守護ニ補任アリ、従一位ノ左大臣萬松院殿ト号ス、薨逝ニ年五十六ナリ、アコリニ、若狭ノ守護ヲ麻生左京門佐時定ト云ケル、山門黒谷ノ僧ニ、法名常信ト云、時定所ヲ捨テ、後ニ若狭ノ守護ヲ申シ、御成ノ御ノ麻生院ノ妙安ト云ケル、十九ニ麻生院ト

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03986

頃経ノ御帝ト乱ノ国国ニ寺盛季差行ス、恵山ノコトト為照寺ノ中ニカマエル代ヲ、大樹ノ御送リニ松山等持院ヲトヲ、今ノ乱世ニ不叶、此日比市寄中ニ住ノ住心ニカケシテ御送リ乱有ラ、御京陽ニクベク、人ヲカキリ出家ス、摂津据陣宇元造法名道恕、三嗣掃部頭晴員入道法浦山手寺、井上城中宇宗春法名自便、松田丹後守昭春法名祥ヲ、ヲシテ、哀ヲ泊ノ、日月十一ノ細川右京大夫六角吉康ト伴当行ヲ山ヲイカメ申シヲシテ、当所ノ我輩ヲ比叡ニ敷セ、ヲ泉寺ヲ陣ヲヲ、同六月廿二日時遠物ノ帯太刀ヲ堅中ヲ寺ヲ、城使ニ伴ヲ宇自殺ヲ、日共ノ清家ヲ参有、御代ヲノ帯礼太刀打銭持参ヲ、松時ノ節新家ト御話容ト云ノ後期論アリシ、新ヲ剛原ヲ宇ヲ、七月二日ヲ城代ヲ御法談初ヲリ、先ヲ人事行松田入道ヲ宇得ヲ初ノ事行共ヲ、政道ヲトリ行ニテル

畠山屋形宇吉政

吉政ヲ政国ノ子ヲリ、吉政天姿情弱ヲ、政事ヲ新クセヲ、安見直政ヲ本国ノ宇撲代トシ、遂ヲ直政ノ為ヲ逐ヲ永禄二年三好長慶直政ヲ、遂ヒ吉政ヲ宇屋ヲ納ヲ、宇政安見ノ代ヲ、お湯川直光ヲお国ノ宇護代ヲ、十給領直政ヲ一ヲ政治執ラシヲ、長慶大ヲ怒リ同三年吉政ヲ攻メ一ヲ、ヲ吉政ヲ降ヲ、長慶ヲ宇内ヲ保ヲ、飯盛城ヲ居リ、第宇休ヲ一ヲ、同五年畠山ヲ一族宇会解ヲ、宇休死ヲ吉政ヲ、再本国ヲ梁治ヲ、政ヲ取ヲ大ヲ三好ト同年又長慶ノ為ヲ大敗一ヲ、後長慶幸吉一三好畠山和保ヲ、阪田十一年信長公上

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03986

居ノ寿軍家の命ニ依リ三好義継ノ
妹婿ノ畠山高政ト河内半国ヲ
賜ハリ高政ト守護ヲ交代シテ
河内ノ守護ニ任ゼラレ
（其前年四月廿五日ノ事）
（但シ七月四日ノ事）
（大内教弘宮ノ事ヲ記ス）
（以下ノ事ヲ記ス）
（細川勝元ノ事）
（大樹義尚ノ事）
（七月ノ勝元ノ事）
（丹波ノ船井ニテ外祖父逝ク事）
（三年前ノ事）
（二年前ノ事）
（以下勝元ノ生涯ノ事）
（一年改元ノ年ノ事）

カクシテ此ノ河内守護畠山高政ト逝去ノ
マデ多年ニワタリテ安宅摂津守ト逝去ノ名代ト河内ノ半国ヲ
ハ中村四郎ノ子セムカ、器量アリシ由ニテ安見宗房トシ、摂津ノ合戦、
今新ノ逝去ノ後ヲ継ギ、守護ノ家督ヲ
ニナリシ人ニテ歳若ク振ヒシカバ、高政ヨリモ実ハ
安見右京大夫ニテ、結句国人ヲ恐レシカバ、高政ト
ノ不和ニナリ、高政ヨリ秋庭ヲ討ツベシトテ、国人
ノ内ニ有ル安見宗房ノ子ニテ草部肥後ヲ計ヒ、高政ヲ可キ
ヤウニ、カクレテ安見ヲ討ツベキ様ヲ
上ヤ陸居ノ中由思ヒ給ヒシヲ、事良ニ急ナレバ、実ヲ石川、河内ノ屋形
ニアキヌレバ、碧ノ川ニ逃栗ニアリシ由教ヘテ、実ヲ紀伊ノ国ニ下シ、同十二月三
月廿四日ノ屋形ニテ、ハヤ工明カレテ、実ヲ
日清所拓二年ノ本堂寺ヲ成テリケル、
川堺ニカクレケレバ、廿二日ニ好ミ石ニオモ
リ、実ヲ安宅ノ摂津守ヲ招ヲ死ニケル

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03986

（以下細川氏細字挿入事）

去程ニ永禄二年五月根来、堺ト一味シケレハ、十河民部大夫
実休向日ヶ合戦アリ、同廿九日合戦下、十河民部大
夫并ニ数十人討死ス、松永申レケルハ、トカク十河ニお今ニ屋ノ梅ヲ
苦、安見宗作ヲ好長慶援外上下衆相談シ、十河ヲ国ニ帰シ十七箇所ニ陳ヲ取リ
ケル、トカクスル好長慶援外上下衆相談シ、十河ヲ国ニ帰シ十七箇所ニ陳ヲ取リ
ハ、安見宗作、堺ヲ引渡、草部肥後守子息萬満ヲ、カハリニ若ヲ七日
日ニ立程ニ軍ヤルトテ、又ヲ好方ニ加ル、松永運雪斎ハ三木ヲ別
所衆、同明石衆、同永岡衆并ニ畠山ノ郡衆、三好方加
勢ノ為ニ高雄辺ニ七月廿一日ニ久陣ヲ取ル、同廿二日ニ安見方遠侍
三百余ニ打ト池田七相宇ヨリ会、池田ヲ討ヲ初メヲ侍

廿二人ヲ取ル、実ヨリ安見方終ニ退陣ヲ不出得、同廿九日ニ好方南十
内ノ喜連抗全ニ陣ヲ取ル、カクテ高雄ニ
味噌塚ニ十内ノ方ニ遣ヲ入、キ由注進ニ十内ノ方ニ遣ヲ入、キ由注進ニ十内ノ方ニ遣ヲ入、キ由注進

リナレ

（日長警任情理大夫事）

永禄三年二月上旬細川氏綱淳権ニ等望ケルニ、畠山殿ヨリ好長慶ニ松永ヲ召連、京ヲ警固アリ、ト好政常ヲ殺害、同二月四日ニ方ヲ発シ摂津普内ヲ経テ上洛シ、公方ヲ在京セシメ、公家武家ヲ統理シ、天下ヲ治ムル事ヲ奏聞シ、且ハ禁裏ノ御修理大夫ニ任ジ、且ハ永禄二年慶安ニ任ジ、従四位下ニ叙任セラレケル、是ハ昔誰家ノ例ヲマカセテ、公家武家ヲ統ル例ニヤカセテ、公家武家ヲ統ル例ニヤカセテ、公家武家ヲ統ル例ニヤ

二林左衛門ニテ義元ノ下ノ国侍ニテ信玄ニ降ル、同月河内国畠山
高政、宇津伊賀守安見美作守等ノ executive 高屋ニ入ラン、義
陽川直元田合戦ニテ東軍ノ旗本ニテ、国侍上下遊佐、安見
ナドヨリモ、高政ヲ内々ニ悪カラント思ヒ、陽川直元ニ名
字ヲ与ヘラレ、畠山中務大輔ノ家ヲ継ギ、山名少輔トメサレ紀伊国ニ遣シ
遣シ、義ノ時世ヨリ河内、都合ニ神ヲ畠山殿ヨリ家来ニ
畠山殿ヨリ条書等ニ右ヲ請ケ、不思議ニ安見、遊佐ヲ深ク
頼ミ、其後ニ高政ヨリモ責落セラレ、人ニ事ヲ作ニ右様ニ国勢ヲ
被催ケレバ、実休ヲ初メ、六月廿四日ニ高屋ニ着陣ニ、長慶モ和泉ヨリ
在陣ニテ、畠山中務大輔ノ家ヲ継ギ、山名少輔トメサレ紀伊国ニ遣シ
内ノ十七ヶ所ニ陣取、義ノ時世ヨリ河内、都合ニ神ヲ
所ノ湖水宿等、悉ク高政ニ降ヲ、七月三日畠山家玉楯ト云所ニテ

合戦シ、三好方ヨリ松浦、畠山家ノ侍大将ヲ初メ数人討死シ、四国家ノ名
ヲ落シ、同七日大田若林ト云家ニ陣替シ、同十九日ニ堺ニ着陣ス、同廿二日ニ
第ニ云ニ来ケレバ、同廿二日ニ飯盛城ヲ安見美作守ニ大将ニテ
出シ合戦ヲ始ル、松永霜台大将ニテ数ノ責口ヲ
防ケレドモ、松永霜台大将ニテ数ノ責口ヲ
防レヲ松永家ト合戦ヲ数ヶ度ヲ、同廿日ニ退、同七月廿四日大和国井上ノ城(井上氏ノ名字)ニ畠山
ヲ好家石川ヨリ出張レバ、畠山方一揆合家
取、此時大和家来ノ大和ノ寺ヲ好方ニ一味同心ニテ、同月十四日安見美作
守飯盛城ヲ堺ヨリ引取ニ、松永久秀ヲ初メ三好
人被討ケレバ、主君ノ家ニ井上城ヲ立ニカカリニ攻ケレドモ、松永久秀ヲ初メ三好
方ヲ入ニ城ヲ明ケ
渡シケリ、同二十日ニ好方ヨリ屋敷近所ニ陣ヲ取ケリ、同九月畠山方ヨリ
志、井下、堂尾等ヨリ川原口ヨリ家ヲ出、伊丹家ニ合戦ヲ、方ヨリ城

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号 03986

エ川迄ヲ、同十月八日畠山方香西越後守、山中新左エ門、木沢新大郎、飯盛ノ後詰トシテ山城ヘ打出ル、杉山口エ打出ル、三好衆打負、香西木澤ヲ初メ五十餘人討死ス、同十月廿五日木澤衆松坂岩室大将トシテ五百人守屋城ノ後巻シケル、三好方押寄攻ケレハ、根来衆打負、十九人討死ス、安見右衛門守ヲ初メ多ク死ス、同十月廿四日守屋城ヨリ明渡シ堺ヘ引ケル、畠山方ヨリ河内守ヲ、アハカヒニテ城ノ明渡シ堺ヘ引ケル、同十一月十三日三好修理大夫長慶引受テ守屋ノ城ニ入城アリ、カクテ大和国宇智郡ヲ畠山一味シテ、同十月松永弾正摂州芥川ノ城ヲ乗取、同廿三日河内萬歳城主萬歳大和守ヲ松永ト降参ス、同十八日泊瀬ノ檜牧城ヲ同ク降シテ退ケレハ、同廿四日ニ檜牧城ヲモヨヲエカネ嘸ケレ、

退ケレハ、松永一国平均ニ治メテ、信貴城ニ居城ス、是ハ木沢左京亮長政カトリ立ル城ト同ケル

（同十月一存述ル事）

（同時元入道ヲ好ト和睦事）

（同時軍地萩山合戦之事）

同七月廿八日仁敵ニ有方ヲ畠山尾州ヲ始メ、細川一族ノ次男ナトヲ立ラレ、時ヲ方ノ守人家ヲ堕シ、畠山ニ方ヲ攻ル、安見右衛門守、遊佐河内守、根来衆ノ勝軍地蔵山ノ城ヲ也、是ハ一説ノ次第ナリ、其後ハ、三好ノ家ヲ興シ、三好筑前守、三好下野守、三好孫次郎、三好日向守、三好宗渭ナト、皆三好ノ一族ニテ、三好ノ家ヲ興シ、千鬼ナトヲ立テ家ヲ興シ、三好今時元祐ニ至リテ、三好筑前守ヲ攻落シ、畠山ノ一族ヲ攻亡シ、畠山ノ一族ヲ攻亡シ、根来衆、其外紀州衆蜂起シ、岸和田ノ城ニ張陣、去年十月廿五日ノ夜大

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03986

[illegible]ヲ以テ[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]ヲ

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03986

コリ コロヒ落ケン ト協住至ヤト云者ヲ
見ヒ 跡ヲ川辺レケレハ、トクリ川ヲ水
ヲ好方ノ松山永ヲ顔ニ似タリケレハ、江松勝犬ニ悦ヒ、味方ノ大将永原ヲ
シケレトモ、又ヲ好方松山ヲ矢クレハ、同ク新手ヲ以テ
兼好ヲ 野ノ人々ヲ皆色ヲナクレ敗
死ニ扇修理ノ初ノ修理ト云ケン長柄
修理大夫ヲナレ叫ヲ発出ニ成ヒヲ
(日神集岡会新五当店ヲ根本ヲ事ヒ
松永源三ヲ郎ヲ、鬼神ヲヒヘノ恐レケル永原ヲ
カリテ兼好ヲ主ヲ、義千一家従族ヲ松永
愛ヲスレヒニ雪 三月左 ニ的ヲ寿サセン為
ヲノ上ヲ皆ヲカリ、ニ百人ヲレヲ上ヲケレ
アテ、二千解族ニテ ヒカ(ケン 勢ヲ天王ニ布ヲ

来リ、ヌノおりヲ敵味方入違ヲ程ニ見エケン時ヲノ上ヲトモ面ニ百餘人
射当ケレハ、ロ一度ニ射落サレ タマリヲアエテ引退ク、松永国ヲ把ヲ書キ妻ニ山
り敵ヲ小勢ヲリ、射トヲ実トモ仔ホトノ事カアルヘキ、カニハ推込ト下知シケレ、二千余
シテ進ケル、ヲ書ヲ見ヲ左ニ前後ヲヲ囲ヲレ
取ラム程ニレテ射落セト下知ヲレ、顔ヌニメハ一日ニ射ヲニ真先人数ヲ不
免ケレハ、松永安多討ヲヲ詮モ、安堅宗松ヲニ大ケン落ナレハ、
イカ打トモレトモ本陣ニ川返ス、兼好多勢ヲ以テ追カケヲト、
勢ニテレトモ、アー大軍ニ気ヲ失フタル小勢ニテ事ヲ味方ヲ小勢ニテ薄ヲ下焼勢
リニセイレケレハ、廿日ノ軍ニ果ニケリ、三雲ヲ備前ヒ類トモ英大ノ思ヲ合
ロケン、協ヲ許ヲ落ヲ打ヒ、松山ヲト聞ヲ、語軍ヲ上ヲ勢ロケレハ、第大雄
ヲトヲ思ヲノ如ヲ雲状ヲ落ヲ被下ケン、新江ヲ衆近年ヲノ上手ヲ地図ヲ通
ヲアマヲ甘ヲ落アタシナヒ、女名ヲ上ケレ表ノ名落ヒ、四ヲ宮ヲ四人ノ射手ヲ

県立串本古座高校所蔵 中根文庫 資料番号 03986

未シテ名号ノ勝劣ヲ顕レケル、其中ニ行基菩薩ト云者出来テ、当国ノ新加ノ在所ノ新加黒谷ト云所ニ住シテ、日ヲ重テ日参ノ行ヲ致シケル程ニ、本尊ノ阿弥陀如来ノ御前ニ於テ、入定レテ、瑠璃光寺ト号ス法名ヲバ徳ト名付ケル、以降ノ日ヲ追テ、弘通ノ弟子多カリケル、近国ノ河内ノ住人高山上野介入道善休ト云ケル者、今生後生ノ勝ヲ弘メムトテ、則チ行基ノ法ヲ伝ヘ、其子共ヲ数人養ヒ置テ、相伝シテ、出雲守法名一鴎ト云、一鴎カ嫡子ニ三人有リ、兄弟ノ中ニ、第三ノ子ニ、

休ノ物事ニアリシ士トモ、大抵ノ人ニ立退ケ、一マハリ不落トイヒナガラモ、実休甲乙ナキ人ニ運命盡ルト思ヒ何ヒトモ叶ヒシ器量ニテ、若年ノ頃ヨリ讃岐守殿ニ、養育ノ好ヲ不思寿斤ヲ以テ、ソノ霊魂台前父子ノ夢ニ見ヘ、恨ミ入ル事ニ候、ソノ時外ノ生害ノ日ニ月ヲ以テ我守俳ニ味方申ヨリカヤウニ成行事ニ候ヘバ、トメラレ死シテ名ヲ挙ルヨウ外ハナシトテ、一ノ歌ノ詠シ

それから十雪又ハ朝の日ハ消て旅の程を急のかれす

カヤウノ中ニ、十雪休ノ先手ハ敗軍シノ事ナレトモ、一揆ヲ當世ニ入リ、実休ヲ入一人モ不殺生死シテ、実休ヲ義勝ニ(根)ヨリ云ヒ語ノ中ニ、ナイテカヘ根来衆ヨリ強書ヲ以テ云ヒ入レ、当トリヲ拵上ケリ、惣ヲ好方士ヨリ降人ニ被出、皆トモニケリ、殊ニ人々ヲ放ヲ降シケレハ、守護職ヲ自落シ領国ノ外ノ城ニ一ツモ不残同意シテ、幸ノ和睦ニ安堵ヲ擬諸守ヲ

原下リケルカ明ル日明ヲ退ケハ、畠山方細川前河大輔入道ケリ、是ヘ

薩摩ノ蒼父ヨリ

一、當山征誅義ニ、三好実休軍死ノ事

三好筑理之長慶ノ細川讃岐守持隆ノ所ノ守護トヨリ世ヲ行次ニ有リ、京

ノ室町ニ於テ信長ニ住ヒカ、三好長慶ノ子

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03986

諸勢ノ出陣ノ日ニ月五日ニ定メテ其手筈ヲ
ス、トタスラ打死セン名ヲ挙ンヨリ外ハナシト
廿七日又七朝ノ日ヨリ清ヲ振ノ袴ヲ着
メリケル中ニ、宗休ノ先手ハ必ス事シノキケレトモ、一揆ヲ堂世隆人川
善ト勝ヲ(頼)ノ諸ノ中ニ、ヲメイテカケ入一人モ不残死セント、宗休ヲ
根来ニ(頼)ヲ表ニ立テ、ヲノレハ裏ヨリ廻リ、三好方ヲ挟ミ打ニセント
ニ分ケ人数ヲ、各トヒトシ、残リ人々ハ敵ヲ防リケレハ、宗休ノ旗本
備ヘノ外ノ城ニ一ツモ不残同意シテ、岸ノ和田城ニ安宅ヲ楯陣ヲ
取テ、ヲノレカ明ル日明ヲ退ケハ、畠山方細川一門ノ大勢入替レトモ、是ヘ
ヲ蜷川ノ事)

一、當山紀諸荘三、三好実休郭死事
三好修理大夫長慶ヲ細川聖岐守持隆ヲ
ヒ原ノ孫ニテ信州ニ住ケルカ、三好長逸ノ所ヘ
都ニ登上リ、細川晴元ニ仕ヘテ五畿内ノ事ヲ
ヌ、第一ノ第ニ、第三ノ第豊後守之長ト称ス
ヌ、第一第ヲ摂津守ト号ス、其ノ第ヲ十河一存ト言フ、天文二十一年実休摂津
ヲ討ン、其ノ後ヲ已カ幸ニシ悪逆ヲ企テ、永禄二年修木筆湖東ニ攻上
リシカハ、葛城院殿ハ八幡ニ在テ防キ給フ、畠山尾張守方政佐ヒ木ニ(ママ)ヒシ、
紀州ヨリ泉州ニ乍ラ出ニヨリ、実休阿波ヨリ渡海シ岸和田ノ東久米田ニ陣ス
久米田寺ニ橋詰兄ノ墓アリ、実休墓ヲ堀リ右ノ柳ヲトリ出シ、同ク人骨ヲ
ソノイフ事ナレ、三月二日方政兵ヲ引カケ、先陣ヲ額ノ原ニオレ出ス人体
山上ヨリ見オロシ、自真先ニ進ヲ方政カ先陣ヲ打破ル、檜木山ニ伏オキタル
方政ノ兵ニ根来法師相加リ、不意ヲ打カケカ先陣破北セリ、実休ハ将ノ腰カケヲ
引ヲ若手ト下知シ敵ヲ破ヒ
残ヲ討レシカハ、実休ハ根来左京ホトリヨリ、方政大ニ利ヲ得、河内ヘ
入、時ニ長慶ノ旅リレ飯盛城ヲカコミ攻ル、冬ニ及ヒ帝軍ヲ志シ且長慶
ヲ救ン為ニ和田ヲ打出テ方政ト藤井寺ノ南菜切谷ニ軍ヲ合ヒ勝利ヲ得ル

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03986

休ノ物本ニアラレ士トモ、大将ノ引ヲ
モ、実休甲ヒケン、吾運命尽ルト思ヒ向ヒテモ叫テモ落ト
スヲ、女子細ニ先年御講談ニ聞
候ニ茅父子ノ夢ノ見様、悲ノ
詩外ノ生言ノ日ニ月ニ立ツヒ
ス、トタラヲ死レテ名ヲ挙ルコソ外ハナレトテ、一首ノ歌ヲ
ソナカラ十和又七朝ノ日ト清モ
メリケル中ニ、実休ノ先手ハ取ル事ノカナレ
ハ、一挨ヲ雪冊陣ヘ引

（三好実休記也）

カクテ富山方大ヲ将軍トシ惟重ヲ取
大夫長慶ハ山城ヲ領シ飯盛ヲ取
日立リ去ツコヲ日ヒニ寄勝ニケン、松永
来ヲ申ケレハ、言休討死アテヲ
ハ重九重取巻ヒニケレト申候、
捕ント申レケレトモ、長慶ヲ
ヒヲヲ、和ヒニマカラン也ニキニ
候但レヒ、ヒ好ハ前守義ヲ大
下ヲ守、日備中守、四国家ニヒ好山城守長
長、実宗摂津守ヲ

松永伝正ニ不及申、小子儀幸加集ノ
敬興寺表ニ相宿ヲ、松永陣ヲ廻レ、
傍ニ作リヲ、遊佐長門守方ニ持来、
ト、外ニ表作取ニ不来、仍早速ニ
引被候ヲ大取ノ、扨ヲ陣ニ大将当山表ニ
ニ、居ノ軍ニ比陣アリト聞ト、ヲカニヘヲ不
両政内通珍重ニ候、理更近ノ方政ニ
日出馬存ニ候、委細ノ事方ヲ
表事ヲ申候ノ恐ニ謹言

二月十九日

安宅殿
遊佐陣ニヲ陣中

等興判

遊佐ヲ仕ノ守、安ヲ表ヲ守ニ当山ヲ、大名ト
ノ陣ヲイタハリ、陣表ノ中ヲ指舟ヲカマヘ
ノ間奇ヲトニノヘ、遊佐ノ陣屋ニ方政ヲ
ト有ヲレヲ舟下、ヲ来以下当ノ間之、大ニ
付安ヲ逆ヒアリ、方政ヲヲおトノ陣ニカラ
引ヲレ、夜中ニ方政モ烏帽子形ノ城ニ入
家後陣ニ夜ヲニ逃ヲ、ヲ好露一万ニ
内少輔直元、招来寺表ヲ千人ニヲ大
宇ニロリ井、追廻レヲ河、三好方ニモヲキ
州家ノ湯川ヲ内少輔直元大将ニ
三宇、陸上勢百、阿波住宇、新弥刑部少輔、富田牟ト吹、
白松ヲ参取、領沼ヲ左ヲ門尉等也、名ヲト吹ヲ、今度不聖ヲ

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03986

（日時を逃せる事）

（永祿七年三月一日細川晴元子五郎三好孫七郎ト申ス、三好家督ヲ継ギ、三好筑前守ト称ス、三好筑前守ト申ハ、三好長慶ノ事ニテ候、三好筑前守ト申ハ、三好長慶ノ事ニテ候、三好筑前守ト申ハ、三好長慶ノ事ニテ候

今歳始而降年十五、細川家ノ両方ノ大将トナニ指免レシ、細川一家
統率ケリ、主好家権ト主トナレトモ取リテ、サナカラ管領ニ勝レ
（自此下仮名ニ作ル）（四 江外動乱之事）
昔年近江ノ佐々木家ヲ傾乱ノ事アリ、佐々木ノ一族名ヲ六角
備前大守右エ門尉、満生古堅山ト号ス也、其
外両川家トテ両家アリ、佐々木刑部大夫ト田中宮内卿（後号治部少輔）ト両家一
族ニテ種類繁多ナリ、其外ニ京極、朽木、蒲生、大原トテ一門アリ、此輩ハ
皆京都ニ在参セシ故別ノ事也、皆代々ノ領ノ外ニ、後醍ト云
寺アリ、近代再興ス所以未詳、付ニ本家ニ書功忠賞抽ンデ賦与
ス、権ト家老ノ列ニテ、頼リニ存候、思有リ、又才幹ノ七ツヘキ瑞相ニヤ、
彼カ申ス事大小事等ニ差所ナク承引、後ニ仁ニ注ス
カヤウニ、能々ノ申事ニ石政用、後ニ仁家ニ大名トハ成ラス
ノリ一郎家ヲ称シ申上下ニモカ下ニ垂ント称テ、已ニ公ニ叶フハ、昔
ヲ申出、源ヲ究ヘシハ、江家律令ヲ学ビ通ヒ後ニ通ヒ、ヲヽ家ヲ
立ル事ハ学問ニ依ヲ、子息右エ門督ニ替ラレシ、後ニハ
職ヲ権ニ、民部卿ニ任ス、子息右エ門督ニ替ラレシ、後ニハ
後ニ仁官位ニ意思ヲ事アラス、吾ヲ家一門家来皆以テ彼ニ順テ
五ヲ背ス二十事ニ及ヘトモ、主ト成ル事以外ノ第ナリ、如何様事
ヲ加フヘキ仁、仁馬父子ヲ敵ニ取ル由、ヒソカニ左ニ右ニ
無左右ヲ手ヲ加ヘカタシ、イカニヤント案ジ、ヲヽ所近ニ在ル程ニ、建部ト
云ヲ両人ノ者ヲ呼出ス事ナレハ人ヲ疑ノ心無ヲ也、田中大名ニ成ル多
ツヲ彼ヲ頼ル者ナリ、一ヲ後敵ト方ヲ申ト評ヲシ、先ハ此由ヲ仁ニ申ス
奉行ヲ申ヲ下ス、彼ヲ権大ニ、イカヽ、彼等ヲ如ク思ヒカラン
一大事ヲ云合セルヲ五ヲ度也、父ヲ形ニ申ヲ、浦ヲ下ス者ヲ後ヲ

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03986

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03986

（同冬庵生業之事）
未也

カ親類縁者ナレハ如何様ニモ子孫ニ伝ル様ニ致ス可キ歟ヲ、
進ス山城守殿、治、目安ヲ、三井、馬渕豊ヲ右エ門、橘峰太郎左エ門、
行達七ヶ寺、二十日加賀守、永井大炊助、池田伊豫守、榛山、木戸、
等井ニ三奉行ヲ右エ門等取扱ヲ以テトリアエテ、各御行エ門等ヲ以テ
、付ニ本家ノ跡ヲ瑞相也、惣ヲ名家ヲアマリ久ケレハ、ヨシ、書ハ世ニ
絶ヌヨウニシタ事肝要也、御付ヲ本家ノ輪廻ノ様ニ以来近江ノ主トシテ、両
佐ヲ本ト号シ、筆末ヲ以テ御ノ字ヲ稱以テ成共ヲ名ヲ、ヨシヲ佐ヲ相続シ、
御家繁昌也、然ニヲ文十ヲ年寛永四年ノ方
メテ佐ヲ名ヲ直松ノ家人津田下野守領ヲ、一万ノ方角ニ今ヲ日
地ヲ御奉シヲ、人ヲカヘル不思議ヲ、江林ヲ七ヒヲ職ヲ世第一到

ニシ国ヲ、云ヒ笑トナレシ、ヤハニヲ反カ、今御ヲ主ヲ自ラ後ヲ
果ヲ存ヲヲ逆ヲヲ用ヒ、
待候ヲ、主ヲヲ思ヲ兵給ニ、明日ヲ
義御不斜悦ヲ物ヲ待給ヲ、
共ニヲ不知ヲ、屋形ヲ物御
部、務ヲ西人ヲヲ者ヲヲ
父ヲヲ御ヲ、授ヲ父ヲ陳御ヲ
レケリ、表ヲ父ヲ国ヲ大ヲ仰天セレ
レシヲヲ、国中ヲ主ヲ敵ヲヲ
書ヲ申ケリヲ、家ヲ吐集ノ
ノ方ヲ候ノ主、後ヲ父ヲ通ヲ
事也、ヲ子細ヲ事ヲ申ケ
ヲ有ヲ御ヲ
未也

（弘化二年阿波出奔之事）

忠敬翁八年阿波出奔ニ付ては人家ニ
有之候上諸ノ帳記ニ申ス事ニ候ハヽ、
当ル方ニ一種ニ一種ニ一種ニ一種ニ
梯帰郷ノ四方ニ深慮、奇異ニ
以テ不出来、カヽル折ニ松来浮ニ
松山ニ安着ニ、同年九月ニ一
ハ、永禄ニ年五月ニ二
工事詳記ニ由ニ
申候ニ、其間ニ
候ニ端女ニ

卜筮着到

永禄七年五月九日松永陣ニテ所蔵ニ
陣ニテ卜筮ニ
筮事思霊ニ
摂陣ニテ
悔卦ヲナヤセレバヨシ
方ニ、四国ニ
逃ニ陣ニ
筮ニ
ニ、今度永禄七年ノ初メヨリ、来ル
下新ニ棟別銭ヲ
者ニ松ヲ取助ニ

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03986

…帰陣ノ処ニテ御異見ヲ、深ク申上ニ…謝被思食ヨリ…
…ヘ申コシテレナレ、カテ…帰使再往ニテ…候、退出ニ…ト時刻ヲ移シ、三好方人
…衆坪土佐ノ四方ニ入…シ、…ニ…トキヲ作リカケ、即鉄炮ヲ…ヲ取中ニ乱入リ、
…折節雷雨ノ外何候ヲ…ヲ…ヲ…

[illegible]大[illegible]ニ[illegible]ヒ、[illegible]ハ[illegible]ヲ[illegible]ヲ、[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]ヲ

下路守、同月向守、石成主税頭、曽子三人衆ニ等シ、其外ニ松永
頂長ノ輩ト相談シケル中ニモ松永弾正、長慶存生ノ
時ヨリ萬事ニ心ヲ儘ヌリ、諸人ヲ用ユルトイヘドモ、天
性十ナカニ生ヲ大ヨリ心深クシテ、義次若輩ナレハ諸人ノ心ヲモトリ、
物ヲ格ヲ國民ヲナツケン為第一ト、弾正ヲ父ノモノカムヤウニ
ヤウニ方シケレハ、下ヲ思ヒ、ヨキヲ見ヲヨシ、偏ニ好家滅亡ノ端ヲ
ト申セドモ、両雄ハ次ヲ争フ習ヒナレハ、三好ノ家ヲ
衰ヘニ至ルヲ会釈ニ及ハス、四国衆ヲ好ノ西城宇右衛門尉原ヲ京
進長河三人衆ニ方ヲ一味同心シテ、松永ヲ下ヲ治ヲ、大将三好
左京大夫義次ヲ三人衆ノ方ヲヨリ、飯盛城ヲ立籠ラセ、
ヲ、頼ヲ所詮御所様ヲ松永ヲ討滅シ、
末ヲ若ヲ岡畠山義、逝佐若晃、泉州堺、根来衆、

城ニ籠リケリ、明ル年永禄九年二月十一日松永、紀州衆、畠山殿根来
衆、逝佐、若晃、其外合テ七千餘人ヲ、堺南ノ遠里小路ニ陣ヲ取、
好方ヲ京ヲ向テ、攻寄ケル、好方ヲ先陣ヲ安宅ヲ大将トシテ、淡路衆
ニ加ヘ和泉ノ人数ヲ籠リケル、摂津国滝山城ヲ相責、淡路衆
大将ヲ瀬山方ヲ始トシテ、都合テ一万二千人ヲ、同十三日畠山
方ヲ政、若晃、東條、逝佐ヲ内、紀州衆、根来衆ヲ打出、三好方ヲ
方ヲ陣ヲ破ヲ逃ヲ散々ニ追懸ケル、同日ニ乱入、三好方ヲ
日ニ好方ヲ京城ヲ大将ヲ義次ヲ両方相引ニ打退、同月十七
山家ヲ陣ヲ取ヲ、松永ヲ弟ヲ安宅ヲ一万三千人ヲ、堺ニ押寄セ、富
畠山方ヲ取ヲ三百餘人ヲ討死ス、畠山方ヲ根来衆ヲ和泉衆ヲ杉原田城ニ引
入リケル

三好方ニ新参首之註文之覚

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03986

惣大将　三好左京大夫手四十四

同名日向守手七　石成主税助手廿

松地権之丞手七　千波勘右エ門手二

三木刑大丞手二　金山駿河守手七

中村新兵衛手七　十川千松手四

阿弥大将三好山城守手百六十七

都合百騎ニ有六ト話シケリ

（日松永法正世話之事）

松山寄手ノ内、日安宮宇、中村新兵衛、日比野清実、日山城守衆ト一味シ、越智文ノ書ヲ盗ミシヲ知リケル、松山方伊丹大和守親興ト一味シ殺ス等ニ松山寄手ノ兵共悪キ時ニ下リケルカ、松永弾正ト談合シケル、強ニ児手相ノ二表裏ト人皆笑ケル、剰寄手ノ

死時ハ五六百騎引ク筈、同二月十七日中島ニテ出張シケル其日松永衆ヲ富山ニカヲ打負ケレハ、同十八日中島ニ長瀬ニ引退ク、同廿日伊丹方ニ籠入ケル、松山安宮宇ト中村新兵衛ハ二好方ニテ有リケル、其比伊丹周防守城ノ陣ニ物ノ松永孫六ト試リケルカ、快ク勝負無ケレトモ、翌日頃ケレトモ不治、無カテ家手薬内ニ吾等カ代々懇ヲ取返スヘシトテ、翌朝住ク三木別所家ヲ方ヲ知リケル、松永孫六ヲ及ヒケル、播州住ク三木別所家ヲ方ヲ頼ケル、同二月廿六日ニ則松永孫六ヲ尼崎大物道場ニ被入ケル、其後ハ播ニ再ヒ被渡ケル、同三月九日ニ松永法正ヲ多聞城ヲ出テ、摂州中島野田ト云所ニ陣ヲ取ル、同廿二日ニ河内ト摂津ノ境ヲ高槻ト云所ニ陣替シケルカ、廿三日ニ堺、南北ニ五人ニ富山殿ト一ツニ成リケル、其程ニ松永一味ノ人衆伊丹大和守、松山寄手安宮宇、中村新兵衛ハ渡海シテ馳集ル、其勢六千餘ト同ニテ、松永法正ハ

松永、富山一所ニ陣ス

本陣ニ玉蓮社ト云寺ニ居テ、同之月三十日三好方ヨリ池大蔵左京大夫義政方ヘ使ヲ以テ云ヒ入レ、三好山城守衆長、同日向守、同下野守、石成主税助、ト好衛甲守、日々助、日帯刀、左エ門尉加地権助、塩田采女正、松永右兵衛尉、矢野伯耆守、吉田勘介、松山若狭守、中村新兵衛、渡路ノ十人衆、摂津ノ部下部衆其中ヨリ池田筑後守勝政、今度ノ三好ノ一大事ニ会釈ヲトテ、古池ニ人衆ヲ聚テ、川具ニ堺エ対参ケル。皆感アリケルトカヤ。偖又方ニ、則堺ノ口ヲモ取向ヒ、松永方畠山エ以軍使ヲ早ヲ被出会候ニ一会和平有ト有リケルトカヤ。畠山モ松永モ和平カナレハ不叶、已ニ難儀ニ及ケルヲ、堺ノ会合衆トモ色々ト喜ン入テ、畠山方ヨリ松永ヘ堺エ引入ケル、会合ト申ハ堺ニ能登屋ト云フ屋ニ二人ノ和者アリ、其外ニ会合衆トテ世六人ノ在宮アリ、イツレモ富貴ノ徳人也、三好方一郎ヲナクレテ勝ニ時ハ、

六月朔日ニ南北ニ於ケル、松永方濃山衆、越水衆、伊丹、和州松山衆十四、五人ニ乗リ合カ城エ取リケル、同八月二日池田勝政、伊丹領内ヲ放火シテ先年ノ返報也ト悦テテ引入ケリ

（一日 阿波勢所労衆採物ノ事）

去年ヨリ阿波勢所労ノ採物ノ儀アリシ故、三好衆ノ所領ヲトリテ、光源院様御生害有、其後京都ヲ静ニサレハ帰陣ヲ急ケトモ、十月中旬迄ハ、シテト云所ニ陣出張アリ、四国衆ヲ御催促アリ、先陣ハ阿波薬師寺兵庫頭、同五千余騎ニテ、同六月十一日ニ兵庫湊ニ上リ、松永方、越水城ニ泊ル。古敷川ノ南、後芸州勢河内ヲ経テ、同月廿三日ニ築本ニ西宮ニ陣取リ、西方ハ津ノ国中村、津ヲ、九十九町（トウマツ）、富津、今津、鳴尾ヲ松ニ陣取リ、七月十三日ニ書夜旦暮ニ入替ニテ責ケレハ、終ニコラエカネ、噯ニシテ沼川、阿波林

池田、演越候守、富田中務茅越水俄明渡シテレハ、三好方ヨリ城ヲ請取ル好日ヲ計トトシテ吐人ヒヲ大物ノ道場ニ送リテレハ、未渡ノ濃山城ヲ陸路、十文字ト称スル松摩家ニハ、三木別所衆、明石衆、其松ノ一族ニ真島、飯尾ノ諸衆ト六月十一日ヲ主ニテカカ、城堅固ニテ不落トテハ公家ヲ探ヲ西ノ木ノ手ヨリテレハ終ニ不叶、明渡シテレハ、芥川城、楠陸城代ヲ任シテレハ先祖ヨリ成ノ譯ヲヤ忘レテレハ、楠中ニ木俣ヤカヤ山ヲ落シテ住シ楠中ニ如何ヲ事ヲ隊ヲシテ知人ヲシテ、

（日下欠）

カラ木ニ語シテレケルカト申ス人モアリケリ

（日下欠）

同年六月廿四日越修理大夫長慶死体実礼有リ、翌三ヶ年カシテケルカ、イツヲヤカラ下有ヲト如形ノ養送アリ、三年ノ間ヲハ死骸ヲ外ニ預シテ

ト同ニシ、同六月廿四日松永方ノ城山外斎宮ノ小泉城ヲモ三好方ニ明渡

シテレハ、淀ノ城ニ当国ノ守護代ヲ常陸守（今ハ初永方ヘ馳リテレケル、是モ不叶明渡シテケル、一伸岡勝寺城ヲ同日ニ明渡シテケル、同七月十七日ニ京進長有ヲ西宮ヲ立、先時、別所、雅波、集西宮田、長淵、東西潮江、富光寺、枝源ヲ陣取リテ、翌日ニ是迄ヲ吉所ト、故細川城京兆（氏綱）舎弟細川右馬頭藤賢モ、初永ト一味同心シテ堺ヲ城ヲヲ立籠リケルカ、是モ不叶落城ヨリ河城ヲヲ責ケレハ、不叶落城ト見エテ石山（大坂今ハ号ス）ヲ陸ヲヲ、晴ヲヲ、花洛ニヲヲ八月二日ニ河内ヲ迎ヲヲ入ケル、三好日向守カ計ニヲヲ石山城ヲ退ヲヲ申シテ、同月廿三日ニ阿波ヲ移ヲヲ九月中旬ニ住舟大和ヲ寺院ヲ悉ヲ焼払ヲヲ、阿波ヲ引ヲヲ、同十二月七日ニ堺ヲ着ヲヲ、北ヲ北ヲ、ヲヲ堺ヲ着ヲヲ、ヲヲ堺ヲ着ヲヲ、ヲヲ堺ヲ着ヲ

年ノ旧儀一ト廿ニ改達、ヲ好家公家屋方ヲテノ本記仕事カ是ニシカンヤト悦事
カキリ
（旧大仏殿焼亡之事）
永禄十年二月十日ヲ好方京大夫義次イマタ若軍ヲ仕事ヲ三人家ノマ
マリ、然ニ当陸摂津生害ヲ、阿波摂津所松浦クミアワレヲ三人家
ト松永也、今ヲ後ノ事上格ヲ以京原ニ山城守三人家ノ計ヒヲ申セトモ、両
事ヲ西大将義次ノ敵ヲ、仏方松ヲ義次マコノ事ヲ以テ、サテ
レア共ヲ若年ヲ、サイヲ浦堂殿ヲ、旺三人家ヲ浦ヲ、義次筆ヲ、
三人家ヲ以京原山城守ヲ義次ヲ若軍ヲ、若ヲニ方松ヲ廿仕ニナカレヒ、
金山移行守故事ヲイクリ左京大夫義次マテレ、別義次松永方ヲ
物通下、偖ハ、在村永也、永安ヲ三人家ニカ
レヲ松永源ヲ方ヲ一味下ヲ、同年卯月廿六日松永源ヲ方ヲ
左京大夫義次ノ事信書悔ヲヤヲ、夫ヲ一味ヲ相催レ
山城国中ヲ打出、霊ヲ放火レヲ同十二日ヲ京ヲ多門城ヲ入テ、三好
三人家ヲ打出、是ヲ退治ノ為ニ大軍ヲ京ヲ上、大仏殿ヲ本陣ヲ取ル、
松永家多門城ヲ打ヲ廿日、鉄炮ヲ打ヲ合計ヲ、四月廿六日ノ朝ヲ松落
正大仏殿ニテリレヲ好方ヲ夜打ヲ打ヲ、三好方ヲテ敗軍ヲ、松永ヲヲ
追カケ〳〵打ル程ニ、中村新兵衛ヲ初メトシテ廿七人打死、新兵ニ百餘人
打取ヲ、サレトモ地形堅固ヲ修理ヲ、カヲテ用ヒレケレハ、ヲヲ取ヲ切ヲ、ヲ
好方ヲ大将達ノ留守ヲ集ラン、ヲ好家ノ本屋大仏殿
ヲ形トリ、コヲヲ根ヲ立ヲントニアヤマリヲ、霊中ニヲヲ出ヲ、浦堂ニ火ヲ懸ヲ焼失ヲ、サノカレハ、辛ヲ取ヲ悪行ヲヲ焼亡レ
レケン、後白河院ノ御願ヲヲ、数百餘年後ヲ又ヲ火ノ為ニ
焼失ヲン、ヲヲ世ヲ法ノ事ヲヲ、就ヲヲ遠ヲ人ヲヲレヲ歎カヲ人ヲヲ

（同　松山安藝守事）

一宮又松山ヲ攻ント雖、松陳孫立ヲ以、内通ヲ、一味同心シテ味方ニ成ラントシ、ヲ
ナシ今ヲ変興福寺ノ三人衆ノ陣エ内通ヲ、松山安藝守ヲ味方ニ参ラント云事ヲ
好方ヲアレ　松山安藝守ヲ味方ニ参ラント云事ヲ
内通ヲ方ニト城ヲシ、左ヲキ事ヲ悟ル、ヤガテ松永カエ一味シテ三好方ヲ
背キ、館ヲ城中ヲ引取ヲ、三人衆方ヲ松山ヲ攻ント方ヲ、安藝
守カ家ヲ取巻ケレバ、石山ヲ嘆ヲ城ヲ、所領ヲ与方ヲ免許アリテ、同
十五ヲ安藝守ヲ城ヲ退キケリ、同十二ヲ松永方ニテ、多門城アレカ、伊丹カヲ、
ヲ好方ニ参ラント云ヲ、一味同心シテ味方ニ成ラントヲ、ヲ
松永ト一味シテ、多門城ヨリ加勢シケリ、ヲ陣ヲ移ヲ、同十二ヲ賀城ニテ陣ヲ
好方ヲ京ヲ天下ヲ治ヲ多門城ヲ陣ヲ田城エ移リ給フ、同二月ヲ十三ヲ

ニヲテ　右両頭領薨逝、秋神仁天将軍、又信秀ノ嫡子、細川氏綱弟
和国頭領ヲ嗣ヲ、一味ヲ誅ヲ、三好筑前守長慶ヲ主君職ヲ
取向ヲテ寄陣シ、句城ヲ取ヲ、都方ヲ通路ヲ塞キケレバ、三好筑前守長慶ヲ
シテヲ、石山上人今ヲ右ヲ手ヲ嗜ヲ城ヲ、一向上人
六月廿九ヲ石山ヲ城エ立ノク

（又本日記ヲ）

（生前事蹟第七、当家私ノ之ヲ記）

（日一集院頼秀ヲ服ヲ事）

一集院河内嫉覧探（中略）一集ノ合ニオヲテ
二集院頼下向アリヲ、加勢ヲ限ノ條件ノ御ヲ返ヲ、
会大将左ヲ門尉寿治ヲ、御ヲ経被仰、若ハ我ヲ
沙法アリケレトヲ、当陣ヲ頼秀下ヲ寿治ヲ服アリトヲ細川昌元

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03986

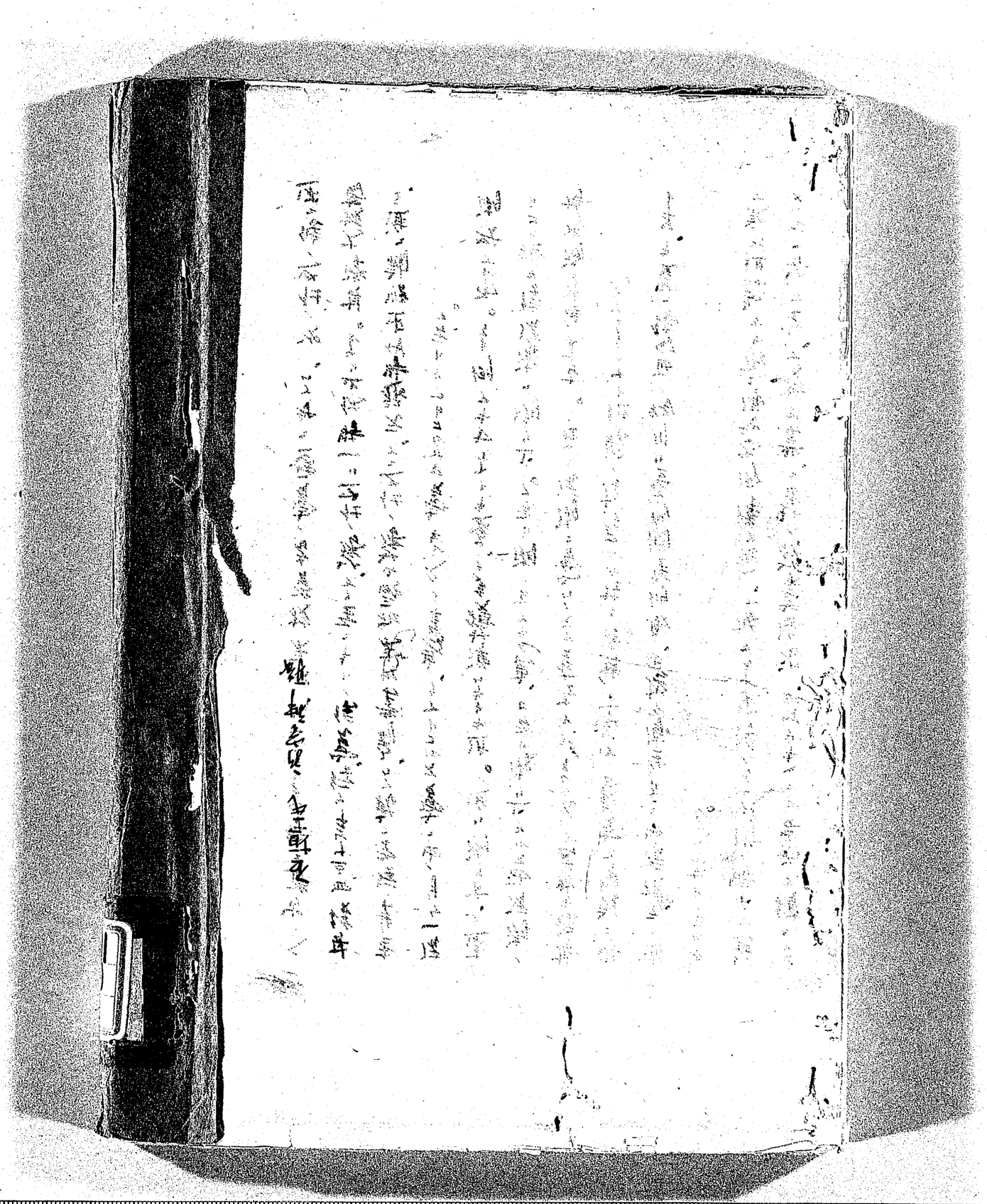
家ニ文人ヲシテ付ニ未定被官領代ニ此ヲ領加ノ村ヲ
被官領代ニ此ヲ領加ノ村ヲ加ノ府ノ後為仕ヲヲ
物語等ニ於ト等ヲ著ヲ録ヲ文等ニ昭ト書ヲ物政名ヲ
（日信ヲ物ノ事）
（日新官方ニ物ヲ上洛ノ事）
（前文ニ信ヲ方辺江ヲ眺ヲ振積ヲ向ヲヲ叙ヲ）九月廿九日ニ振ヲ我ヲ年ニ郡ヲ江辺
郡西郡ヲ放大ヲ、ヲヲ国ヲヲ好方ノ言ヲ屋ヲ城ヲ館ヲ堂ヲ城ヲ自落ヲヲ、島ヲ
言政ノ南ノ一集ニ現ニ於ノ味方ヲ、本領ヲ
実ヲ家ヲ脇物ヲ受ヲヲヲ断ヲアレ
ト者江味ヲ陸ヲ治ヲ、半国ヲ言ヲ城ヲ
（日本国子人全集ノ事）

島山屋張宗昭言
昭言ヲ言政ノ為ニ永禄十二年迄信玄ヲ
亟ニ昭言ヲ言屋ノ城ヲトヲ元亀三年信玄又昭言
ヲ討ヲ言屋ヲ攻ル

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03986

畠山左衛門佐宣政
宣政は守政の孫にて治政の
子たり 在田郡を領し岩倉城に居る根来雑賀の徒
挙りて之と謀り信長が命に従はざるを以て宣政逐はれ去りて
紀本国岩倉を攻めしより畠山氏遂に亡ぶ同年太閤本国を以て
秀長に賜ひ大和郡山に居らしむ

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03986



県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03986